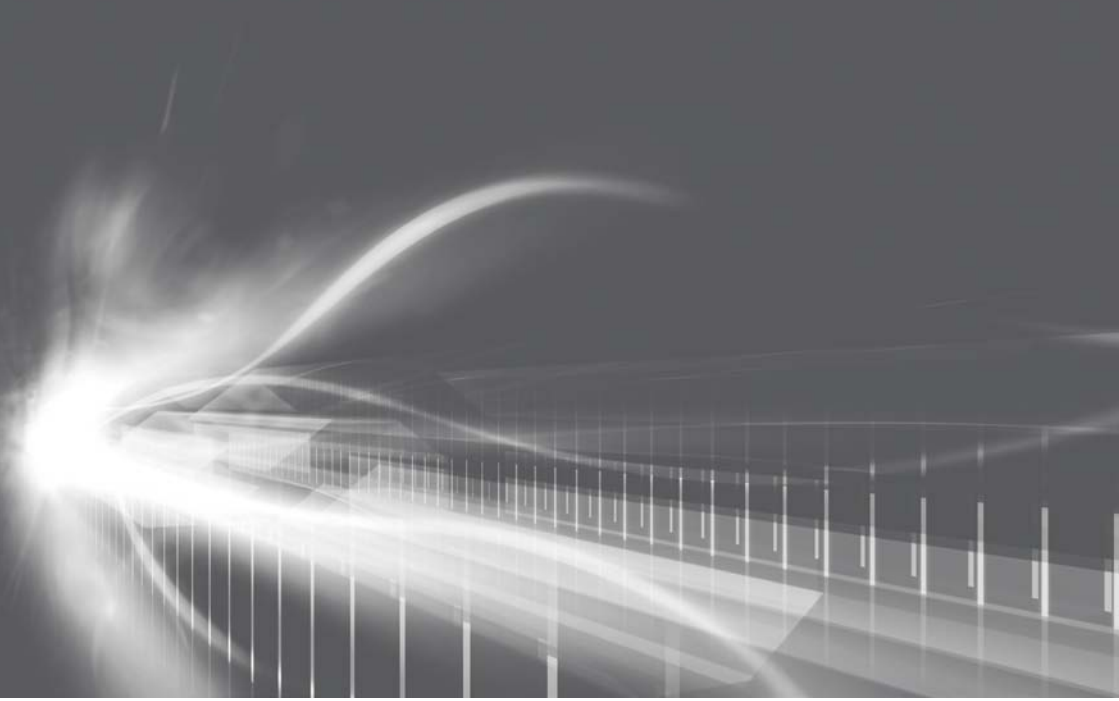


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SIENTA

TOYOTA

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転　運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能　室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
- 症状から検索
- 音から検索
- アルファベットで検索
- 五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 32
お子さまの安全のために 41
チャイルドシート 42
排気ガスに対する注意 66
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 67

2 メーターの見方

2. メーターの見方
警告灯／表示灯 70
計器類 74
ドライブモニターディスプレイ 78
マルチインフォメーションディスプレイ 83

3 各部の操作

3-1. キー
キー 96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 101
スライドドア 107
バックドア 121
スマートエントリー&スタートシステム 126
3-3. シートの調整
フロントシート 132
セカンドシート 133
サードシート 139
ヘッドレスト 140
シートアレンジ 143
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 149
インナーミラー 151
ドアミラー 152
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 154

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 158
荷物を積むときの注意 167

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車） 168
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車） 171
オートマチックトランスミッション 178
方向指示レバー 180
パーキングブレーキ 181

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 182
フォグランプスイッチ 186
ワイパー&ウォッシャー（フロント） 187
ワイパー&ウォッシャー（リヤ） 189

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 191

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C 194
PCS（プリクラッシュセーフティシステム） 199
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報） 207
AHB（オートマチックハイビーム） 213
先行車発進告知機能 217

4-6. 運転支援装置について

Stop & Start System（SMART STOP） 219
運転を補助する装置 235

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 241

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン 246
オートエアコン 251
シートヒーター 257

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 259
・パーソナルランプ／フロントルームランプ 260
・リヤルームランプ 260

5-3. 収納装備

収納装備一覧 262
・グローブボックス 263
・助手席アッパーボックス 263
・カップホルダー／ボトルホルダー 264
ラゲージルーム内装備 266
・デッキボード 266
・デッキアンダートレイ 266
・デッキフック 267

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 268
・サンバイザー.....268
・バニティミラー.....268
・アクセサリーソケット 269
・買い物フック.....270
・カードホルダー.....271
・アシストグリップ.....272
・時計 273
・アームレスト.....274
・ステアリングスイッチ 275

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....278
内装の手入れ.....282
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....285
ガレージジャッキ 287
ウォッシャー液の補充 288
タイヤについて.....289
タイヤ空気圧について 293
エアコンフィルターの交換....295
フロントワイパーゴムの交換.....298
キーの電池交換.....300
ヒューズの点検・交換 303
電球（バルブ）の交換 306

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 328
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 329
発炎筒 330
車両を緊急停止するには..... 332
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 334
警告灯がついたときは 340
警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）..... 348
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 352
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 362
エンジンがかからないときは..... 378
シフトレバーがシフトできないときは..... 380
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）..... 381
バッテリーがあがったときは 383
オーバーヒートしたときは... 388
スタックしたときは 391

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....394
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....402
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 405

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 408
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 412
アルファベット順さくいん..... 414
五十音順さくいん 416

スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」も併せてお読みください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense C★

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

本書の見方

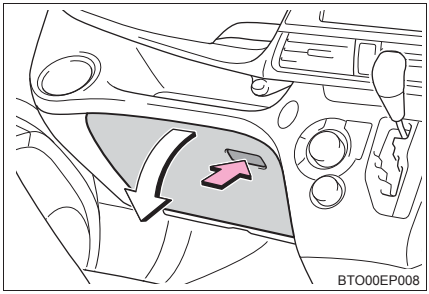
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

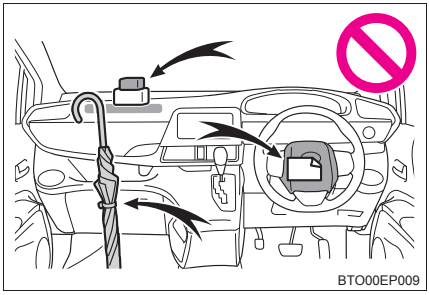
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

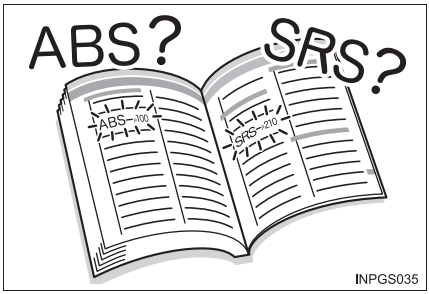


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

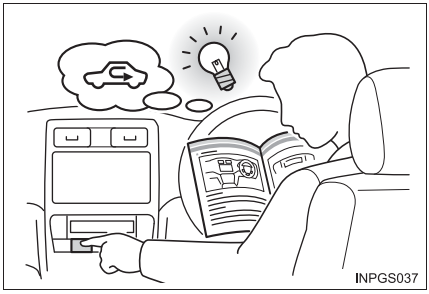
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....416
・アルファベット順
さくいん.....414



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

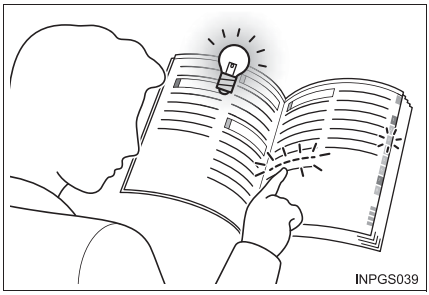


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....408
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....412

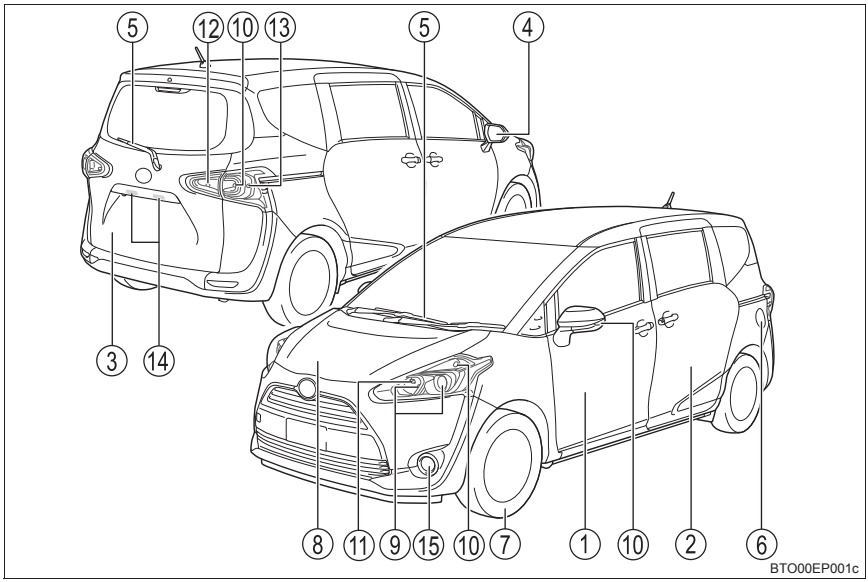
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 306)

① **ドア** . . . . . **P. 101**

施錠／解錠 . . . . . P. 101, 103

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 154

キーでの施錠／解錠★ . . . . . P. 102, 381

警告灯★・警告メッセージ★ . . . . . P. 342, 348

② **スライドドア** . . . . . P. 107

施錠／解錠 . . . . . P. 107

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 154

車内から開ける . . . . . P. 110

車外から開ける . . . . . P. 108

警告灯★・警告メッセージ★ . . . . . P. 342, 348

③ **バックドア** . . . . . **P. 121**

施錠／解錠 . . . . . P. 121

警告灯★・警告メッセージ★ . . . . . P. 342, 348

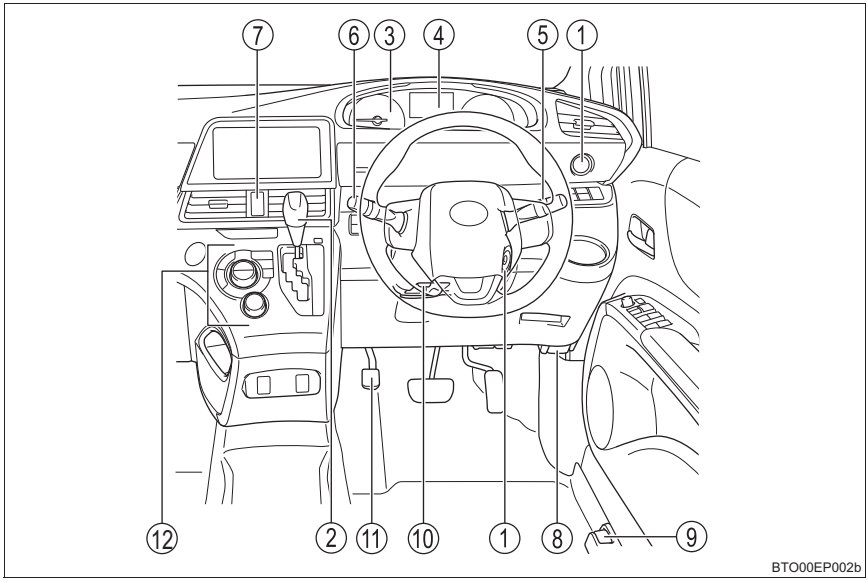
④ **ドアミラー** . . . . . **P. 152**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 152
ミラーの格納 . . . . . P. 152
⑤ **ワイパー** . . . . . **P. 187, 189**
冬季の注意 . . . . . P. 242
ワイパーゴムの交換 . . . . . P. 298
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 247, 253
⑥ **給油口** . . . . . **P. 191**
給油方法 . . . . . P. 191
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 191, 394
⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 289**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 400
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 242
点検・ローテーション . . . . . P. 289
パンク時の対処 . . . . . P. 352, 362
⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 285**
開け方 . . . . . P. 285
エンジンオイル . . . . . P. 394
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 388

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 306, ワット数：P. 401）

⑨ **ヘッドランプ** . . . . . **P. 182**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 180**
⑪ **車幅灯** . . . . . **P. 182**
⑫ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 178
⑬ **尾灯** . . . . . **P. 182**
⑭ **番号灯** . . . . . **P. 182**
⑮ **フロントフォグランプ★** . . . . . **P. 186**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

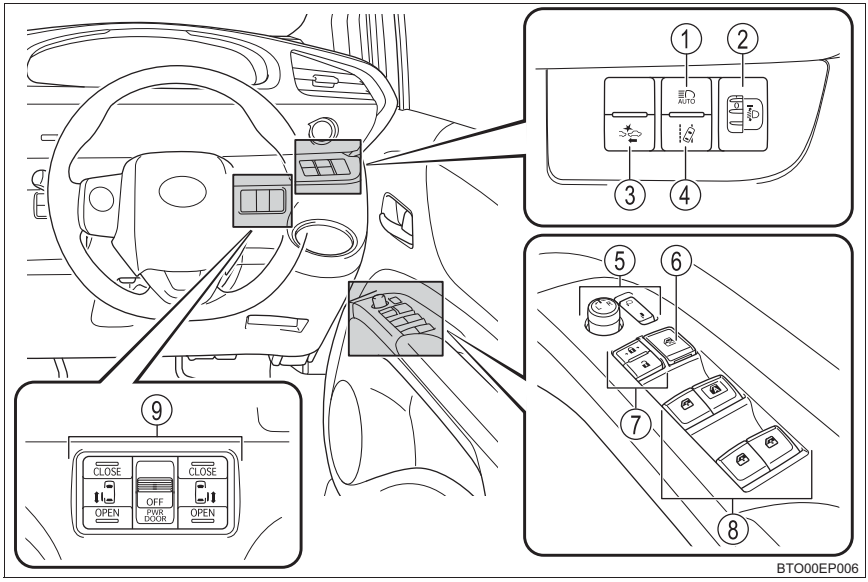


① **エンジンスイッチ . . . . . P. 168, 171**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 168, 171
エンジンの緊急停止 . . . . . P. 332
エンジンが始動できないときの対処 . . . . . P. 378
警告灯★・警告メッセージ★ . . . . . P. 345, 348
② **シフトレバー . . . . . P. 178**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 178
けん引時の注意 . . . . . P. 339
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 380
③ **メーター . . . . . P. 74, 75**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 76
警告灯／表示灯 . . . . . P. 70
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 340

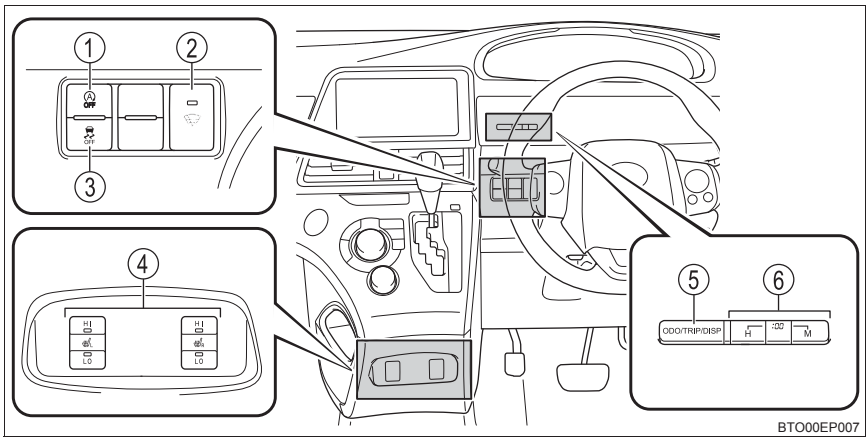
④ **ドライブモニターディスプレイ★ . . . . . P. 78**
マルチインフォメーションディスプレイ★ . . . . . P. 83
表示内容 . . . . . P. 78, 83
警告メッセージ表示時の対処★ . . . . . P. 348
⑤ **方向指示レバー . . . . . P. 180**
ランプスイッチ . . . . . P. 182
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 182
フロントフォグランプ★ . . . . . P. 186
⑥ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . P. 187, 189**
使い方 . . . . . P. 187, 189
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 288
⑦ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 329**
⑧ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 285**
⑨ **給油口オープナー . . . . . P. 191**
⑩ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 149**
⑪ **パーキングブレーキ . . . . . P. 181**
かける・解除する . . . . . P. 181
冬季の注意 . . . . . P. 242
警告ブザー・警告メッセージ★ . . . . . P. 344, 348
⑫ **マニュアルエアコン★ . . . . . P. 246**
オートエアコン★ . . . . . P. 251
操作方法 . . . . . P. 246, 251
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 247, 253

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類

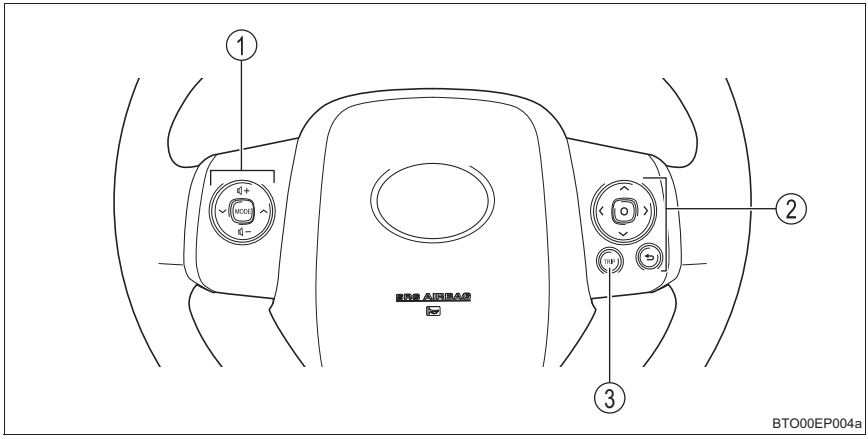


① オートマチックハイビームスイッチ★ .....P. 213
② 手動光軸調整ダイヤル★ .....P. 183
③ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ★ .....P. 200
④ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★.....P. 208
⑤ ドアミラースイッチ .....P. 152
⑥ ウインドウロックスイッチ .....P. 154
⑦ ドアロックスイッチ .....P. 103
⑧ パワーウインドウスイッチ .....P. 154
⑨ パワースライドドアスイッチ★ .....P. 110



① Stop & Start キャンセルスイッチ★ .....P. 221
② ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 247, 253
③ VSC OFF スイッチ .....P. 236, 237
④ シートヒータースイッチ★.....P. 257
⑤ 表示切りかえスイッチ★ .....P. 78
⑥ 時刻調整スイッチ .....P. 273

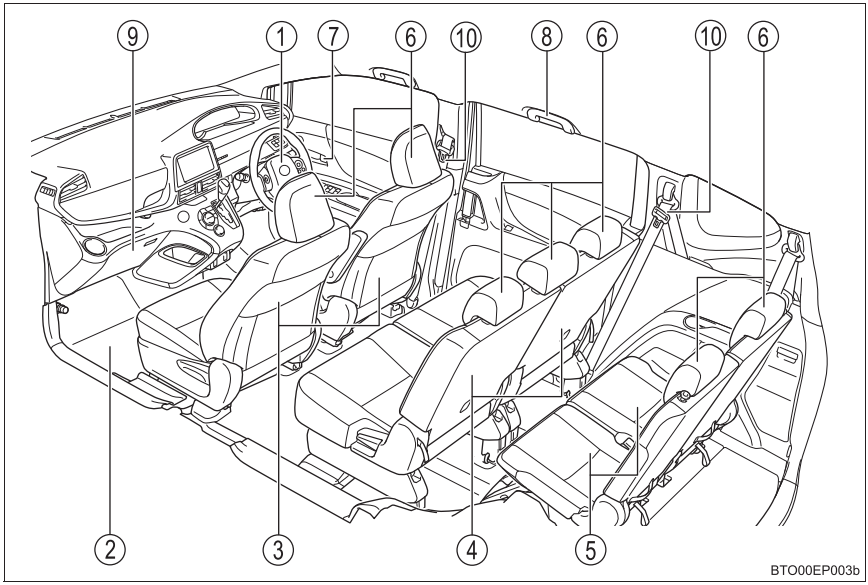
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



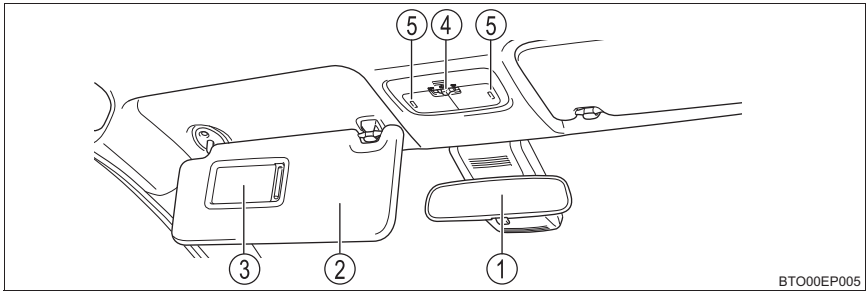
① オーディオ操作スイッチ★ . . . . . P. 275
② メーター操作スイッチ★ . . . . . P. 84
③ 表示切りかえスイッチ★ . . . . . P. 76

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内

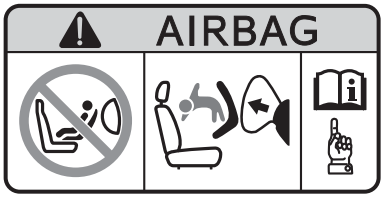


① SRS エアバッグ . . . . . P. 32
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 132
④ セカンドシート . . . . . P. 133
⑤ サードシート . . . . . P. 139
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 140
⑦ ロックレバー . . . . . P. 104
⑧ アシストグリップ . . . . . P. 272
⑨ グローブボックス . . . . . P. 263
⑩ シートベルト . . . . . P. 26



① インナーミラー.....P. 151
② サンバイザー※.....P. 268
③ バニティミラー.....P. 268
④ フロントルームランプ.....P. 260
⑤ パーソナルランプ.....P. 260

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P. 48)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために 24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....32
お子さまの安全のために 41
チャイルドシート.....42
排気ガスに対する注意 66
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.....67

運転する前に

点検整備

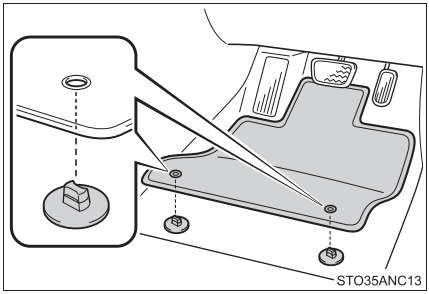
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

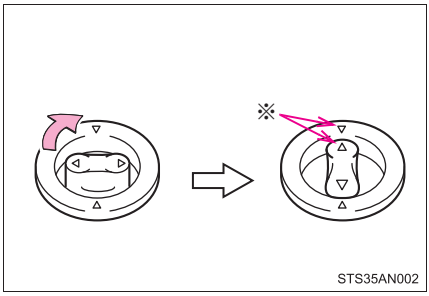
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

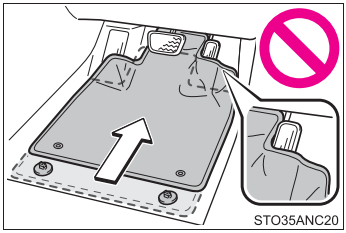
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

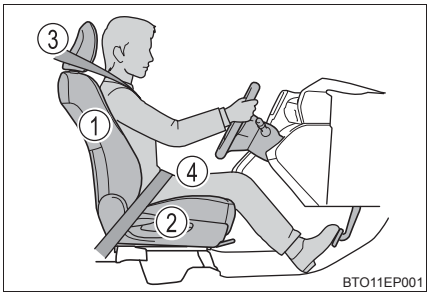
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 132）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 132）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 140）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 151, 152）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

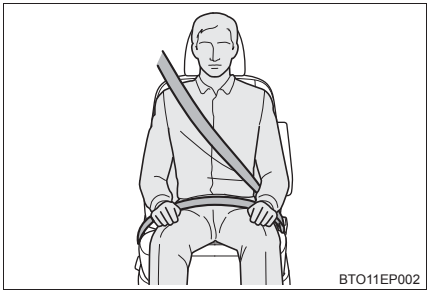
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

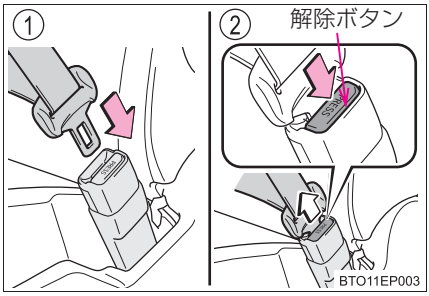
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（7 人乗り車のセカンドシート中央席を除く）

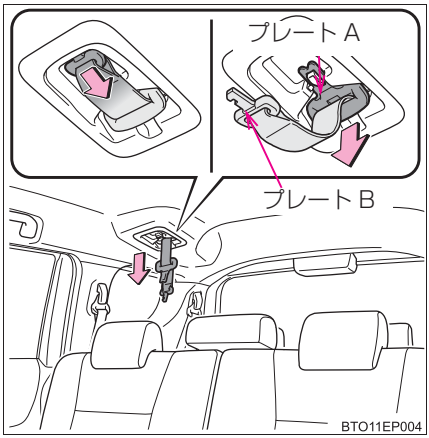
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（7 人乗り車のセカンドシート中央席）

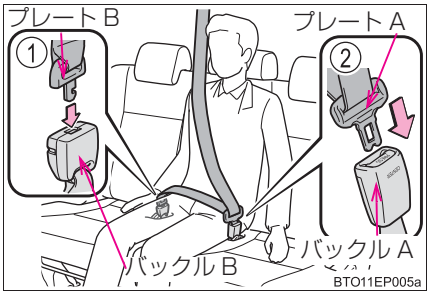
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレート B、プレート A の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

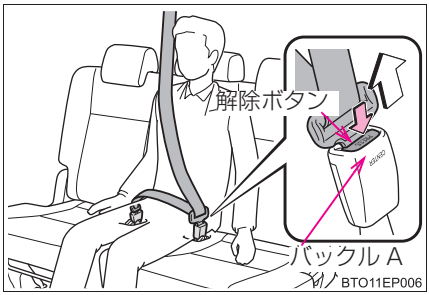
① プレート B、バックル B

② プレート A、バックル A



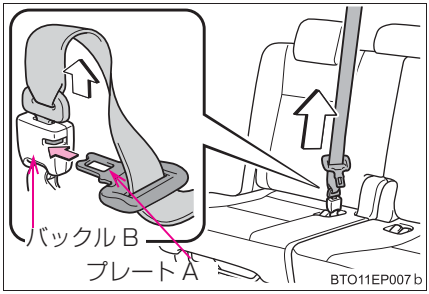
はずし方・格納の仕方（7 人乗り車のセカンドシート中央席）

1 バックル A の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



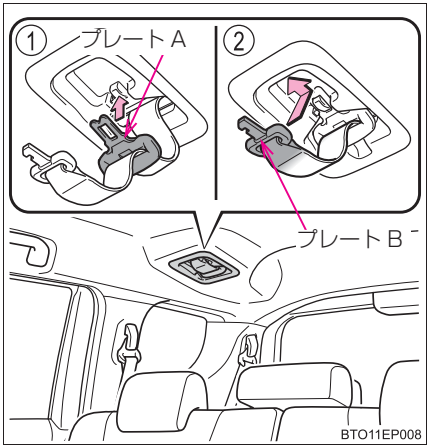
2 キー、またはプレート A をバックル B に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

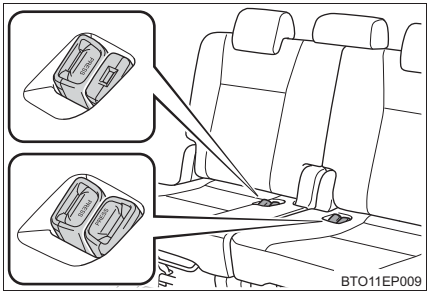


3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。



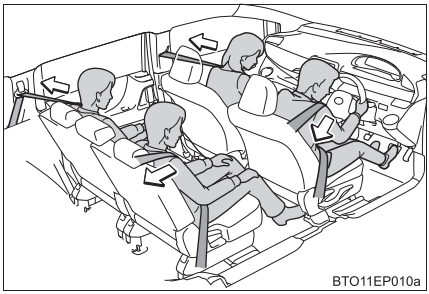
4 バックルを格納する



シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシート左右席★）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて（フロントシート・セカンドシート左右席★）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

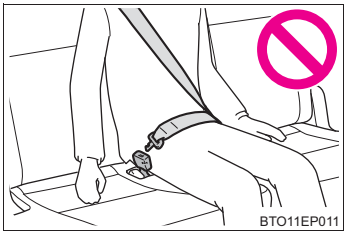
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

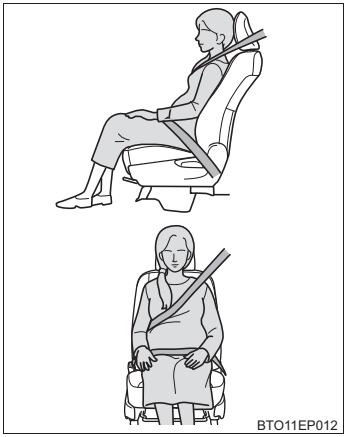
- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- ●7人乗り車のセカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する


BTO11EP011

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 26)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


BTO11EP012

⚠ 警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて（フロントシート・セカンドシート左右席★）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

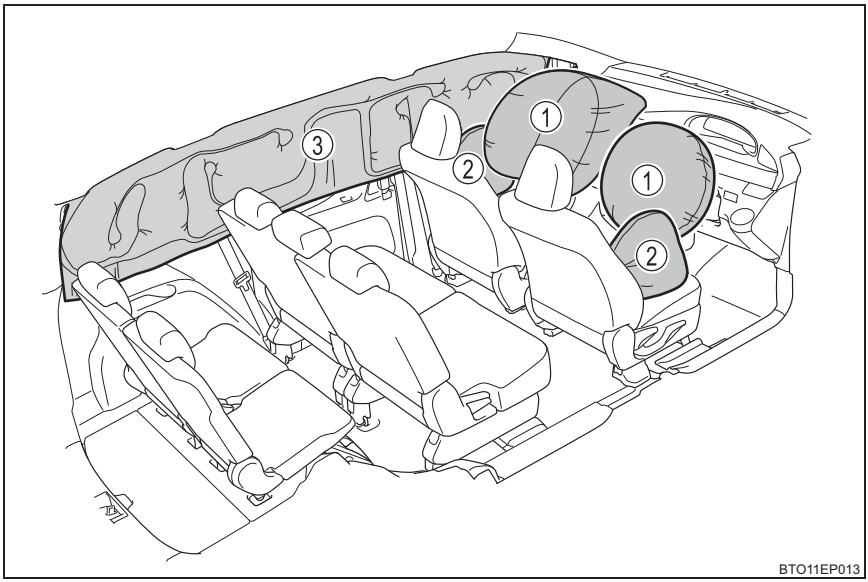
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ★
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ★
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

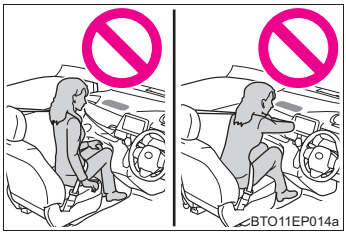
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

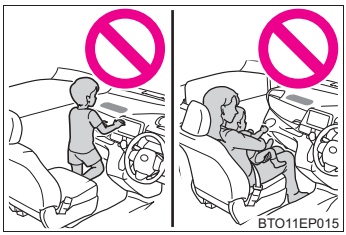
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

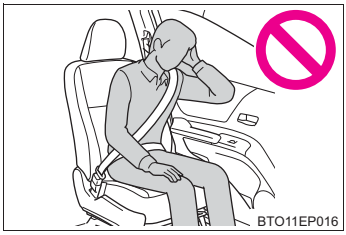
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



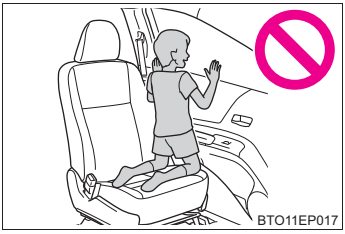
- SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



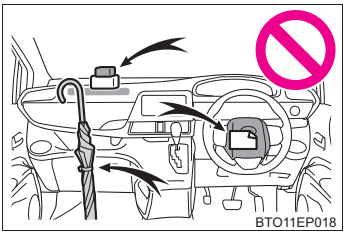
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

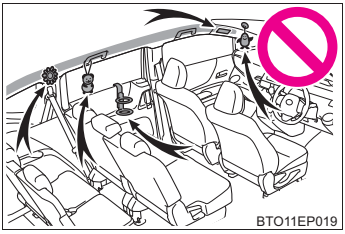
●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席・リヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・助手席アッパーボックスのフタの上・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→ P. 368）



⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ非装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
- SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS　カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

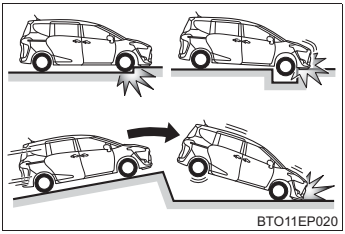
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

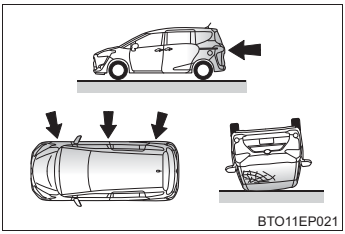
- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


BTO11EP020

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

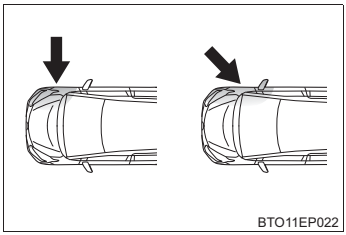

BTO11EP021

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

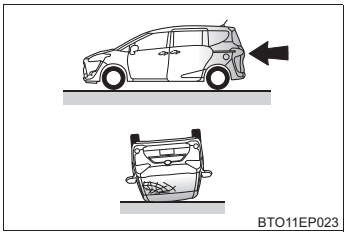
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

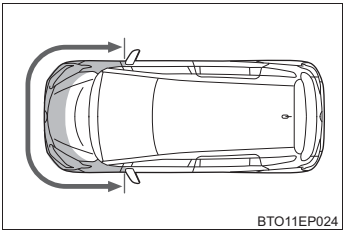


■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

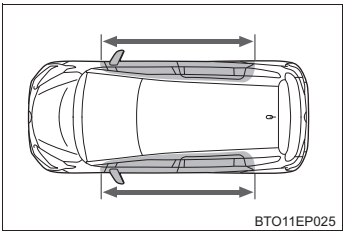
次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

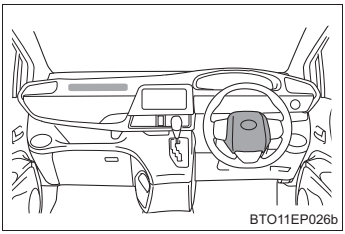
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11EP024

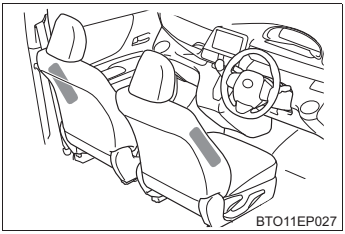
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11EP025

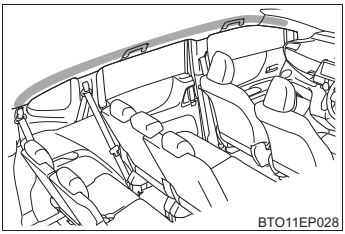
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP026b

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP027

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11EP028

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 111)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 154)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 42 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと 42
チャイルドシートについて 44
チャイルドシートを助手席で使用するときは 47
チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで使用するときは 49
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する 50
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する 57
・トップテザーアンカーを使用する 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44 ※または ECE R129 ※に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートにはお子さまを１人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P. 50, 57）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認の上、車に取り付けてください。

■ チャイルドシートの規格

ECE R44※1または、ECE R129※1,2に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

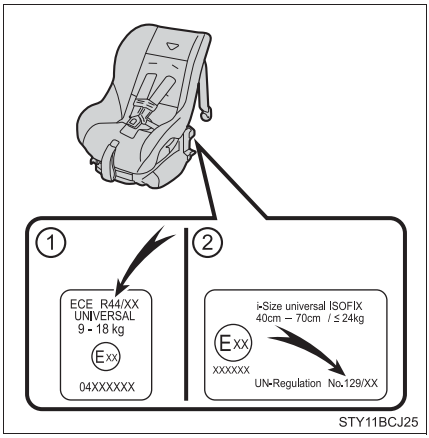
法規番号の表示例

①ECE R44 認可マーク※3

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

②ECE R129 認可マーク※3

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 ECE R44、ECE R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 ECE R129に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※3 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて（ECE R44 のみ）

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせて確認してください。（→P. 51, 59）

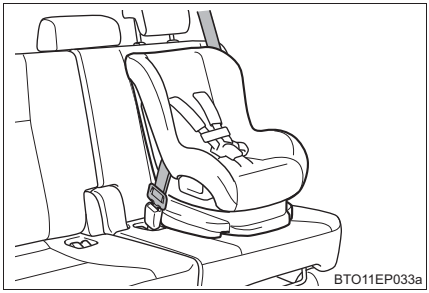
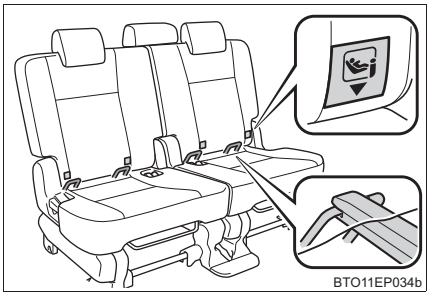
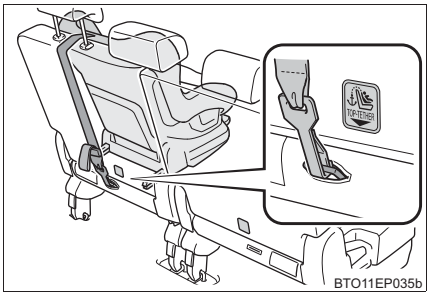
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0+	13kg まで	1 歳半頃まで
グループⅠ	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループⅡ	15 ～ 25kg	3 歳頃～7歳頃まで
グループⅢ	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 BTO11EP033a	P. 50
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する	 BTO11EP034b	P. 57
テザーベルトを固定する	 BTO11EP035b	P. 64

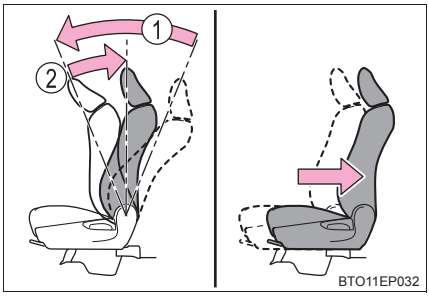
チャイルドシートを助手席で使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
  - ①背もたれをいったん前に倒す
  - ②固定されるところまで起こす
- シートをいちばんうしろにさげる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

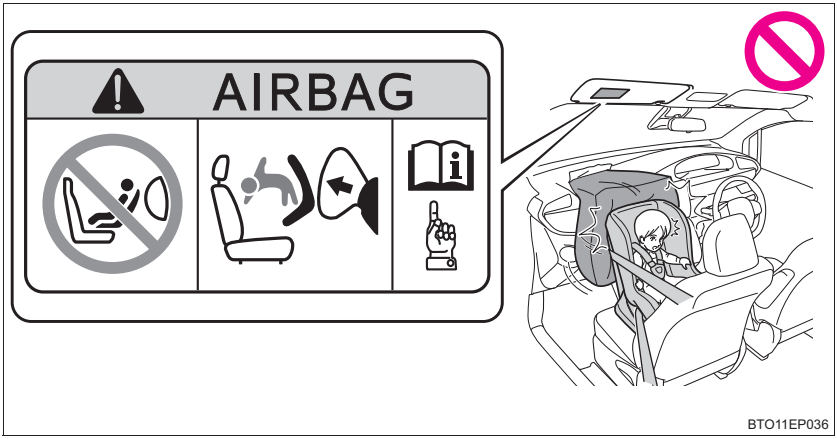


⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

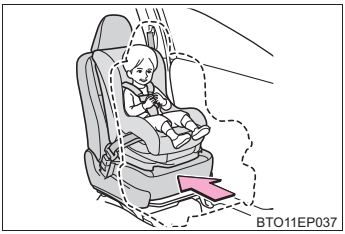
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



BTO11EP036

- 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。


BTO11EP037

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

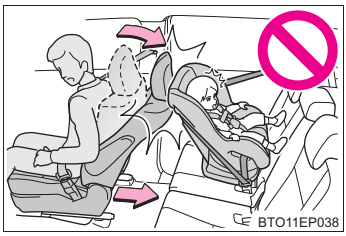
チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで使用するときは

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 51）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→P. 45）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 51）

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	—
0+ （13kg まで）	×	—
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	—
	前向き UF ※1、2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ （15 ～ 25kg）	UF ※1、2	“トヨタ純正ジュニアシート”
Ⅲ （22 ～ 36kg）	UF ※1、2	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※3	U ※3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※3	U ※3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※3	U ※3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ （15 ～ 25kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”
Ⅲ （22 ～ 36kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（6 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 3	U ※ 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 3	U ※ 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 3	U ※ 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ （15 ～ 25kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正ジュニアシート”
Ⅲ （22 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（スロープ車）

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 3	U ※ 3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 3	U ※ 3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 3	U ※ 3	うしろ向き × L ※ 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ （15 ～ 25kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	L ※ 2,3	“トヨタ純正ジュニアシート”
Ⅲ （22 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	L ※ 2,3	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ サードシート（スロープ車を除く）

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	×	—
0+ （13kg まで）	×	×	—
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き × L※4	うしろ向き × L※4	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ （15 ～ 25kg）	L※2, 4	L※2, 4	“トヨタ純正ジュニアシート”
Ⅲ （22 ～ 36kg）	L※2, 4	L※2, 4	“トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

L：チャイルドシートのリストに示す特定のチャイルドシートに適しています。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※3 シートバックを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。

※4 シートバックを直立状態から 2 段目の位置に調整してください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

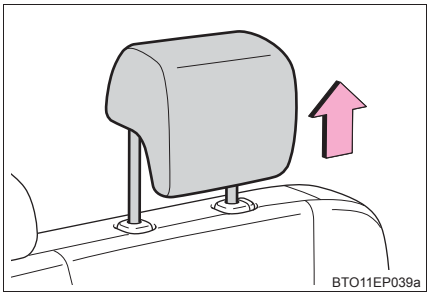
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

いったん背もたれを前に倒してから、指定の固定位置まで背もたれを調整します。

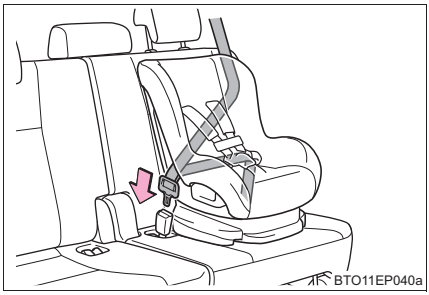
2 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P. 141）


BTO11EP039a

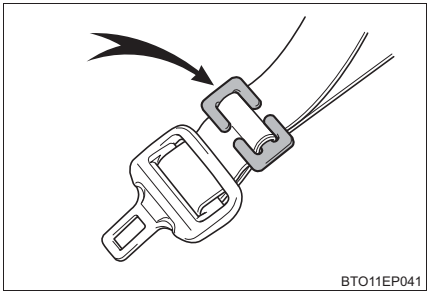
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。


BTO11EP040a

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）


BTO11EP041

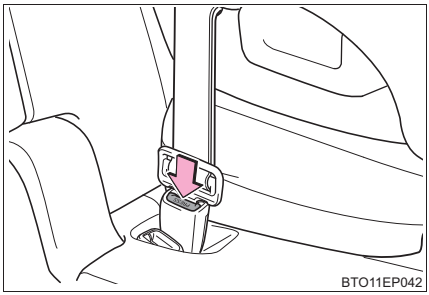
5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

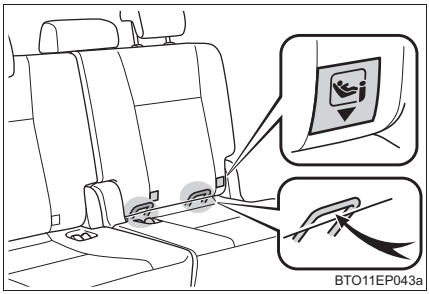
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
  チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
  その場合は、他の席を使用してください。
  お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44 ※または、ECE R129 ※に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
(→ P. 44)

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→P. 59, 61）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	—	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者におたずねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する (→ P. 45)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0 $^{+}$」になります。
(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順1で確認した「質量グループ」と「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。 (→ P. 59) ※

(例 1) : 質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 59) で指定されている製品を使用してください。

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート]）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			セカンドシート		
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	—
	G	ISO/L2	×	×	—
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL※1,2	IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL※1,2	IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL※1,2	IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL※1,2	IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×	—
	C	ISO/R3	×	×	—
	B	ISO/F2	IUF、IL※1,2	IUF、IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/F2X	IUF、IL※1,2	IUF、IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	IUF、IL※1,2	IUF、IL※1,2	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL：ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×：ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 シートバックを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。

- 背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
  チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
  その場合は、他の席を使用してください。
  お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表 (ISOFIX での取り付け [ECE R129 適合のチャイルドシート])

▶ 7 人乗り車

	着席位置					
	フロントシート	セカンドシート			サードシート	
	助手席	右席	左席	中央席	右席	左席
i-Size チャイルドシート	×	i-U ※	i-U ※	×	×	×

▶ 6 人乗り車

	着席位置				
	フロントシート	セカンドシート		サードシート	
	助手席	右席	左席	右席	左席
i-Size チャイルドシート	×	i-U ※	i-U ※	×	×

▶ スロープ車

	着席位置			
	フロントシート	セカンドシート		
	助手席	右席	左席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U ※	i-U ※	×

表に記入する記号の説明

i-U：前向きおよびうしろ向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適しています。

×：i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ シートバックを直立状態から 5 段目の位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

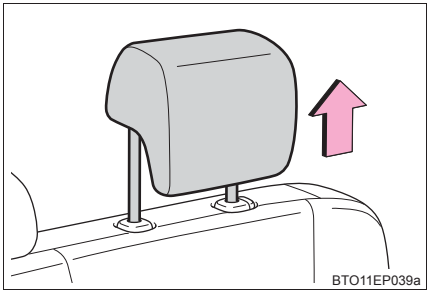
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

いったん背もたれを前に倒してから、指定の固定位置まで背もたれを調整します。

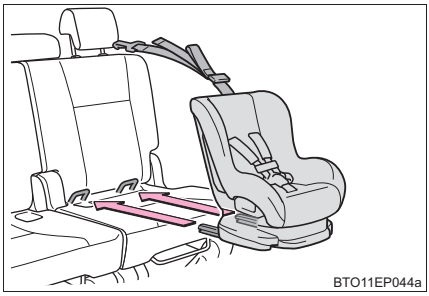
2 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P. 141）



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

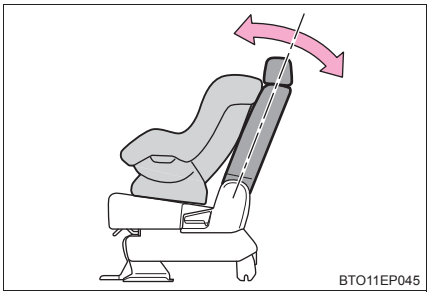
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 背もたれを調整する

背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。

・ 背もたれが固定されていることを確認してください。



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

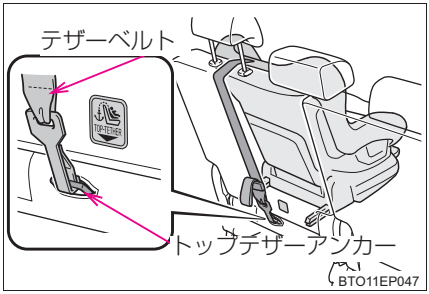
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
  チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
  その場合は、他の席を使用してください。
  お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

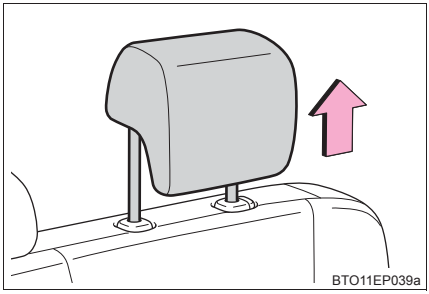


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

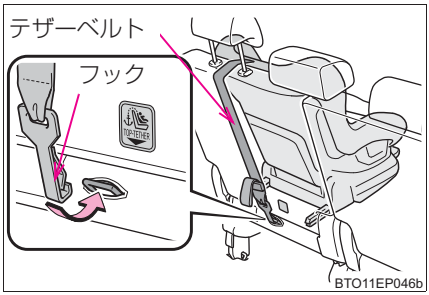
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P. 141）



2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム★

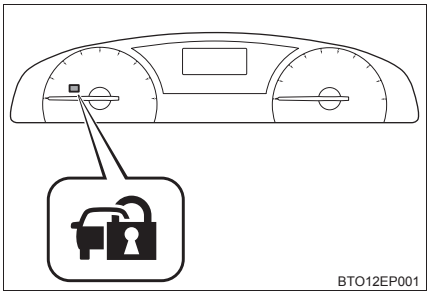
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

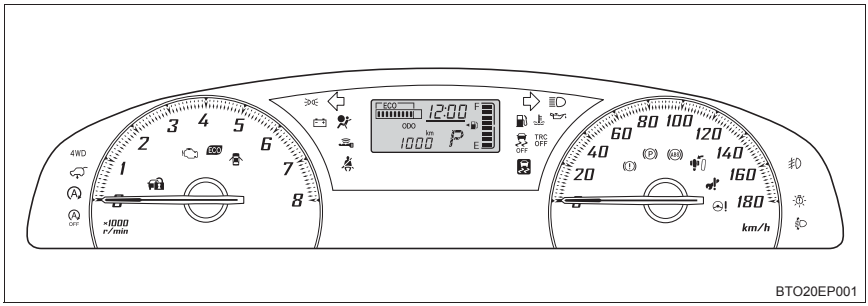
メーターの見方 2

2. メーターの見方
警告灯／表示灯 70
計器類 74
ドライブモニター
ディスプレイ 78
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83

警告灯／表示灯

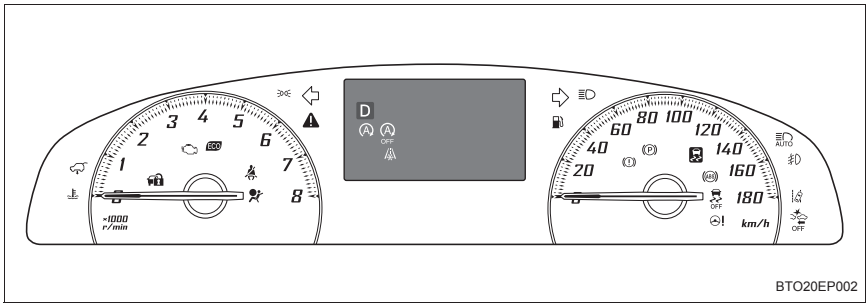
メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



BTO20EP001

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



BTO20EP002

警告灯

システム異常などを警告します。

※1
ブレーキ警告灯
（→ P. 340）

※1、2
充電警告灯（→ P. 340）

※1、2
油圧警告灯
（→ P. 340）

※1
エンジン警告灯
（→ P. 340）

※1
SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 340）

※1

ABS &ブレーキアシスト
警告灯（→ P. 341）

※1
（赤色 /
黄色）
パワーステアリング警告灯
（→ P. 341）

※1、2
ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯
（→ P. 341）

※1、2
（赤色）
高水温警告灯
（→ P. 341）

※2
（黄色）
スマートエントリー &
スタートシステム表示灯★
（→ P. 343, 345）

※1、2
ヘッドランプ
オートレベリング警告灯★
（→ P. 341）

※1、2

（点滅）
Stop & Start キャンセル
表示灯★（→ P. 341）

※2
半ドア警告灯（→ P. 342）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 342）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 342）

燃料残量警告灯
（→ P. 342）

※1、2

4WD 警告灯★
（→ P. 342）

パーキングブレーキ未解除
警告灯（→ P. 342）

※1

（点滅）
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★
（→ P. 343）

※1、2
LED ヘッドランプ警告灯★
（→ P. 343）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※2
メンテナンス・点検警告灯
（→ P. 344）

※1
マスターウォーニング★
（→ P. 344）

※3
（黄色）
車高調整インジケーター★
（→ P. 343）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイ内に同内容のメッセージが表示されます。

※3 別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 180）

ハイビーム表示灯
（→ P. 182）

尾灯表示灯
（→ P. 182）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 186）

LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★
（→ P. 208）

※1
VSC OFF 表示灯
（→ P. 237）

※3
（青色）
低水温表示灯

※1、4
エコドライブ
インジケーターランプ
（→ P. 81, 92）

AHB（オートマチック
ハイビーム）表示灯★
（→ P. 213）

※1、2
Stop & Start 表示灯★
（→ P. 219）

※1、2
Stop & Start キャンセル
表示灯★（→ P. 221）

※2
（緑色）
スマートエントリー&
スタートシステム表示灯★
（→ P. 171）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1、2

TRC OFF 表示灯
（→ P. 236）

セキュリティ表示灯★
（→ P. 67）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 236）
（点滅）

※5

低温表示灯★（→P. 75）

※1

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★
（→ P. 200）

※6

車高調整インジケーター★
（緑色）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッションONモード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイ内に同内容のメッセージが表示されます。

※3 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※4 点灯をOFFに設定した場合は、作動確認のための点灯はしません。

※5 外気温が約3℃以下のとき、約10秒間点滅後に点灯します。

※6 別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

⚠ 警告

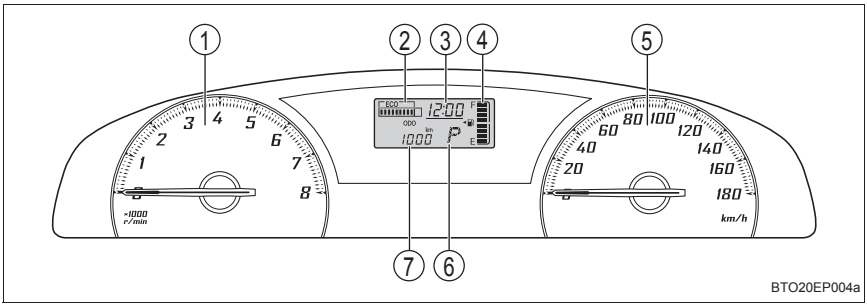
■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② エコドライブインジケーター

→P. 81

③ 時計表示

時刻を表示します。（→P. 273）

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

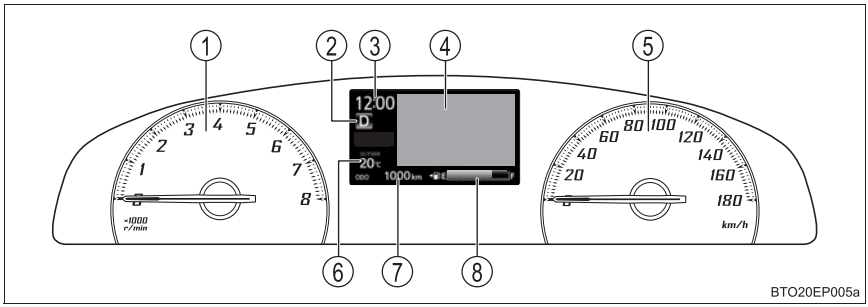
⑥ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。
（→P. 178）

⑦ トリップインフォメーション

オドメーター／トリップメーター／燃費表示などを表示します。（→P. 79）

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① タコメーター

毎分のエンジンの回転数を示します。

② シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 178)

③ 時計表示※

時刻を表示します。(→P. 273)

④マルチインフォメーションディスプレイ

・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 83)
・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 348)

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑥ 外気温表示※

外気温度を -40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯 (→P. 73) が点灯します。

⑦ トリップインフォメーション

オドメーター :
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター :
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑧ 燃料計※

燃料残量を示します。

※ :シンプル画面を選択しているときは表示が移動します。(→P. 85)

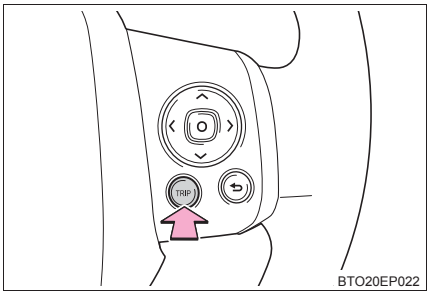
表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

→P. 78

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



メーター照度調整

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

→P. 80

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 89）により、メーターの明るさを調整できます。

知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

- この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 341）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 388）

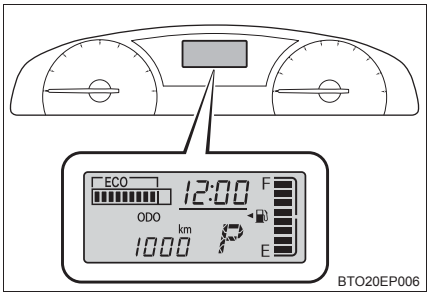
▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→P. 348）が表示されます。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 388）

ドライブモニターディスプレイ★

表示内容

ドライブモニターディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。



- 時計表示（→ P. 273）

  時刻を表示します。

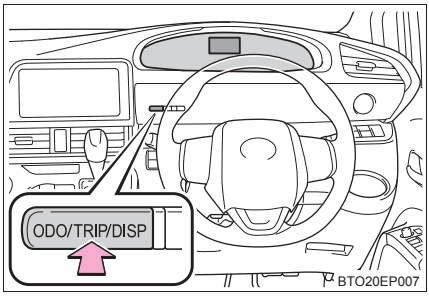
- トリップインフォメーション（→ P. 79）

  オドメーターやトリップメーター、燃費表示などを表示します。

- シフトポジション表示（→ P. 178）
- Stop & Start システム★（→ P. 227）
- エコドライブインジケーター（→ P. 81）

表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。
オドメーター表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、エコドライブインジケーターランプカスタマイズ表示に切りかわります。(→ P. 82)

■ トリップメーター A※／トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。
リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーターB の表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

※ :区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 始動後アイドリングストップ時間★

→P. 227

■ 通算アイドリングストップ時間★

→P. 227

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”★、または OFF★にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”★、または OFF★にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **瞬間燃費**

現在の瞬間燃費を表示します。

■ **通算平均燃費**

リセットしてからの通算平均燃費を表示します。

・ リセットするには、通算平均燃費表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押し続けます。

・ 表示される通算平均燃費は、参考として利用してください。

■ **外気温**

外気温を-40℃～50℃のあいだで表示します。

■ **照度調整**

車幅灯が点灯しているとき、メーター照度調整表示に切りかえることができます。

表示切りかえボタンを 1 秒以上押し続けることでメーター照度を調整できます。

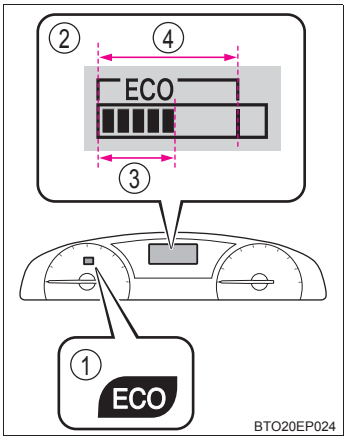
知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- トリップメーター A ／トリップメーター B
- 通算平均燃費
- 航続可能距離

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

■エコドライブインジケーターランプの点灯を ON ／ OFF するには

エコドライブインジケーターランプの点灯を ON ／ OFF にできます。

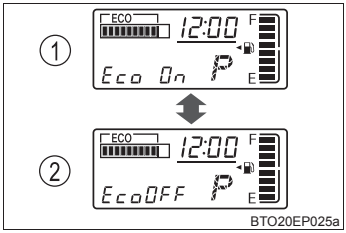
1 オドメーター表示中に表示切りかえボタンを 5 秒以上押し続けることで、エコドライブインジケーターランプカスタマイズ表示に切りかわります。

2 表示切りかえボタンを押すごとに ON ／ OFF が切りかわります。

ON または、OFF を選択した状態で、表示切りかえボタンを 2 秒以上押し続けることで、もとの表示にもどり設定が完了します。

① ON（点灯有）

② OFF（点灯なし）



■液晶ディスプレイについて

→ P. 77

⚠ 警告

■走行中の警告

表示切りかえボタンを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイ★

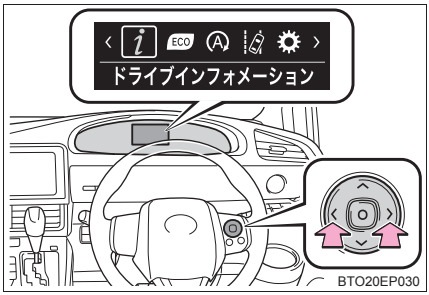
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 84）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



メーター操作スイッチの〈または、〉を押すごとにメニューアイコンが次のように選択できます。

ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 84）

ECO

燃費の情報などを表示します。（→ P. 86）

Stop & Start システム情報★

Stop & Start システムの作動状態の表示や、制御を切りかえることができます。（→ P. 228）

LDA（レーンディパーチャーアラート）作動表示★

LDA（→ P. 209）の作動状況を表示します。

設定

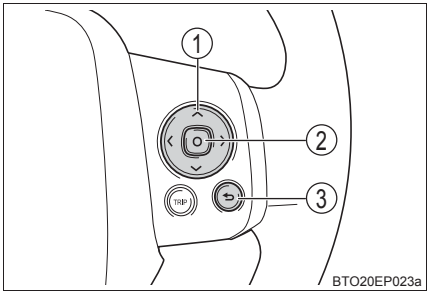
メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 88）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

ディスプレイに表示される項目を切りかえるには、ハンドルのメーター操作スイッチを操作します。



①選択スイッチ

項目や画面を選択／移動します。

②決定スイッチ

決定します。

③もどるスイッチ

ひとつ前の画面にもどります。

ドライブインフォメーション

メニューアイコンの *i* を選択します。（→ P. 83）

メーター操作スイッチの∧または、∨を押して、次の画面が選択できます。

■ ドライブインフォメーション

平均燃費、平均車速、走行時間は、オドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：エンジンを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。（→P. 76）

表示	項目	内容
AVG	平均燃費※	平均燃費を表示します。
TOTAL	走行時間※	走行時間を表示します。
A TOTAL★	アイドリングストップ時間	エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示	項目	内容
	航続可能距離	現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。 ・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。 ・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。 **スマートエントリー&スタートシステム非装着車**： 給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。 **スマートエントリー&スタートシステム装着車**： 給油の際はエンジンスイッチをOFFにしてください。万一、エンジンスイッチをOFFにせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※:設定により平均車速を表示することもできます。(→P. 89)

■ **デジタルスピードメーター画面**

デジタルスピードメーターを表示します。

■ **シンプル画面**

時計、外気温、燃料計を拡大した画面を表示します。

ECO

メニューアイコンの ECO を選択します。（→ P. 83）

メーター操作スイッチの∧または、∨を押して、次の画面が選択できます。

■ エコジャッジ

エコ運転の状況を判定し表示します。

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の3パターンに分け、5段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。（発進するごとにリセットされ、積算は行いません）

BTO20ER005

■ 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去3ヶ月分と1年前の同月を表示し、比較することができます。

■ 燃費ランキング

過去の燃費のベスト3と現在の順位を表示します。

- オドメーター表示時：エンジンを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーターA・Bそれぞれの記録を表示します。

順位は100位までを表示し、以降はランク外として表示されます。
エンジンを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

■ 5分毎燃費／瞬間燃費

エンジンを始動してからの燃費履歴を5分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、30分前までの燃費と比較することができます。

◆ 履歴の消去

燃費履歴・燃費ランキングの履歴を消去することができます。

1 消去したい履歴画面を表示しているときにメーター操作スイッチの ◎ を長押しすると、履歴リセット画面を表示します。

2 メーター操作スイッチの ❮ または、❯ を押して「はい」を選択し、◎ を押すと、履歴が消去されます。

◆ 燃費時間の切りかえ

燃費時間を５分刻み、または１分刻みで表示することができます。

1 ５分毎燃費／瞬間燃費画面を表示しているときにメーター操作スイッチの ◎ を長押しすると、燃費時間画面を表示します。

2 メーター操作スイッチの ❮ または、❯ で項目を選択し、◎ を押します。

設定

メニューアイコンの を選択します。(→ P. 83)

各装備の機能の ON ／ OFF や設定変更などができます。

■ **設定変更のしかた**

1 メーター操作スイッチの∧または、∨を操作して設定変更したい項目を選択し、⊙を押す

一部の装備で機能の ON ／ OFF を選択する項目では、メーター操作スイッチの⊙を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

2 表示内容に従ってメーター操作スイッチの∧または、∨を操作し、設定内容を選択して⊙を押す

項目	設定内容	設定結果
Ⓐ SMART STOP★	時間設定	エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間を切りかえできます。(→ P. 225)
	NORMAL	
	LONG	
	状態通知割込	状態通知の割り込み表示をON／OFF切りかえができます。(→ P. 230)
	ON	
	OFF	
	作動時間割込	アイドリングストップ時間の割り込み表示を ON ／ OFF 切りかえができます。(→ P. 229)
	ON	
	OFF	
LDA★	高い	LDA 警報感度を調整できます。(→ P. 211)
	普通	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
先行車発進★	告知設定	先行車発進の告知設定の ON ／ OFF 切りかえができます。（→ P. 218）
	ON	
	OFF	
	告知タイミング	先行車発進の告知タイミングを調整できます。（→ P. 218）
	早い	
	普通	
	遅い	
ECO 表示	ON	エコドライブインジケーターランプを ON ／ OFF できます。（→ P. 92）
	OFF	
ドライブインフォメーション	1 行目	ドライブインフォ画面の 1 行目と 2 行目の項目を「平均車速」・「平均燃費」・「走行時間」から選択できます。
	平均車速	
	平均燃費	
	走行時間	
	2 行目	
	平均車速	
	平均燃費	
	走行時間	
夜間調光	暗 ◀——▶ 明	車幅灯点灯時のメーターの明るさを調整できます。（→ P. 76）
操作ガイド表示	ON	メニューアイコン（→ P. 83）の ON ／ OFF 切りかえができます。
	OFF	
日付	→ P. 91	日付の調整・誕生日の設定ができます。
走行結果表示	ON	走行結果表示（→ P. 93）の ON ／ OFF 切りかえができます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
初期化	はい	次の表示設定を工場出荷時の状態にもどすことができます。 ・ Ⓐ SMART STOP 状態通知割込★ ・ Ⓐ SMART STOP 作動時間割込★ ・ ECO 表示 ・ ドライブインフォメーション ・ 夜間調光 ・ 操作ガイド表示 ・ 誕生日 ・ 走行結果表示
	いいえ	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 日付

BTO20EP027b

1 メーター操作スイッチの∧または、∨で「本日」または、「誕生日」※を選択し、◎を押す。

2 メーター操作スイッチの〈または、〉で年／月／日を選択し、∧または、∨で数値を設定し、◎を押す

※ 誕生日は最大 5 件設定できます。また、設定した日付になるとエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にした時に数秒のあいだマルチインフォメーションディスプレイに「Happy Birthday」と表示されます。ただし、警告メッセージが表示されたときは、「Happy Birthday」は表示されない場合があります。

知識

■航続可能距離ついて

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき（LDA 設定と調光設定を除く）

■エコジャッジについて

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

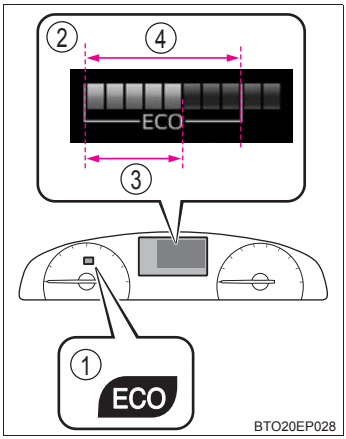
バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- ●時計
- ●燃費ランキング（4 位以下）
- ●平均燃費
- ●航続可能距離
- ●平均車速
- ●走行時間

■液晶ディスプレイについて

→ P. 77

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ※
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- ● シフトレバーが D 以外にあるとき
- ● 車速が約 100km/h 以上のとき

※ エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。
（→ P. 89）

■今回の走行結果表示について

エンジンを停止すると、エンジンを始動したときからの走行データを一覧で表示します。

ドアをロックすると画面は消えます。

BTO20EP029

⚠警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■走行中の警告

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定変更をするとき

→P. 82

⚠注意

■低温時の画面表示について

→P. 82

■ディスプレイの設定を変更するとき

→P. 82

各部の操作 3

3-1. キー
キー……96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア……101
スライドドア……107
バックドア……121
スマートエントリー&
スタートシステム……126
3-3. シートの調整
フロントシート……132
セカンドシート……133
サードシート……139
ヘッドレスト……140
シートアレンジ……143
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル……149
インナーミラー……151
ドアミラー……152
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ……154

キー

キーについて

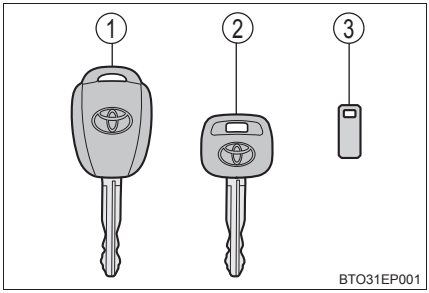
お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

① キー（ワイヤレス機能装着）
・ ワイヤレス機能の作動
（→ P. 97）

② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

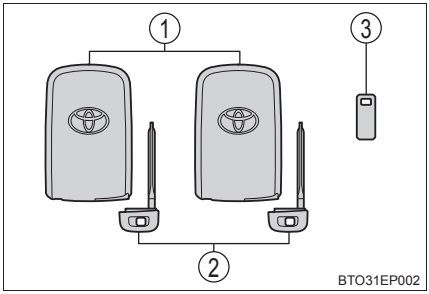


▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

① 電子キー
・ スマートエントリー&
スタートシステムの作動
（→ P. 126）
・ ワイヤレス機能の作動
（→ P. 97）

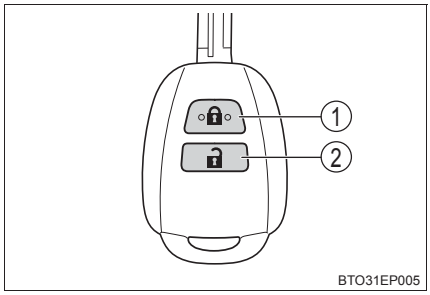
② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

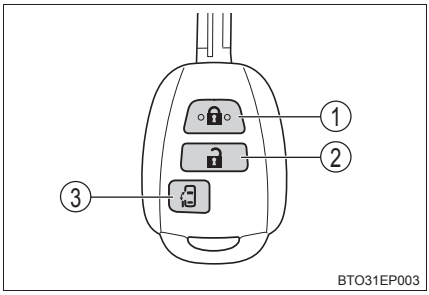


ワイヤレスリモコン（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

▶ パワースライドドア非装着車



▶ パワースライドドア装着車



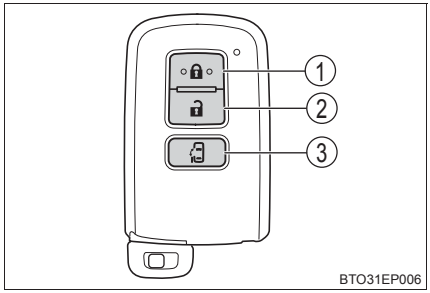
① ドアの施錠（→ P. 101）

② ドアの解錠（→ P. 101）

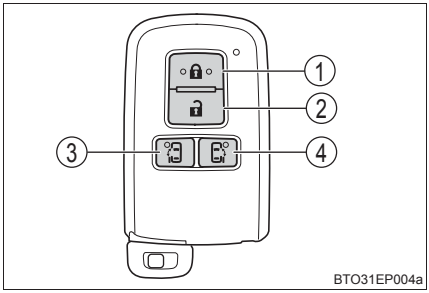
③ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）

ワイヤレスリモコン（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

▶ 運転席側パワースライドドア非装着車



▶ 運転席側パワースライドドア装着車



① ドアの施錠（→ P. 102）

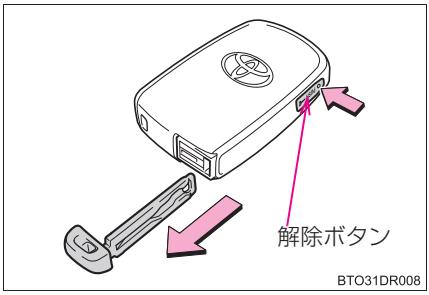
② ドアの解錠（→P. 102）

③ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）

④ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 381）

知識

■キー（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 346)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。(→ P. 300)

■電池の交換方法

→ P. 300

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。

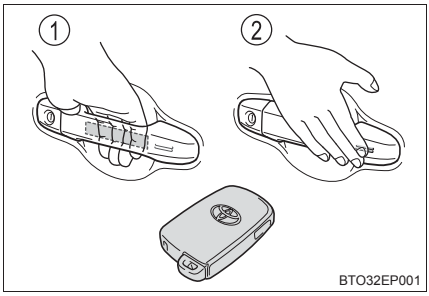
① フロントドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

② フロントドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



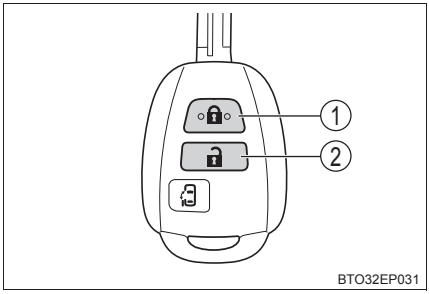
◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



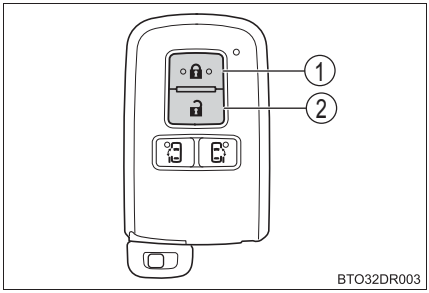
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

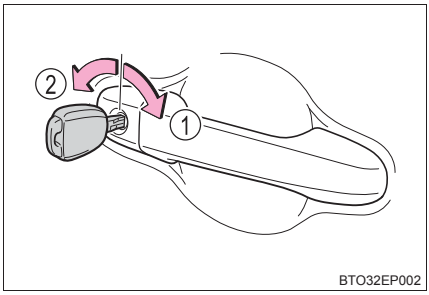


◆ キー（運転席）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→ P. 381）

知識

■作動の合図

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

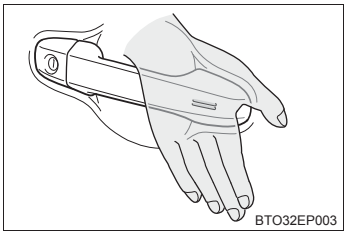
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

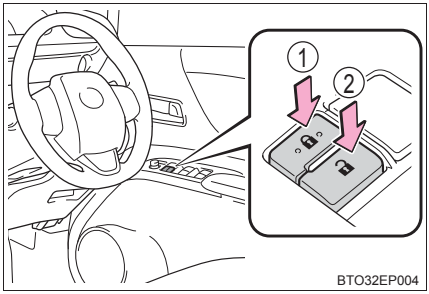
■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

キーやメカニカルキーを使ってドアの施錠･解錠ができます。(→ P. 102, 381)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 300)

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する

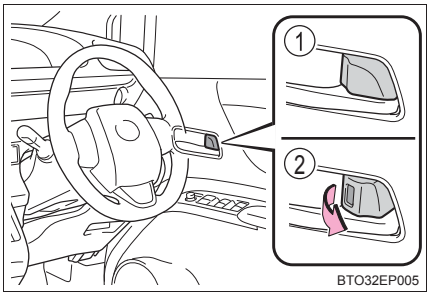


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ONモードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■半ドア走行時警告ブザー

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

→P. 344

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー&スタートシステム（スマートエントリー&スタートシステム装着車）やワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき

●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くでワイヤレスリモコンを使用しているとき

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 129

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

→P. 101

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 101

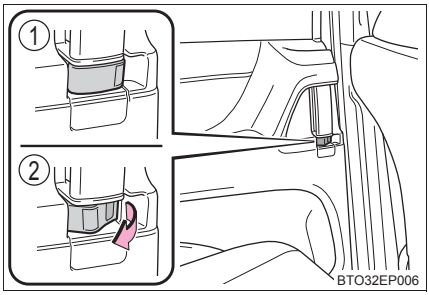
車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

→P. 103

◆ ロックレバー

① 施錠
② 解錠

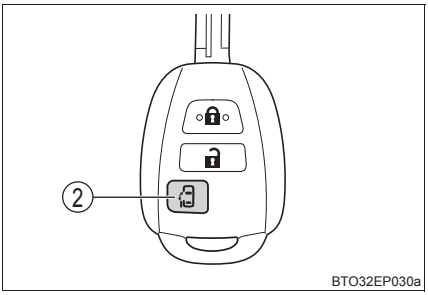


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

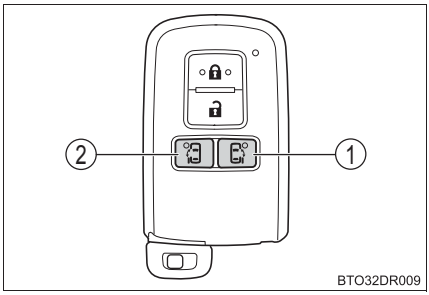
車外からスライドドアを開閉する

◆ ワイヤレスリモコン（パワースライドドア装着車）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① 運転席側パワースライドドア★を開閉する（長押し）

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

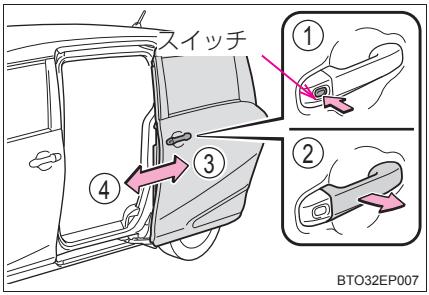
◆ スライドドアハンドル

① スイッチを長押しして開閉する
（パワースライドドア装着車）

・ドア施錠時：電子キーを携帯し、スイッチを長押しするとスライドドアが開きます。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーの検知エリア内（→ P. 126）でスイッチを長押ししないと、スライドドアは開きません。

・ドア解錠時：スイッチを長押しするとスライドドアが開きます。



② ドアハンドルを引いて開閉する

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

▶ パワースライドドアメインスイッチ OFF 時（パワースライドドア装着車）／パワースライドドア非装着車

③ 開く

④ 閉じる

▶ パワースライドドアメインスイッチ ON 時（パワースライドドア装着車）

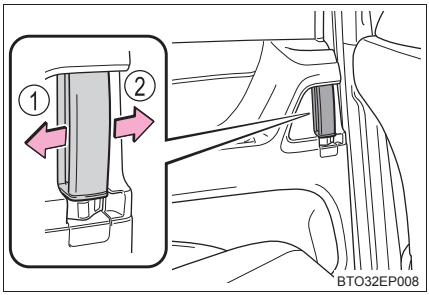
③ 開く

④ 閉じる

ドアハンドルを引くとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。
また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止します。

車内からスライドドアを開閉する

◆ インサイドドアハンドル



▶ パワースライドドアメインスイッチ OFF 時（パワースライドドア装着車）／パワースライドドア非装着車

① 開く

② 閉じる

▶ パワースライドドアメインスイッチ ON 時（パワースライドドア装着車）

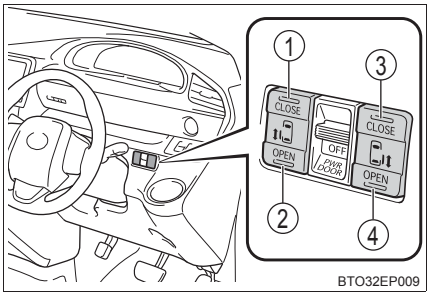
① 開く

② 閉じる

ドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。

また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

◆ パワースライドドアスイッチ（パワースライドドア装着車）



① 閉める（助手席側）

② 開ける（助手席側）

③ 閉める（運転席側）★

④ 開ける（運転席側）★

スイッチを長押しして開閉します

開閉作動中に再度スイッチを押すと、停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースライドドアを使用するときは（パワースライドドア装着車）

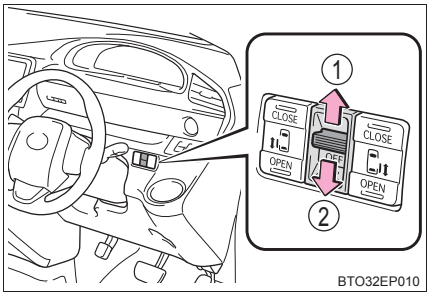
パワースライドドアメインスイッチを ON にする

①OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

②ON

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。



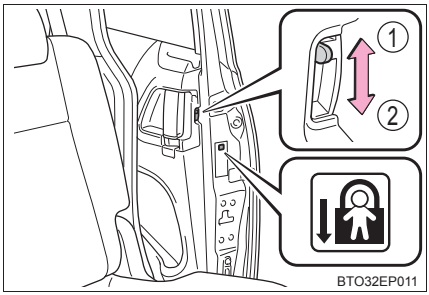
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



知識

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■中間ストッパー

給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、給油扉を閉じ再度スライドドアを開けてください。

■イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチが“LOCK”★または OFF★になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）
- エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。
  - ・シフトレバーが P のとき
  - ・パーキングブレーキがかかっているとき
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ドアハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチがOFFのときは、手動でのみ開閉できます。

●給油扉が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドア開閉中に給油扉を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します
逆方向に動く：
・アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す
開方向に動く：
・インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す
閉方向に動く：
・インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機構作動後、ワイヤレスリモコンのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

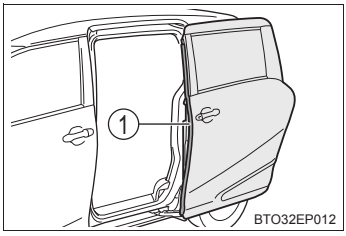
■バッテリーを再接続したときは（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の操作で初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にする

■挟み込み防止機構（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの前端部には、センサー（ ① ）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア装着車）

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

1 スライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 スライドドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P. 101）

●予約ロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

●予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められることがあります。
予約ロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■半ドア走行時警告ブザー

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

→P. 344

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

→P. 105

■自動洗車機を使うとき（パワースライドドア装着車）

→P. 279

■カスタマイズ機能（パワースライドドア装着車）

スライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 403）

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。（パワースライドドア装着車：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません）
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P. 111）を使用して車内からドアが開かないようにする

■スライドドアの操作にあたって

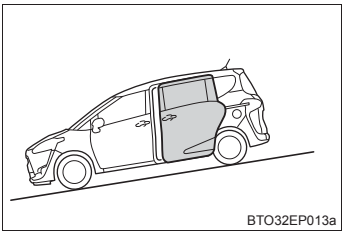
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

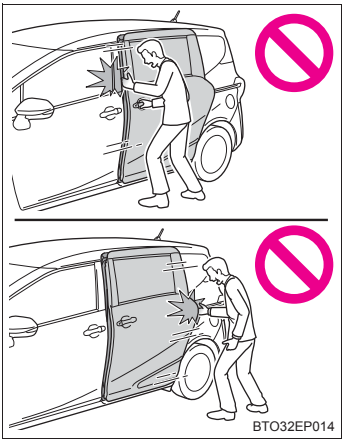
⚠警告

■スライドドアの操作にあたって

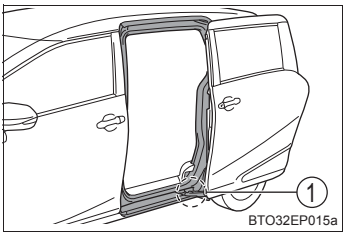
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。


BTO32EP013a

- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチ★を操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


BTO32EP014

- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（ ① ）の部分には十分注意してください。



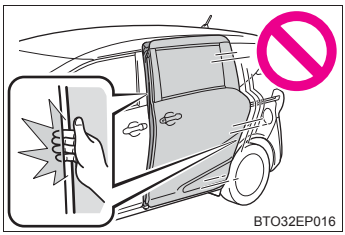
BTO32EP015a

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■イージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→P. 112)



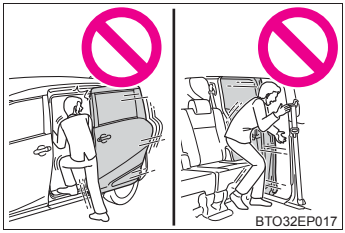
●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチ★がOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

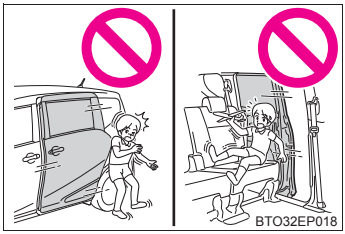
●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

⚠警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能★（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

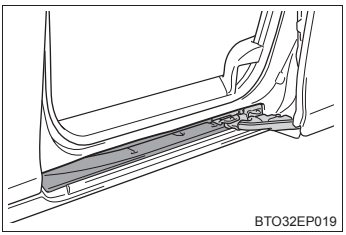
●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

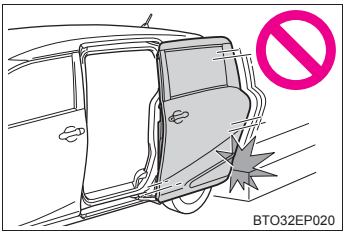
⚠注意

■スライドドアについて

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→ P. 264）に収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。


BTO32EP019

- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

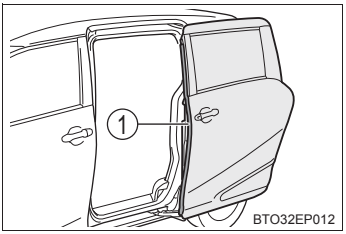

BTO32EP020

■イージークローザーについて

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



BTO32EP012

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム※

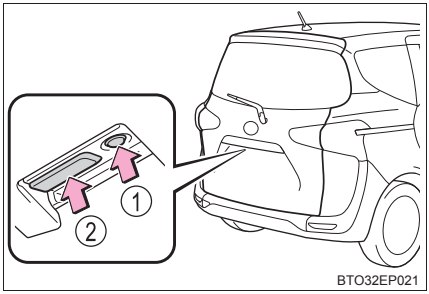
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



※ スマートエントリー&スタートシステム非装着車／スロープ車を除く

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 101

◆ キー

→ P. 102

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 103

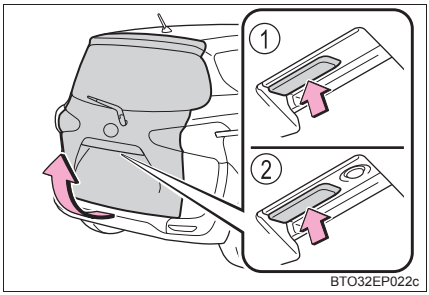
バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

① スマートエントリー＆スタートシステム非装着車／スロープ車

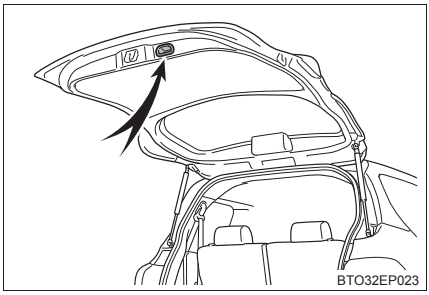
② スマートエントリー＆スタートシステム装着車

バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。



バックドアを閉めるとき

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

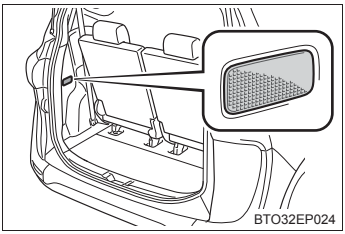


知識

■ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

エンジンスイッチが“LOCK”★、またはOFF ★の場合、約 20 分後に自動消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■半ドア走行時警告ブザー

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

→P. 344

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

→P. 105

⚠警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

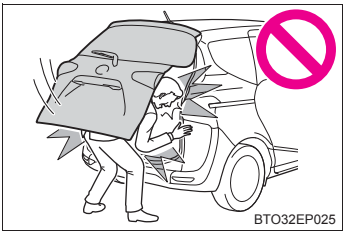
●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠警告

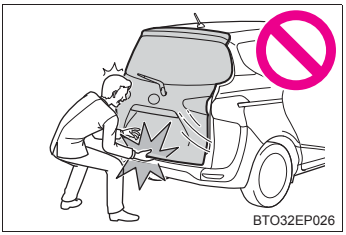
■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


BTO32EP025

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


BTO32EP026

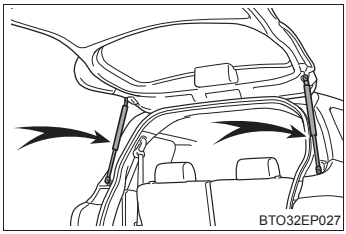
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアにはトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着剤などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリーを付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)

- ドアを解錠・施錠する（→P. 101）
- スライドドアを開閉する★（→P. 109）
- バックドアを解錠・施錠する（→P. 121）
- エンジンを始動する（→P. 171）

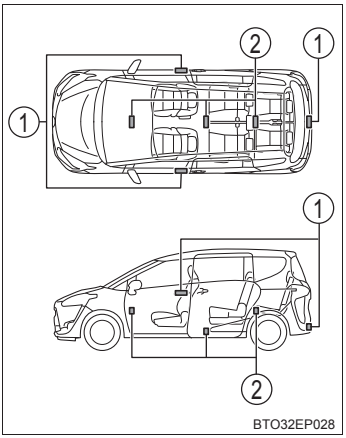
知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

車いす仕様車（スロープタイプ）にはバックドアのアンテナは装着されません。

② 車内アンテナ

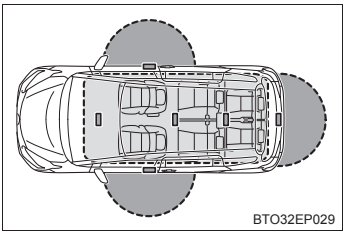


■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

車いす仕様車(スロープタイプ)にはバックドアのアンテナは装着されません。



●：エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

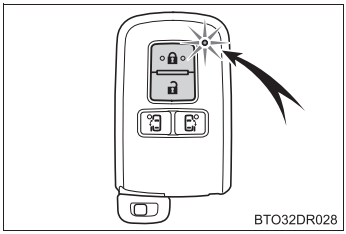
●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■警告音と警告灯について

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯したときは、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 345)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせず運転席ドアが開いた	シフトレバーをPにする
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 348）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 381）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キー・自車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠できないことがあります。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合、解錠が遅れたり、解錠できないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック操作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 127）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイ★に警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 127, 345)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの解錠・施錠：→ P. 381

●エンジンの始動：→ P. 381

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 402)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→ P. 381)

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 381

●エンジンの停止：→ P. 172

⚠警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ(→ P. 126)から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

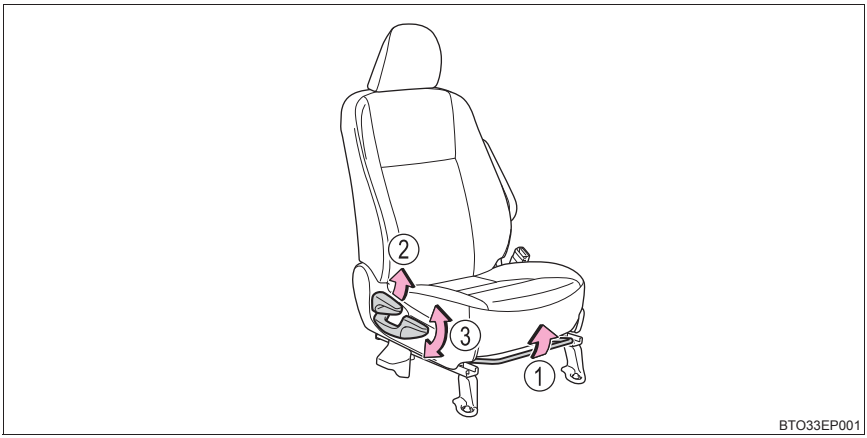
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

助手席タンブルシート装着車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」も併せてお読みください。

調整のしかた



① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

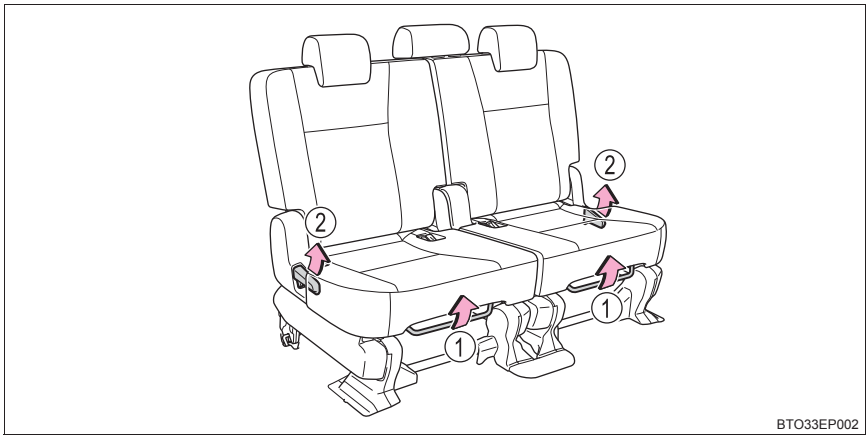
- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

セカンドシート

スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」も併せてお読みください。

調整のしかた

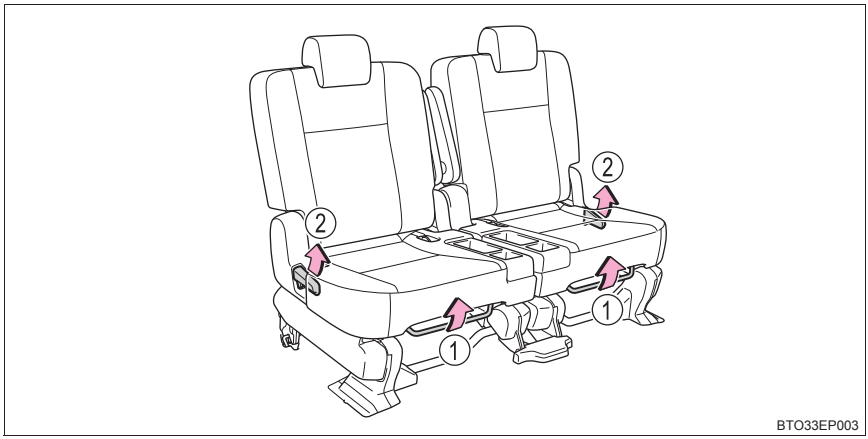
▶ 7 人乗り車



① 前後位置調整

② リクライニング調整

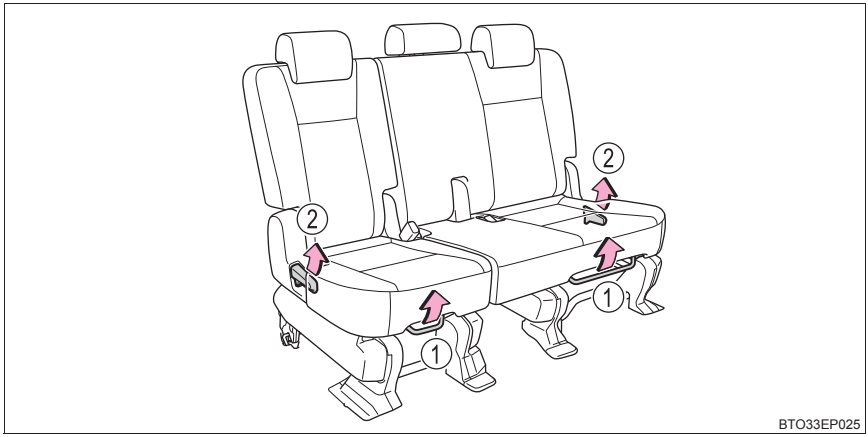
▶ 6 人乗り車



① 前後位置調整

② リクライニング調整

▶ スロープ車



① 前後位置調整

② リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

■ セカンドシートをタンブルする※

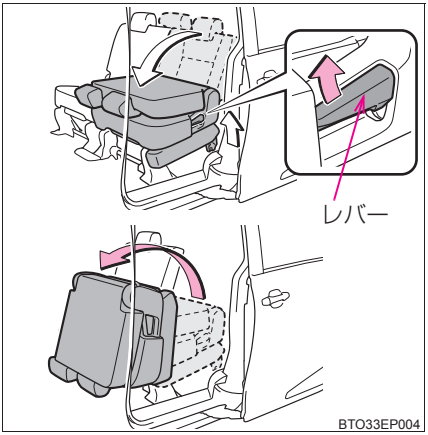
1 中央席シートベルト★を分離し、格納する（→ P. 28）

2 ヘッドレストを下げる（→ P. 140）

3 セカンドシートを後方いっぱいまでスライドする（→ P. 133）

4 タンブルする

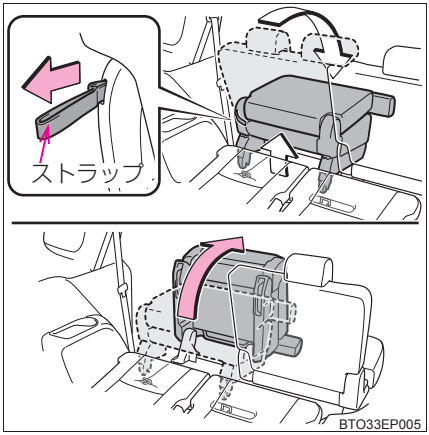
▶ リクライニングレバー



レバーを引く

背もたれが前方に倒れ、シートが起きあがります。

▶ タンブルストラップ



ストラップを引く

背もたれが前方に倒れ、シートが起きあがります。

セカンドシートをタンブルしたときにフロントシートとあたる場合は、フロントシートを前方にスライドしてください。（→ P. 132）

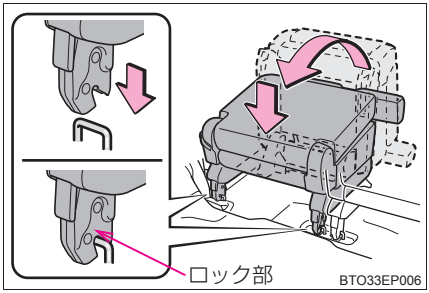
※ スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ セカンドシートをもとにもどすときは※

1 セカンドシートをシート固定位置まで押しさげる

シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、セカンドシートうしろ側を床に押しつけて確実にロック部を固定させます。



2 背もたれを起こし、固定する

※ スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

⚠ 警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■セカンドシート中央席に座るときは（7人乗り車）

かならずセカンドシート左右席の位置をそろえて乗車してください。

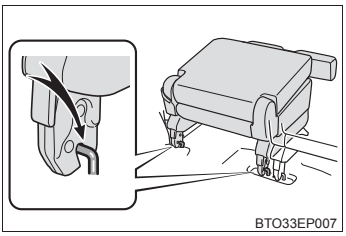
■サードシートへの乗り降りについて

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- 走行中はサードシートへ移動しないでください。

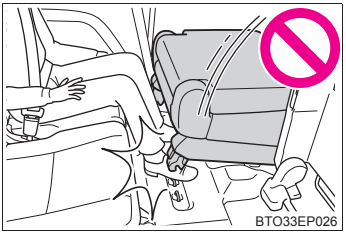
⚠警告

■タンブルについて

- シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。また、シート前方に物がないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートをタンブルしないでください。
- 左右のシートを同時にタンブルしないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートをタンブルするときは、片側ずつ操作してください。
- シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。


BTO33EP007

- シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。


BTO33EP026

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

■セカンドシートをタンブルして走行するときは

必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。（→P. 144）

⚠注意

■タンブルするときは

●タンブルする前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。（→P. 28）

●7 人乗り車のセカンドシートをタンブルするときは、助手席側をタンブルしてから運転席側をタンブルしてください。
また、タンブルした状態からもとにもどすときは、運転席側をもとにもどしてから、助手席側をもとにもどしてください。
順番を間違えるとセカンドシート中央席ヘッドレストと運転席側セカンドシートが干渉し、シートが損傷するおそれがあります。

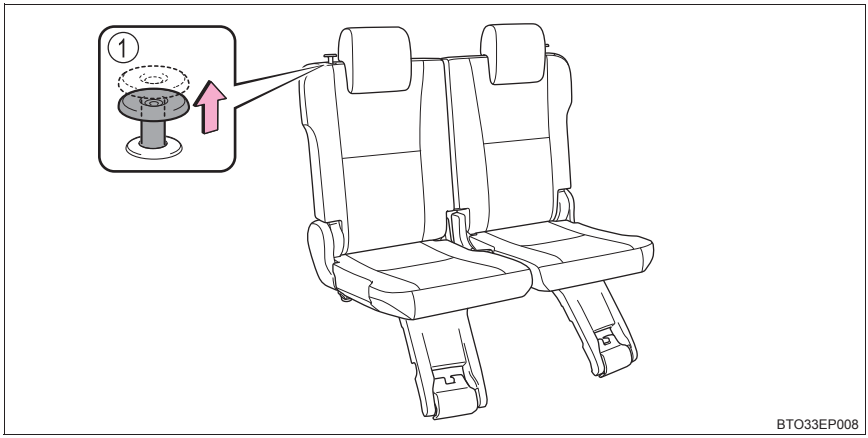
■タンブルについて

●シートをおろすときは、シート脚部および床面ロック部に物がないことを確認してから行ってください。

●リクライニングレバー・タンブルストラップを引くとシート全体が自動的にはねあがりますので注意してください。（スロープ車を除く）

サードシート

調整のしかた



① リクライニング調整

⚠ 警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 走行中はシート操作をしないでください。

ヘッドレスト

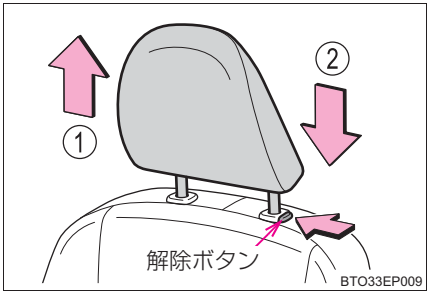
フロントシート

上下調整

① 上げる

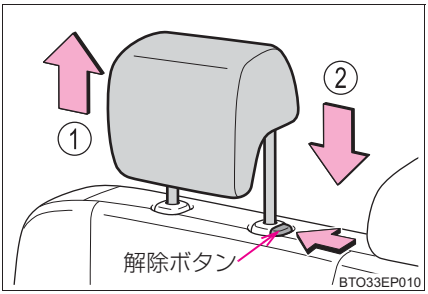
② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



セカンドシート

▶ ７人乗り車(左右席)／６人乗り車

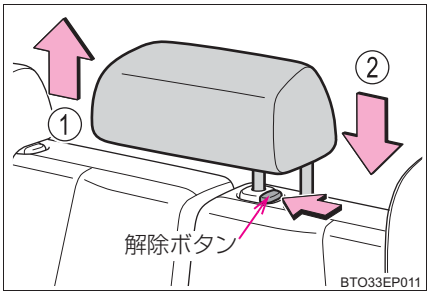


① 上げる

② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ ７人乗り車（中央席）



① 上げる

② 下げる※

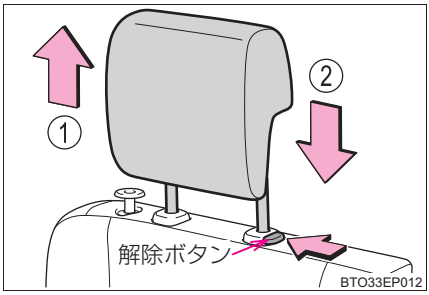
※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

サードシート

① 上げる

② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

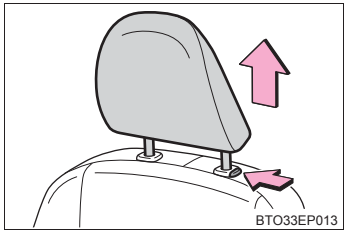


知識

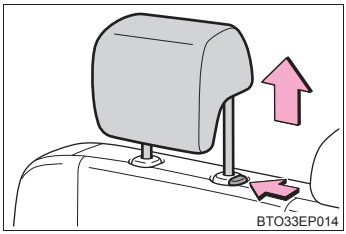
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます

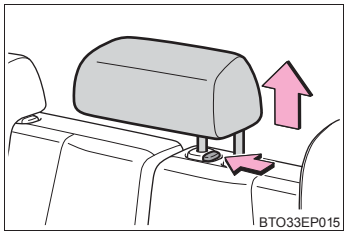
▶ フロントシート



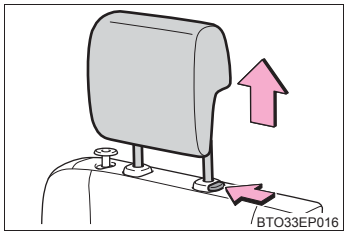
▶7人乗り車セカンドシート(左右席)／6人乗り車セカンドシート



▶ 7人乗り車セカンドシート(中央席)

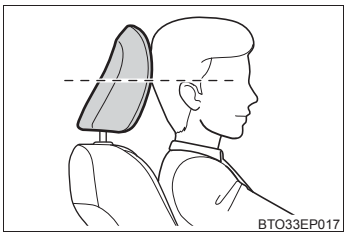


▶ サードシート



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■セカンドシート・サードシートのヘッドレストを使うときは

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠警告

■ヘッドレストについて

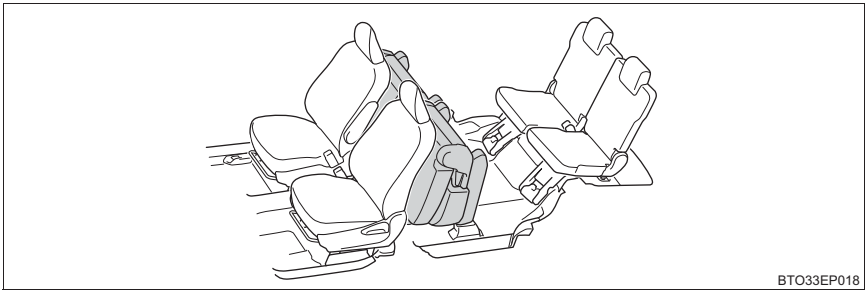
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

◆ セカンドシートの格納のしかた

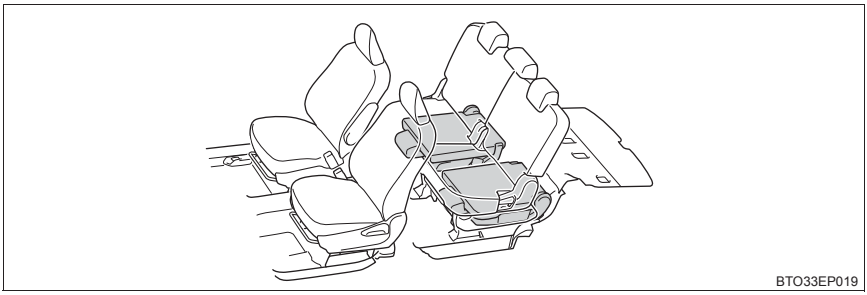
→P. 144



BTO33EP018

◆ サードシートの格納のしかた

→P. 145



BTO33EP019

セカンドシートの格納のしかた

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→P. 135）

7 人乗り車は、助手席側セカンドシートをタンブルしてから運転席側セカンドシートをタンブルしてください。

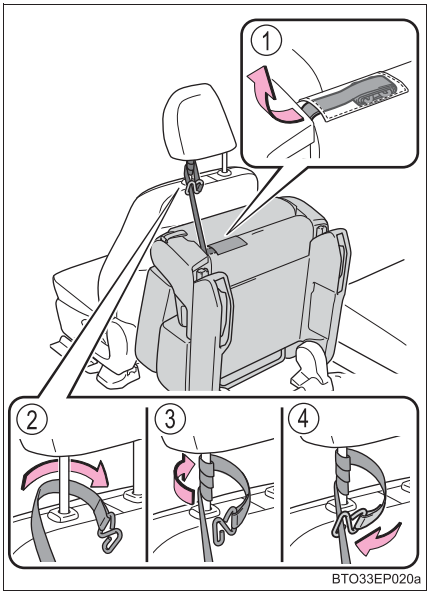
3 シートを固定する

① シートクッション後面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出す

② ベルトをフロントシートのヘッドレストステーに通す

③ ベルトの長さがあまる場合は、ヘッドレストステーに複数回ベルトを巻き付け、長さを調整する

④ フックをベルトに引っかける



サードシートの格納のしかた

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→P. 135）

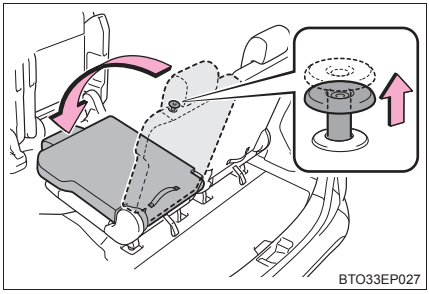
7 人乗り車は、助手席側セカンドシートをタンブルしてから運転席側セカンドシートをタンブルしてください。

3 サードシートのシートベルトのバックルを格納する（→P. 28）

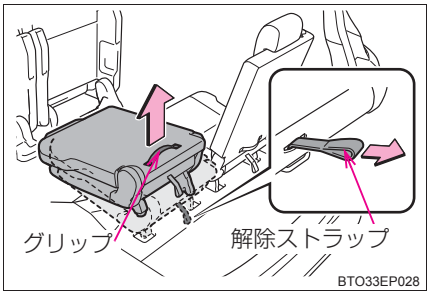
4 サードシートのヘッドレストを下げる。（→P. 140）

5 背もたれを前方に倒す

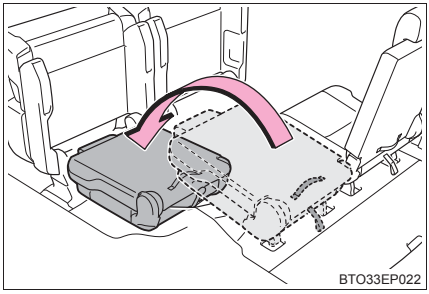
リクライニングノブを引いて、背もたれを前方に倒します。



6 シートロック解除ストラップを引いてロックを解除し、グリップを握りサードシートを引きあげる



7 サードシートを押し下げるようにしながらサードシート足元へ格納する



8 セカンドシートをもとにもどす（→P. 136）

■ **サードシートをもとにもどすときは**

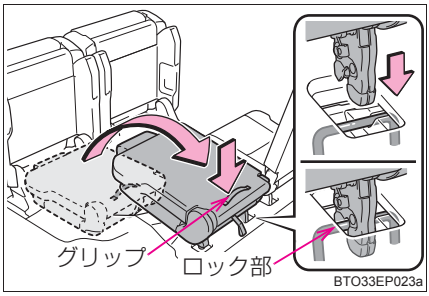
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→P. 135）

7 人乗り車は、助手席側セカンドシートをタンブルしてから運転席側セカンドシートをタンブルしてください。

3 グリップを握りサードシートを引きあげ、サードシートを押し下げるようにしながらシート固定位置までスライドする

シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、サードシートうしろ側を床に押しつけて確実にロック部を固定させます。



4 背もたれを起こし、固定する。

リクライニングノブを引いたまま背もたれを起こします。

5 セカンドシートをもとにもどす（→P. 136）

⚠ 警告

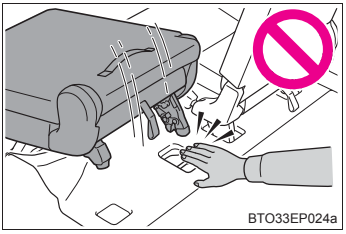
■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートのあいだにシートベルトが挟みこまれていないか確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■シートの格納について

- セカンドシートを格納して走行するときは、必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。
- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 格納操作時以外、シートロック解除ストラップを操作しないでください。
- 格納するときは必ずグリップを持って操作してください。
- シートをもとにもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。
- シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。



⚠ 注意

■ シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■ シートの格納について

- シートを格納するときや、もとにもどすときは、床面やシートクッションの上に物がないことを確認してから行ってください。
- セカンドシート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シートが動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。
  セカンドシートを格納したときは必ずシートを固定してください。

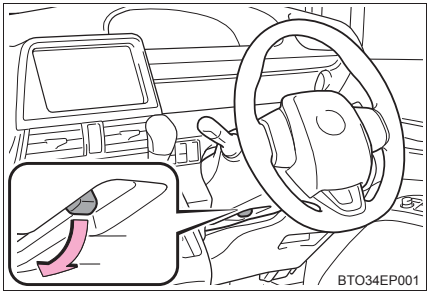
■ セカンドシートをタンブルするときは

→P. 138

ハンドル

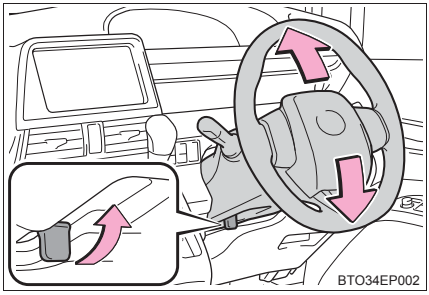
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



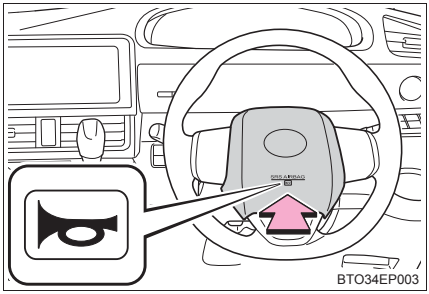
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 149）

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

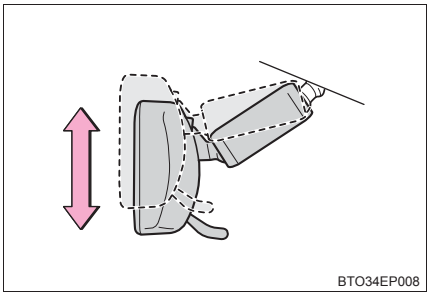
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

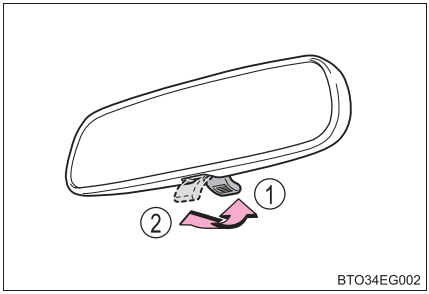


防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



⚠ 警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

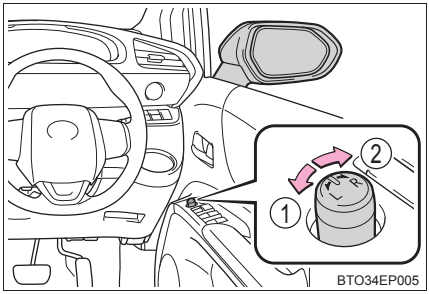
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



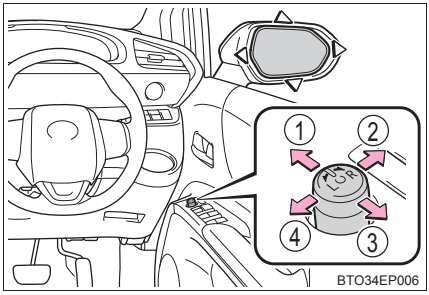
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

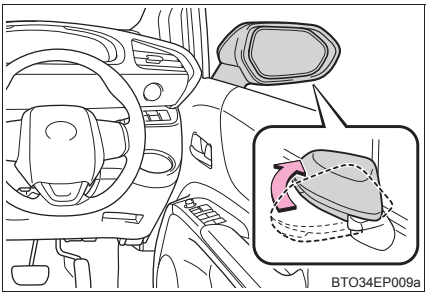
③ 下

④ 左



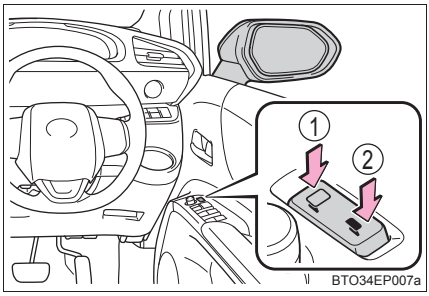
ドアミラーを格納する

▶ 手動タイプ



手で後方に押して格納する

▶ 電動タイプ



① もとの位置にもどす

② 格納する

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき（手動タイプを除く）

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

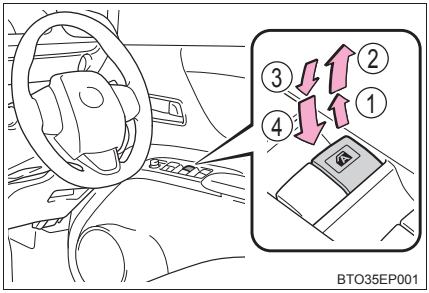
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉（運転席）※
③ 開ける
④ 自動全開（運転席）※

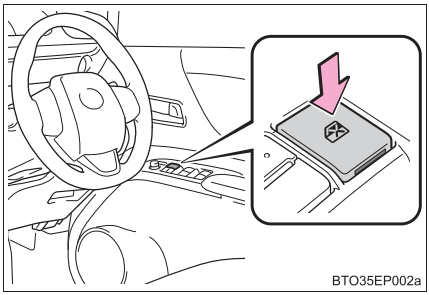
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動（運転席のみ）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを開けているときに、ドアガラスに負荷がかかると、作動が停止します。

■パワーウインドウを開閉することができないとき（運転席のみ）

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、パワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動した後 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

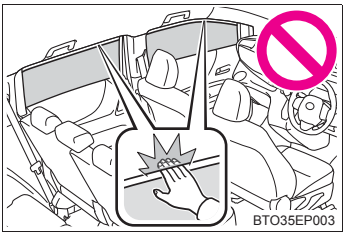
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 154）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能（運転席のみ）

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転 4

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 158
荷物を積むときの注意..... 167

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）..... 168
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）..... 171
オートマチックトランスミッション..... 178
方向指示レバー 180
パーキングブレーキ..... 181

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 182
フォグランプスイッチ..... 186
ワイパー&ウォッシャー（フロント）..... 187
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）..... 189

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 191

4-5. Toyota Safety Sense C
Toyota Safety Sense C ...194
PCS（プリクラッシュセーフティシステム 199
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...207
AHB（オートマチックハイビーム）..... 213
先行車発進告知機能..... 217

4-6. 運転支援装置について
Stop & Start System（SMART STOP）..... 219
運転を補助する装置..... 235

4-7. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 241

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 168, 171

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 178）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 181）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 178）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける

3 シフトレバーを P にする（→ P. 178）

4 スマートエントリー & スタートシステム非装着車：

エンジンスイッチを“LOCK ”にしてエンジンを停止する

スマートエントリー & スタートシステム装着車：

エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 235）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。（→ P. 341）

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。
この場合、警告灯が点灯します。（→ P. 341）

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 236）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 332 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P. 178)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車 : オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するとき

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 警告

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 352, 362 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “LOCK”（OFF）
- キーを抜き挿しできます。（シフトレバーがPのとき、キーを抜き挿しできます）
- ステアリングロックがかかります。

② “ACC”

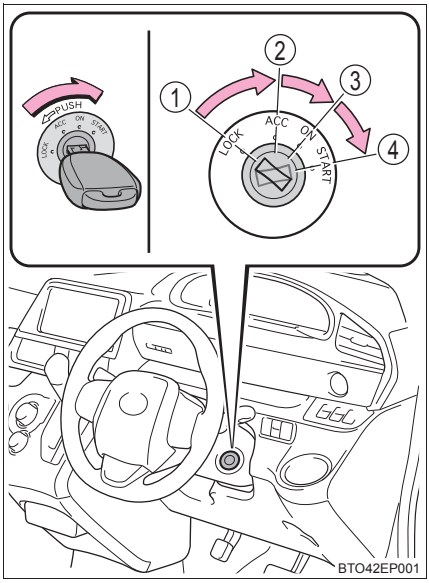
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

エンジンが始動できます。

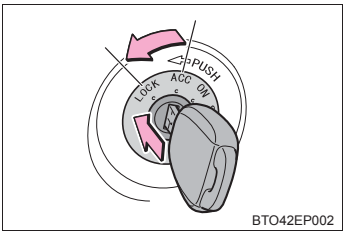


知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

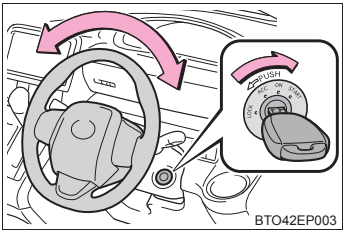
2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



BTO42EP002

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



BTO42EP003

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（→P. 332）

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

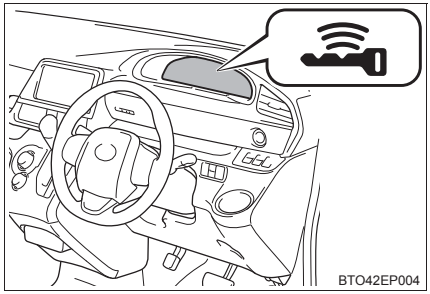
1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

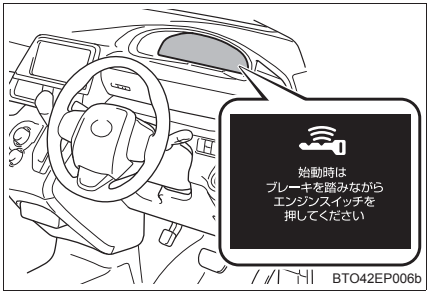
4 ブレーキペダルをしっかり踏む

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

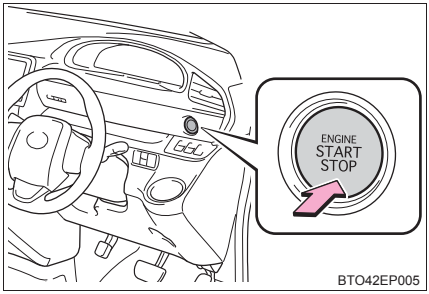
表示されないと、エンジンは始動しません。

5 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 173）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 181）

3 シフトレバーを P の位置にする

4 エンジンスイッチを押す

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

5 ブレーキペダルから足を離した状態にして、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

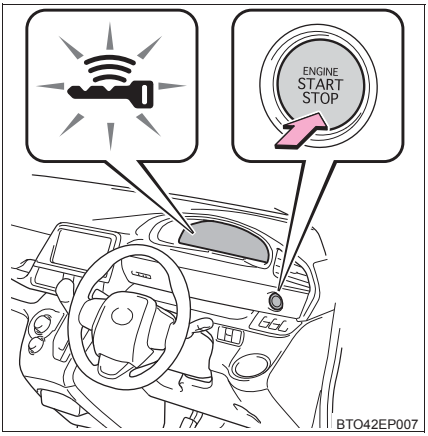
▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

5 ブレーキペダルから足を離してトリップインフォメーション表示部の「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

アクセサリーモード

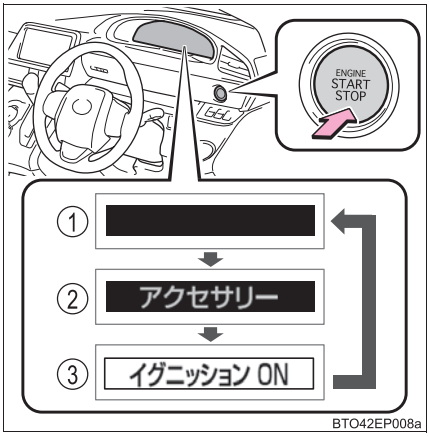
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



①OFF ※1

非常点滅灯が使用できます。

②アクセサリーモード※2

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

トリップインフォメーション表示部（→ P. 75）に「アクセサリー」が表示されます。

③イグニッションONモード※2

すべての電装品が使用できます。

トリップインフォメーション表示部（→ P. 75）に「イグニッション ON」が表示されます。

※1 シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

3 スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を OFF してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を OFF してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 98

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 129

■ご留意いただきたいこと

→ P. 130

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 67）
トヨタ販売店へご連絡ください。

●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

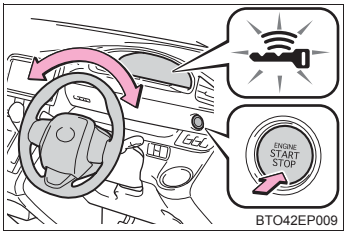
■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

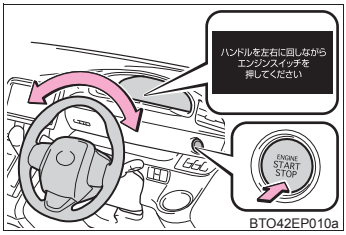
スマートエントリー & スタートシステム表示灯が 15 秒間緑色に速く点滅します。
シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



BTO42EP009

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。
シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



BTO42EP010a

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー & スタートシステム表示灯が黄色に点滅したとき（ドライブモニターディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 300

■エンジンスイッチの操作について

●エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→P. 381

⚠警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 332)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

- エンジンがかかっていないときに、スマートエントリー&スタートシステム表示灯が消灯していないときはエンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- エンジンがかかっていないときに、トリップインフォメーション表示部の「アクセサリー」が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

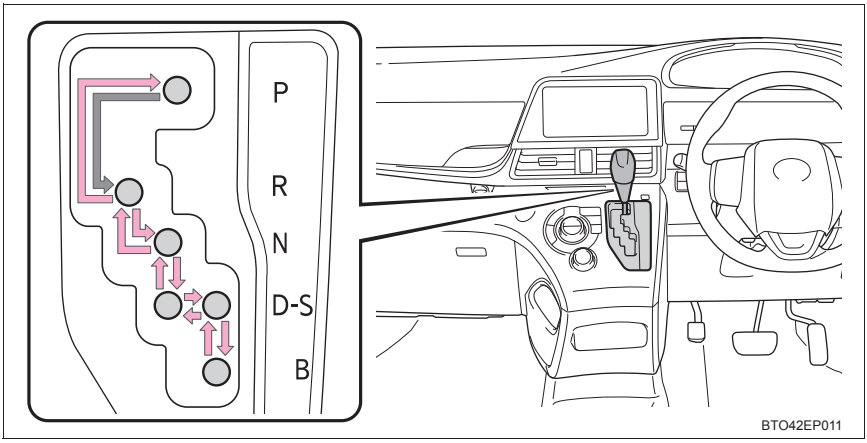
■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→P. 380

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P. 160

⚠警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

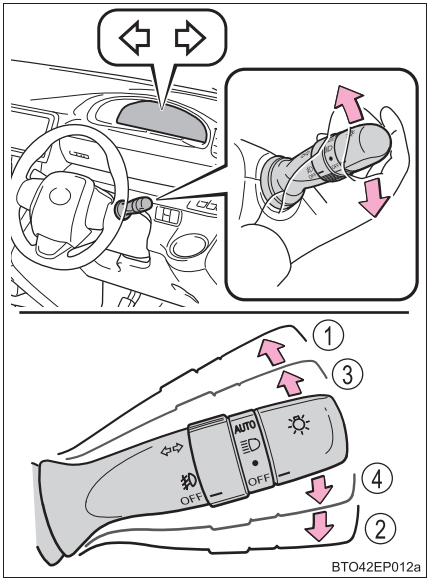
② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

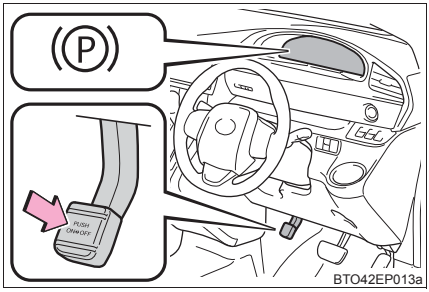
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 242

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 344

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

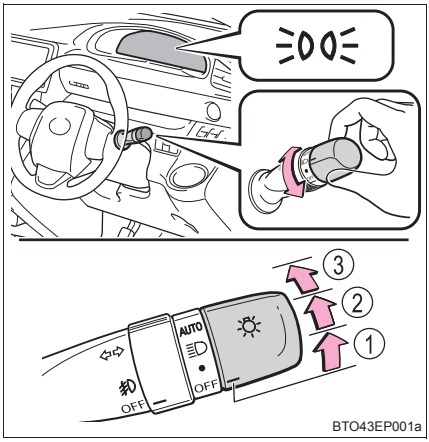
自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

① ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★
（エンジンスイッチが“ON”★、またはイグニッションONモード★のとき）



BTO43EP001a

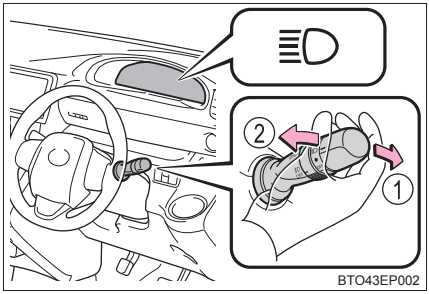
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



BTO43EP002

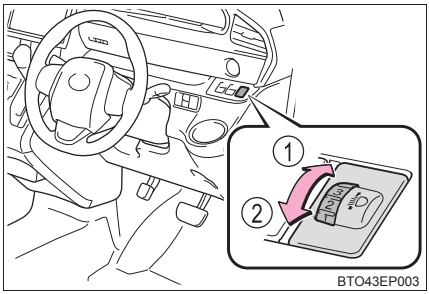
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



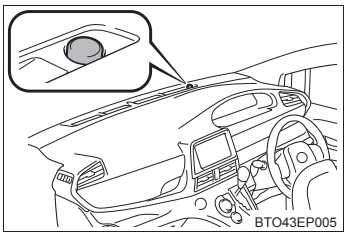
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	スロープ車除く	スロープ車
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	
運転席と助手席、サードシート左右席乗員	なし	1.5	
全乗員	なし	2.5	
全乗員	ラゲージルーム満載時	3	
運転者	ラゲージルーム満載時	4	

知識

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ランプ消し忘れ防止機能

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしてフロントドアまたは、スライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてフロントドアまたは、スライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイに「ライトが点灯しています」が表示されます。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能★

バッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”★、またはアクセサリーモードまたは OFF★の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

●エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にしたとき

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 404）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

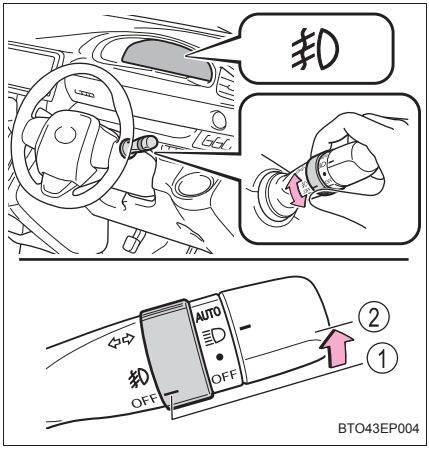
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

① 消灯する
② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

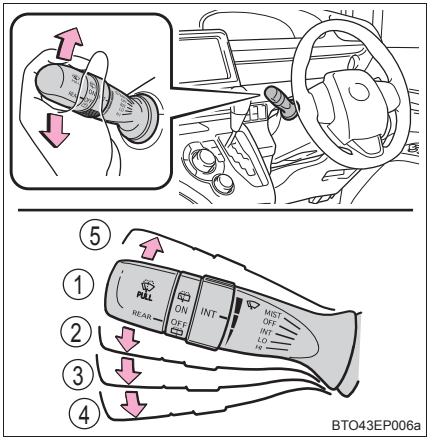
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

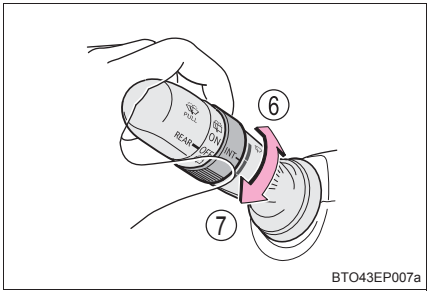
① OFF 停止
② INT 間欠作動
③ LO 低速作動
④ HI 高速作動
⑤ MIST 一時作動



BTO43EP006a

間欠作動を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

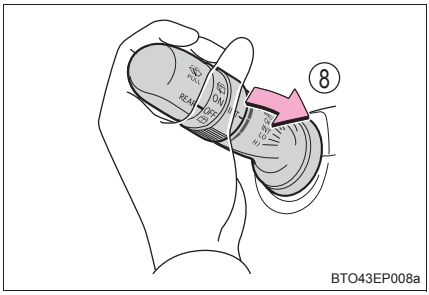
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



BTO43EP007a

⑧ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。



BTO43EP008a

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

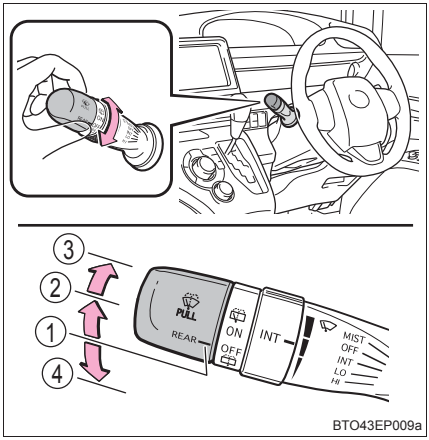
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① OFF 停止
② ON 通常作動
③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
④ ウォッシャー液を出す



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチを“LOCK”★またはOFF★にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■助手席側スライドドアが全開にならない状況

給油扉が開いていると、助手席側スライドドアは途中までしか開きません。
（→ P. 112）

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■給油するときは

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
  - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
  - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■給油するとき

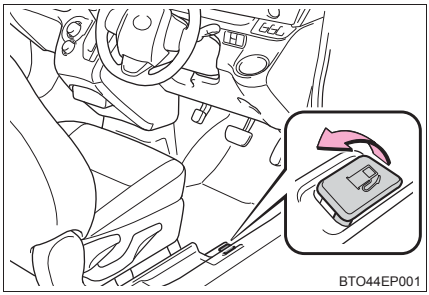
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

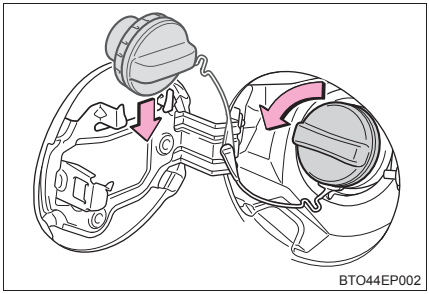
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける


BTO44EP001

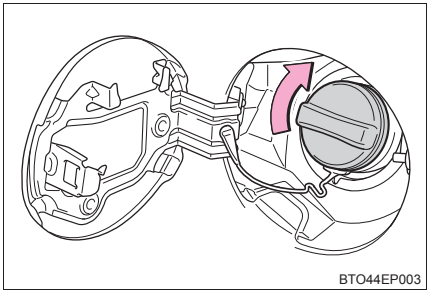
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む


BTO44EP002

給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。


BTO44EP003

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 199

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 207

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 213

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 217

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

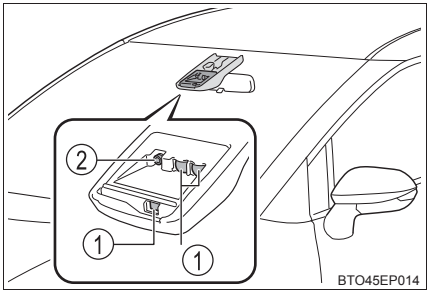
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー
② 単眼カメラ

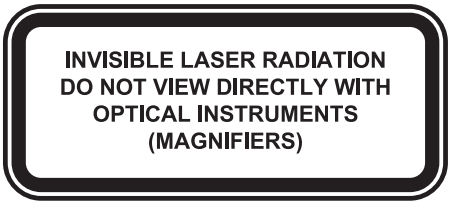


⚠警告

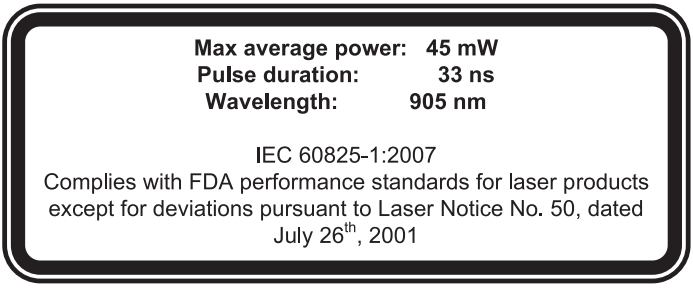
前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル



レーザー説明ラベル



レーザー放射仕様

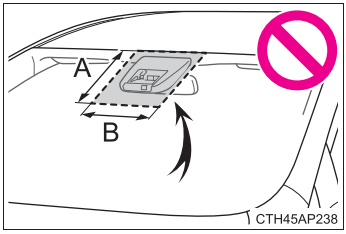
最大出力（平均）: 45 mW
パルス持続時間 : 33 ns
波長 : 905 nm
発散角（水平×垂直）: 28° × 12°

⚠注意

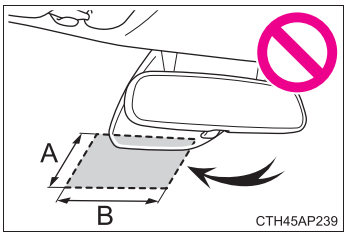
■前方センサーについて

前方センサーの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない
A:前方センサー下端から下約 10cmまで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。（→ P. 247, 253）

●フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

⚠注意

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしてください。また、前方センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  汚れていたり、油膜・水滴・雪などが付着したり、ふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
  前方センサー取り付け部のフロントウインドウガラス内側が汚れた場合は、取り外さずトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ワイパーブレードは早めに交換してください（→ P. 298）。前方センサー前部を適切にふき取れない場合、性能が低下することがあります。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  前方センサーのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- ダッシュボードに反射物を置かない

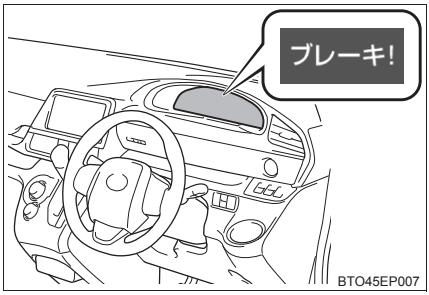
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更や ON ／ OFF を切りかえることができます。
（→ P. 200）

◆ 衝突警報

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

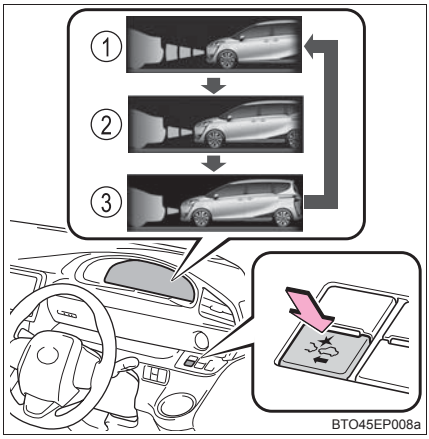
PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

① 遠い（タイミングが早くなる）

② 中間（初期設定）

③ 近い（タイミングが遅くなる）

PCS スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。



■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチが“ON”になるたびシステムは ON になります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

知識

■作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方車両（オートバイ・自転車は除く）と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

・車速約 15 ～ 140km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

・車速約 30 ～ 80km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

・車速約 10 ～ 80km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 10km/h 以上

ブレーキペダルを踏んでいる場合は、ドライバーに回避操作の準備ができていると判断し、プリクラッシュブレーキの開始タイミングを遅らせる場合があります。

以下の操作中はドライバー操作を優先し、システムが作動しないことがあります。

●アクセルペダルを強く踏み込んでいるとき

●ハンドルを大きくきった、または素早く操作しているとき

以下の場合、システムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●シフトポジションが R のとき

■プリクラッシュブレーキの作動解除

●プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

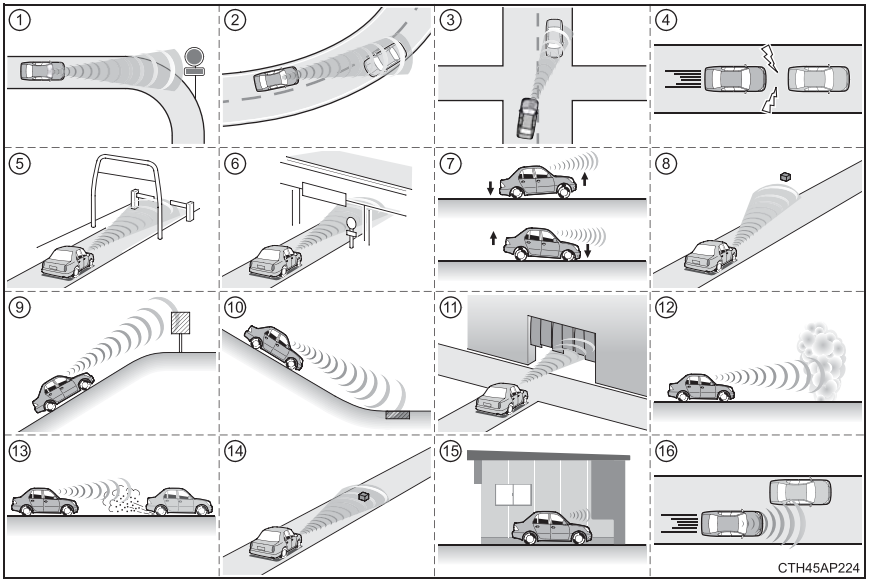
・アクセルペダルを強く踏み込んだ※
・ハンドルを大きくきった、またはすばやく操作したりした

※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。



① カーブの入り口の道路脇に障害物（道路標識・ガードレールなど）があるとき

② カーブで対向車とすれ違ったとき

③ 右左折時に対向車とすれ違ったとき

④ 先行車に急速に接近したとき

⑤ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき

⑥ 立体交差・道路標識・看板などが進行方向にあるとき

⑦ 車両姿勢が変化しているとき

⑧ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

⑨ 上り坂で進行方向の道路上方に構造物（看板・街灯など）があるとき

⑩ 下り坂で進行方向の路面に金属物（マンホール・鉄板など）があるとき

⑪ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝など）があるとき

⑫ 濃い霧や煙などがある場所を通過するとき

⑬ 先行車などから水・雪などの巻き上げがあるとき

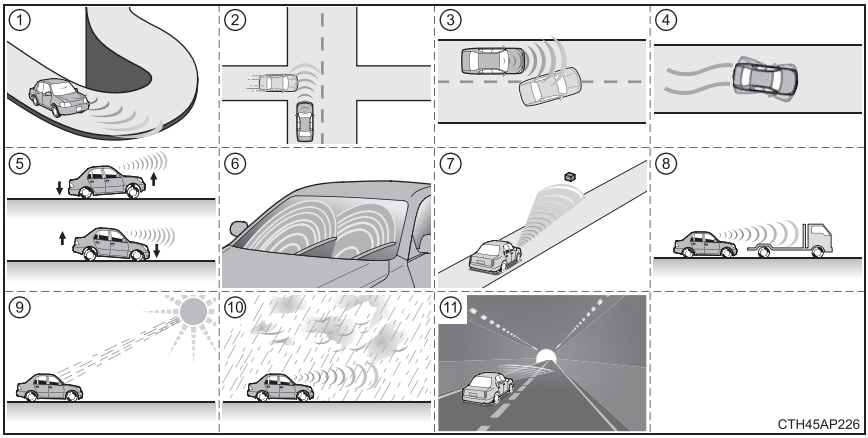
⑭ 路面上に反射物・段差・突起物などがあるとき

⑮ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき

⑯ 障害物（停止車両・ガードレールなど）の横すれすれを通過するとき

■システムが正常に働かないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正しく作動しない場合があります。



① きついカーブや起伏がある場所を走行するとき

② 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがあるとき

③ 自車の進行方向に急な割り込みがあるとき

④ 車が横すべりしているとき

⑤ 車両姿勢が変化しているとき

⑥ フロントウインドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき

⑦ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

⑧ レーザー波を反射しにくい先行車（後ろ部分が極端に低い・ひどく汚れているなど）のとき

⑨ 前方からの強い光（太陽光・対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

⑩ 雨・霧・雪・砂嵐など悪天候のとき

⑪ トンネル内や夜間など、周囲が暗いとき

■PCS　警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

・炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
・フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（→ P. 247, 253）
・ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられているとき

●PCS 警告灯が点滅したままのとき、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■TRC と VSC を停止したとき

●TRC と VSC の作動を停止（→ P. 237）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 201）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、以下の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 201）
・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする（→ P. 200）

●プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。また、プリクラッシュブレーキ作動終了後は、クリープ現象により車両が前進しますので、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

⚠ 警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

- 運転者が見る過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、前方車両を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方車両の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突の可能性が高いと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 注意

■システムの誤作動を防ぐために

次のときは、プリクラッシュセーフティシステムを OFF にしてください。

衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

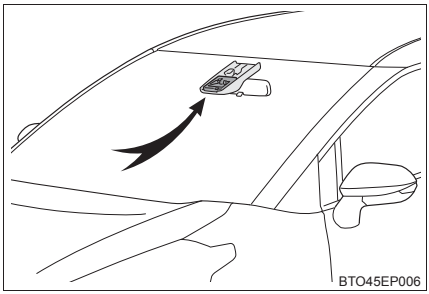
- 点検でシャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどに積載するとき
- 車両姿勢が変化しているとき（メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているときや、サスペンションを改造しているときなど）
- 車両けん引時

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中に、フロントウインドウガラス上部の前方センサーを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線から車両が逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告します。

前方センサー



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

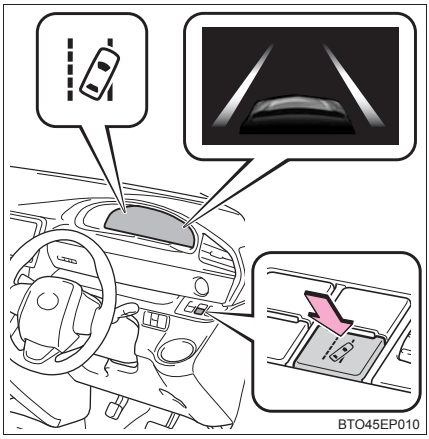
設定のしかた

LDA を使用するには LDA スイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が点灯します。

解除するには再度LDAスイッチを押します。

LDA の ON/OFF 状態は、エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★後、再始動しても継続します。



作動条件

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 150m 以上）を走行しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

両側の白線点灯：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅、および表示内の車両の位置が逸脱している方向に移動します。

BTO45EP011

片側の白線点灯：

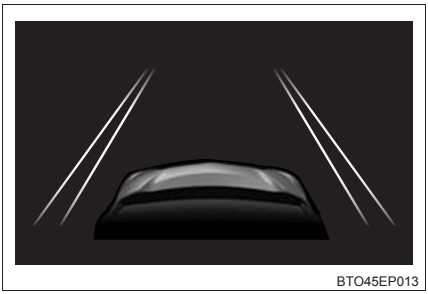
左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱した場合、その白線表示が黄色で点滅します。

BTO45EP012

両側の白ぬき線点灯：

白（黄）線が認識されていないまたは LDA が一時的に解除されていることを示しています。


BTO45EP013

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- ●方向指示レバーを操作したとき
- ●作動条件以外の車速になったとき
- ●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- ●車線逸脱警報吹鳴直後
  車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報音が聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動しないことがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 195）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●料金所や検札所の手前や交差点などを走行するとき

●急カーブを走行するとき

●車線の幅が極端に狭いときや広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線がかすれていたり、道路鋲や置き石などのとき

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき

●分岐・合流路などを走行するとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき

●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA の警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→P. 348）表示された画面の指示に従ってください。
また、警告メッセージは表示されても通常の走行に支障はありません。

■車線逸脱警報ブザーの感度調整について

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 88）により、LDA 警報感度を変更することができます。

⚠ 警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF してください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき

⚠ 注意

■LDA の故障や誤作動を防ぐために

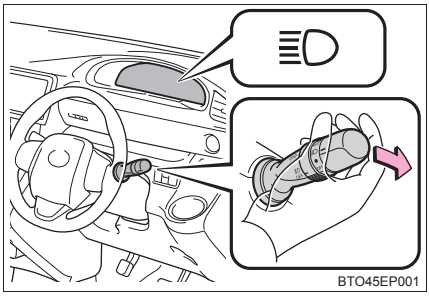
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。サスペンション部品の交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

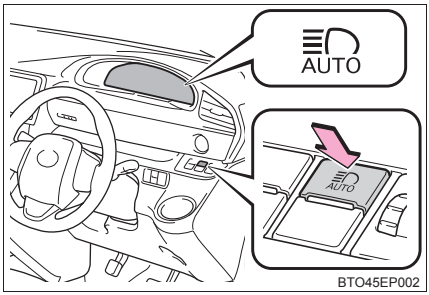
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO ★または ≡D にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。
ランプスイッチがロービームの状態でスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。(→ P. 216)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

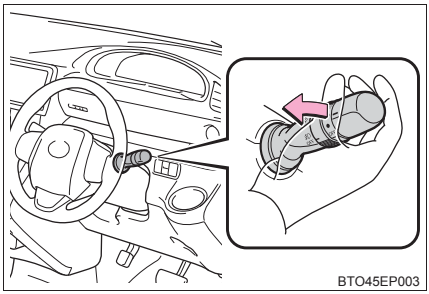
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

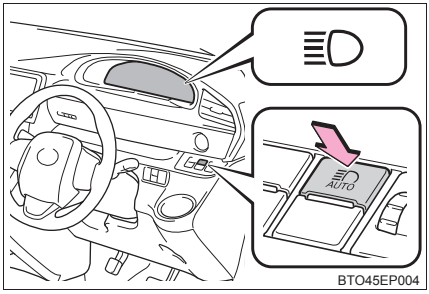

BTO45EP003

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



BTO45EP004

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★のとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「AHB 起動のためにはハイビーム操作が必要です」が表示されたときは

ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

⚠注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

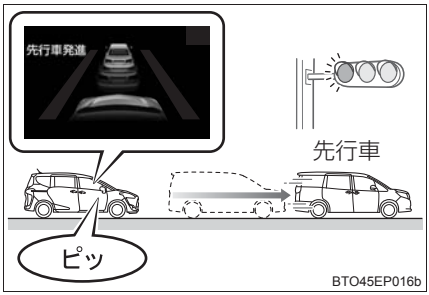
●荷物を積み過ぎない
●車両を改造しない

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせするシステムです。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合に告知します。



知識

■作動条件

シフトレバーが P、R 以外でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき

■先行車が発進したのに告知されない可能性があるとき

次の状況では先行車発進告知機能による告知がされない場合があります。

- ●自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）により、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車が二輪車のとき
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- ●先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティシステムが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅しているとき
- ●ハンドルを大きくきっているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■先行車発進告知機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 88）により、先行車発進告知機能を ON ／ OFF できます。

■先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 88）により、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます。

⚠警告

■告知されない状況のときに告知される可能性があるとき

次の状況では告知されない状況でも告知がされるおそれがあります。
システムを過信せずに、先行車の動きを確認してから発進をしてください。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき。
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、他の車両や移動物が割り込んだり通過したとき

Stop & Start System (SMART STOP) ★

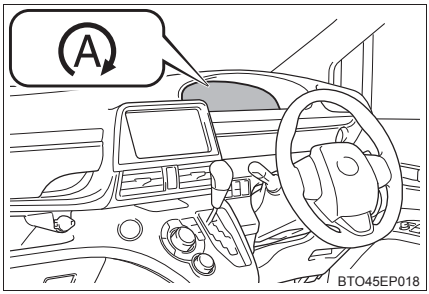
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start System の操作（D・S・B レンジアイドリングストップ）

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D・S・B で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

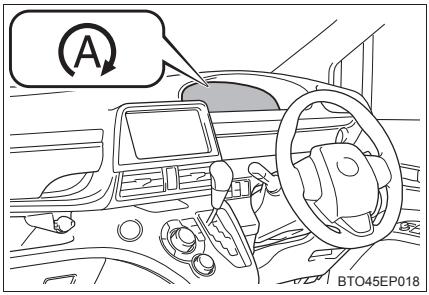
ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start System の操作（P・N レンジアイドリングストップ）

■ エンジンが停止する



1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P または N にすると、エンジンが自動的に停止します

Stop & Start 表示灯が点灯します。

D・S・B レンジアイドリングストップ状態で、シフトレバーを P または N にしても、エンジンの停止状態は継続されます。

■ エンジンが再始動する

シフトレバーを D・S・B・R のいずれかにすると、エンジンが再始動します

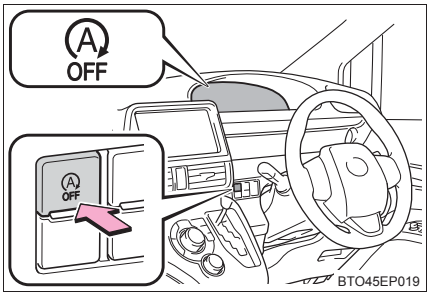
シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。
Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にしてから“ON”★またはイグニッション ON モード★にすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
・エンジンが十分暖まっているとき
・外気温が -5 ℃以上のとき
・シフトレバーが R 以外のとき
・ が OFF（オートエアコン装着車）のとき
・ボンネットが閉まっているとき（→ P. 285）
・運転席シートベルトを着用しているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、または定期的な充電中のとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・標高が高いとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー温度が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ
・消費電力が大きいとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

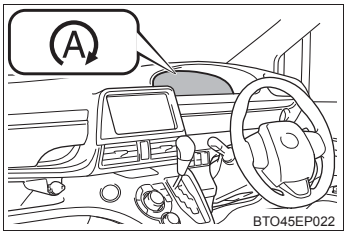
・エアコンを ON にしたとき
・ を ON（オートエアコン装着車）にしたとき
・ハンドル操作したとき
・P・N レンジアイドリングストップ中にシフトレバーを D・S・B・R にしたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■Stop & Start 表示灯について

走行中に Stop & Start システムの作動条件が満たされると、Stop & Start 表示灯が点灯し、停止時に Stop & Start システムが作動可能状態であることをお知らせします。



■ボンネットを開けたときは（D・S・B レンジアイドリングストップ）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作（→P. 168, 171）でエンジンを始動させてください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF ★にし、約 30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■Stop & Start システムについて

●Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

●Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、Stop & Start キャンセル表示灯の点滅・警告ブザーで注意を促します。（→P. 341）

●アイドリングストップ中にエンジンスイッチを操作してもエンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■Stop & Startシステムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

オートエアコン装着車は を押して曇りを取ってください。マニュアルエアコン装着車はStop & Startキャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させたのち、 を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切りかえてください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Startキャンセルスイッチを押し、Stop & Startシステムを非作動にしてください。

■Stop & Startシステムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Startシステムによるエンジン停止中はエアコン（冷房・暖房・除湿機能）がOFFになり、送風または無風になります。エアコンがOFFにならないようにするには、Stop & Startキャンセルスイッチを押してStop & Startシステムを非作動にしてください。

■Stop & Startシステムによるエンジン停止中に、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

▶マニュアルエアコン装着車（ドライブモニターディスプレイ装着車）

アイドリングストップ時間の切りかえ（→P. 225）で、長め（Long）を選択している場合は、通常を選択してください。
通常を選択して臭いが発生したときは、Stop & Startキャンセルスイッチを押してStop & Startシステムの作動を停止してください。

▶マニュアルエアコン装着車（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

アイドリングストップ時間の切りかえ（→P. 225）で、「LONG」（長め）を選択している場合は、「NORMAL」（通常）を選択してください。
「NORMAL」（通常）を選択して臭いが発生したときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押してStop & Startシステムの作動を停止してください。

▶オートエアコン装着車

Stop & Startキャンセルスイッチを押してStop & Startシステムの作動を停止してください。

■エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の切りかえについて

次のそれぞれの操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間は切りかえできません)

●Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作

●マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面(→ P. 226)からのメーター操作(マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

●マルチインフォメーションディスプレイの「設定」画面(→ P. 88)からのメーター操作(マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

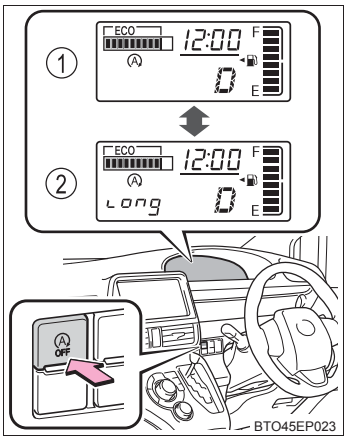
▶Stop & Start キャンセルスイッチ長押しによる設定(ドライブモニターディスプレイ装着車)

Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続けるごとに通常と長めに切りかわります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 3 秒間スイッチ操作を行わないと、もとの表示にもどり、設定が完了します。

① 通常

② 長め(Long)



▶Stop & Start キャンセルスイッチ長押しによる設定(マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

Stop & Startキャンセルスイッチを3秒以上押し続けるごとに、「NORMAL」(通常)・「LONG」(長め)が切りかわります。(マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面、または「設定」画面で確認できます)

▶「Stop & Start システム情報」画面からの設定

1「Stop & Start システム情報」画面で、メーター操作スイッチ（→ P. 84）の⊙を長押しする

2メーター操作スイッチの∧または、∨を押して「時間設定」を選択し、メーター操作スイッチの⊙を押す

3メーター操作スイッチの∧または、∨を押して、「NORMAL」（通常）・「LONG」（長め）を選択し、メーター操作スイッチの⊙を押す

▶「設定」画面からの設定

→ P. 88

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを“LOCK”にまわして、3 秒以上保持してから“ACC”または“ON”に（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードに（スマートエントリー & スタートシステム装着車）し、オーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）、または OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にし、次の操作を 2 回くり返すことでオーディオが作動します。

・エンジンスイッチを“ON”にし、再度エンジンスイッチを“LOCK”に（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）、またはエンジンスイッチイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にする

■バッテリーを交換するとき

→ P. 386

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

ドライブモニターディスプレイの「トリップインフォメーション」（→ P. 79）で Stop & Start システムの作動状態を表示します。

●始動後アイドリングストップ時間

エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

●通算アイドリングストップ時間

リセット後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、通算アイドリングストップ時間表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」(→ P. 83) で Stop & Start システムの作動状態を表示します。

SMART STOP	現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。 また、メーター操作スイッチを使ってエアコンが ON の時のアイドリングストップ時間を切りかえできます。(→ P. 225)
始動後	エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。
リセット後	リセット後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。
始動後節約燃料	エンジン始動後のアイドリングストップで節約した燃料（参考）を表示します。
リセット後節約燃料	リセット後のアイドリングストップで節約した燃料（参考）を表示します。

次の手順で「リセット後」と「リセット後節約燃料」をリセットできます。

1 「Stop & Start システム情報」画面で、メーター操作スイッチ（→ P. 84）の◎を長押しする

2 メーター操作スイッチの∧または、∨を押して「リセット」を選択し、メーター操作スイッチの◎を押す

・リセットが完了すると「リセットしました」と表示されます。
・リセットができなかったときは「リセットできませんでした」と表示されます。

■アイドリングストップ時間の割り込み表示について

アイドリングストップ時間の割り込み表示を ON ／ OFF にできます。

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

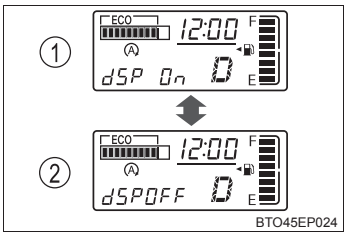
1 始動後アイドリングストップ時間（→P. 227）を表示中に、表示切りかえボタンを長押しし、カスタマイズ表示に切りかえる

2 表示切りかえボタンを押すごとに ON ／ OFF が切りかわります。

設定を完了するときは、再度表示切りかえボタンを長押しします。

① ON（割り込み有）

② OFF（割り込みなし）



▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」画面（→P. 88）からのメーター操作により、アイドリングストップ時間の割り込み表示を ON ／ OFF にできます。

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないときや、Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したときにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
Ⓐエアコン優先	**・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している** → 設定温度と室内温度の差が小さくなると作動しやすくなります。 ▶マニュアルエアコン装着車 **・A/C を押している** ▶オートエアコン装着車 **・ を押している**

メッセージ	状況
(A)バッテリー充電	**・バッテリーの充電量が低下している可能性があります** → バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 **・リフレッシュ充電中の可能性があります（参考シーン：バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだなど）** →約30～60分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 **・ボンネットが開いている状態でエンジン始動した可能性があります** → ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。 **・バッテリーが冷えている可能性があります** → エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度上昇に伴い作動可能状態になります。 **・バッテリーが非常に熱くなっている可能性があります** → エンジンを停止しエンジンルーム内の温度が十分に下がると作動可能状態になります。
(A)ブレーキシステム	**・ブレーキ倍力装置の負圧が低下した** **・標高が高い** → ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態にもどります。
(A)シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずしている**
(A)専用バッテリー非装着	**・Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性があります** →Stop & Start システムが作動しません。販売店で点検を受けてください。
(A)ボンネット開	**ボンネットが開いている**

●Stop＆Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
(A)エアコン優先	**・エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している** ▶マニュアルエアコン装着車 **・(A/C)を ON にした** ▶オートエアコン装着車 **・ を ON にした**
(A)ブレーキシステム	**・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをした** →走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態にもどります。
(A)バッテリー充電	**・バッテリーの充電量が低下している可能性があります** →バッテリーの充電を優先させるため、エンジンを再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
(A)ハンドル操作	**ハンドル操作をした**
(A)シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずした**
(A)ボンネット開	**ボンネットを開けた**

■システムに異常があるおそれについて

次のときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示された（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

●Stop & Start キャンセル表示灯が点滅している

⚠警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- ●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

▶ドライブモニターディスプレイ装着車

- ●運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジション（ドア連動）のときにルームランプが点灯するとき
- ●運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のときにルームランプが点灯しないとき

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- ●運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示（→ P. 348）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジション（ドア連動）のときにルームランプが点灯するとき
- ●運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示（→ P. 348）が表示されない、またはルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のときにルームランプが点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 坂道発進補助機能

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 221）

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 199

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 緊急ブレーキシグナル

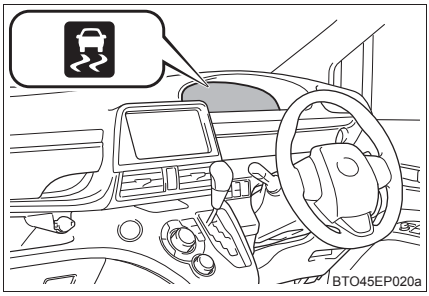
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ アクティブトルクコントロール 4WD★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

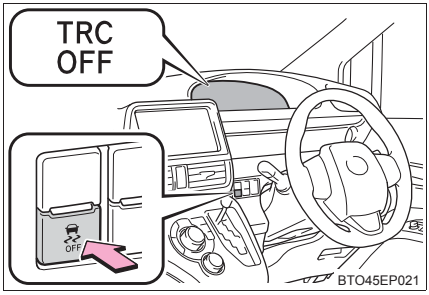
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

TRC を停止するには を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

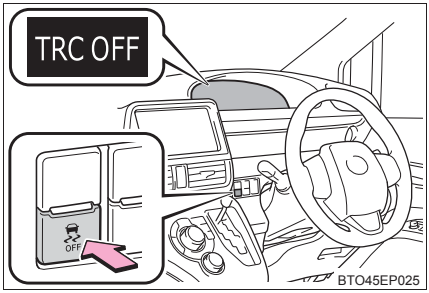
もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

TRC を停止するには を押す



マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持してください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。（→ P. 204）

■ を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯した（ドライブモニターディスプレイ装着車）または、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示された（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）とき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを“LOCK”★、または OFF★にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または、N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 400）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC・アクティブトルクコントロール 4WD が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■アクティブトルクコントロール 4WD ★について

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした 4WD ですので、無理な走行はしないでください。
- すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 289）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●前２輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- ●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を指定値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

⚠ 警告

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- ●LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用しない

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

■ドアやワイパーが凍結したとき

ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。
熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内装備・機能 5

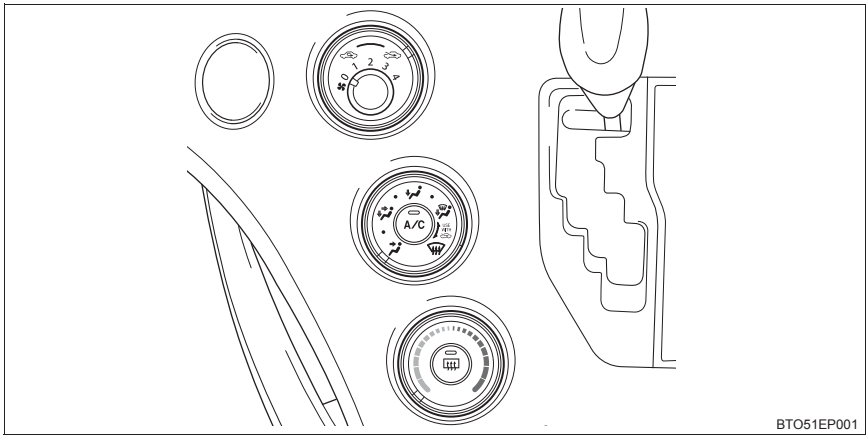
5-1. エアコンの使い方
マニュアルエアコン……246
オートエアコン……251
シートヒーター……257

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧……259
・パーソナルランプ／フロントルームランプ……260
・リヤルームランプ……260

5-3. 収納装備
収納装備一覧……262
・グローブボックス……263
・助手席アッパーボックス……263
・カップホルダー／ボトルホルダー……264
ラゲージルーム内装備……266
・デッキボード……266
・デッキアンダートレイ……266
・デッキフック……267

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備……268
・サンバイザー……268
・バニティミラー……268
・アクセサリーソケット……269
・買い物フック……270
・カードホルダー……271
・アシストグリップ……272
・時計……273
・アームレスト……274
・ステアリングスイッチ……275

マニュアルエアコン★



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは を右に、下げるときは左にまわす

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには を押します。

■ 風量を切りかえる

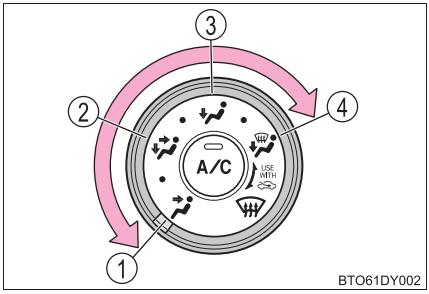
風量を増やすときは を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、ダイヤルを 0 の位置にします。

■ 吹き出し口を切りかえる

をまわす

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

をまわす

内気循環にするには、ダイヤルの位置を にします。

外気導入にするには、ダイヤルの位置を にします。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を の位置に合わせる

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

を押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォッガー

リヤウインドウガラスの曇りを取るときにお使いください。

を押す

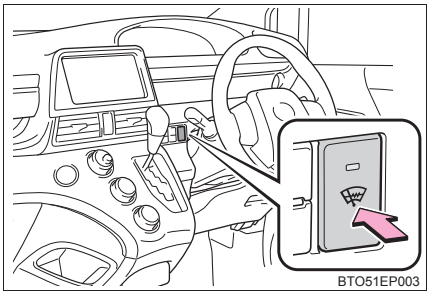
リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。（寒冷地仕様車）

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



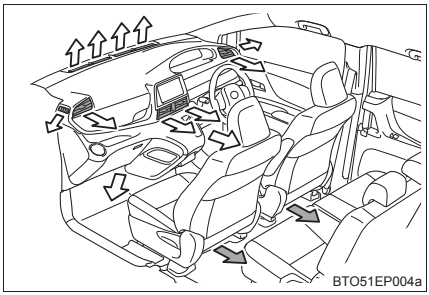
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

⬅：寒冷地仕様車のみ

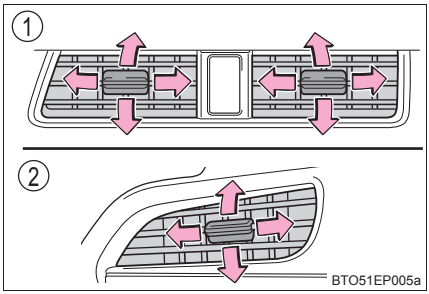


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 中央吹き出し口

② 左右吹き出し口

風向きを外側いっぱいに“カチッ”と音がする位置まで調整すると、吹き出し口を閉じることができます。(左右吹き出し口のみ)



知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

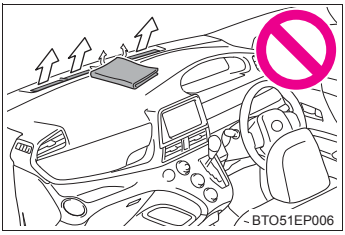
→ P. 295

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

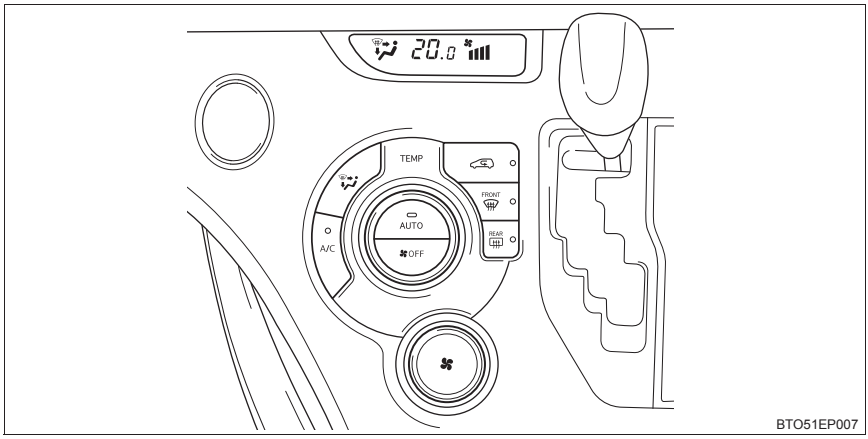
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

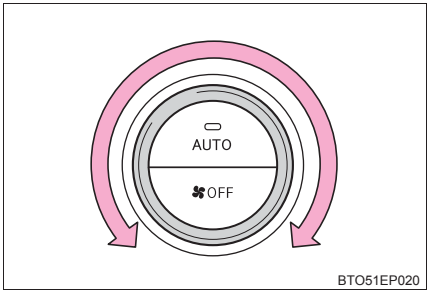


BTO51EP007

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左にまわす

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

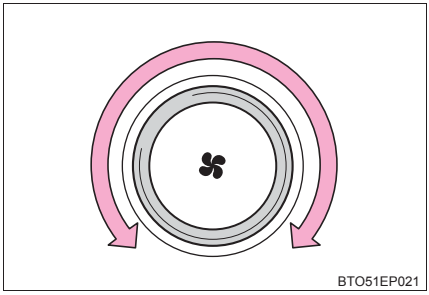


BTO51EP020

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左にまわす

を押すと、送風が止まります。



BTO51EP021

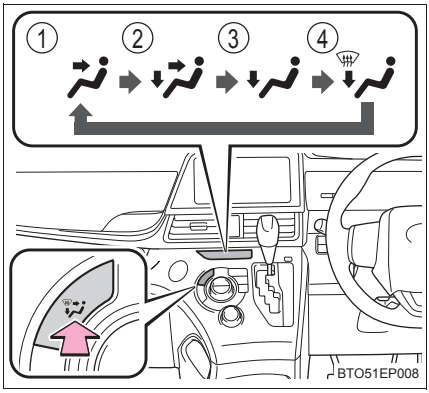
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1 を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度を設定する

3 送風を止めたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー

リヤウインドウガラスの曇りを取るときに使用ください。

を押す

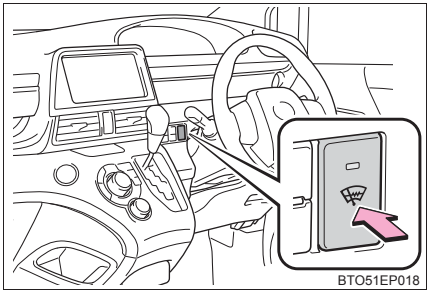
・ 押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
・ リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的にオフになります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。


BTO51EP018

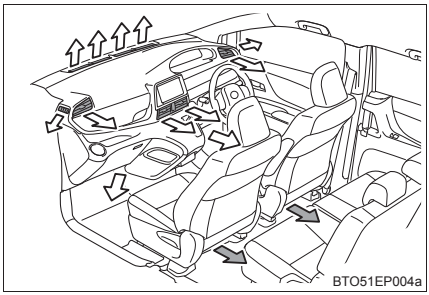
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

⬅：寒冷地仕様車のみ

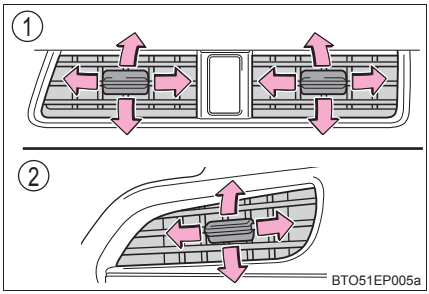


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 中央吹き出し口

② 左右吹き出し口

風向きを外側いっぱいに“カチッ”と音がする位置まで調整すると、吹き出し口を閉じることができます。(左右吹き出し口のみ)



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、

を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、

を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●

を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 295

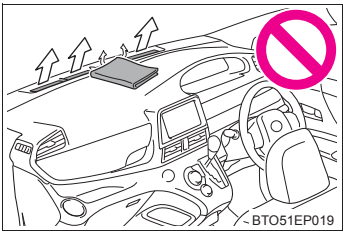
⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

操作のしかた

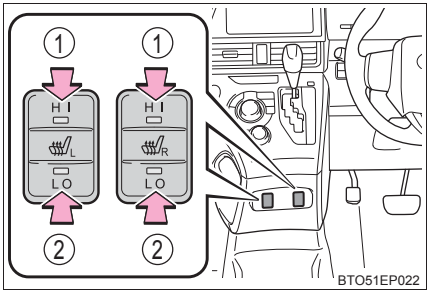
スイッチを押す

① HI（強）

② LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

R: 運転席側
L: 助手席側



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■HI（強）・LO（弱）について

●HI（強）にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。

●LO（弱）にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

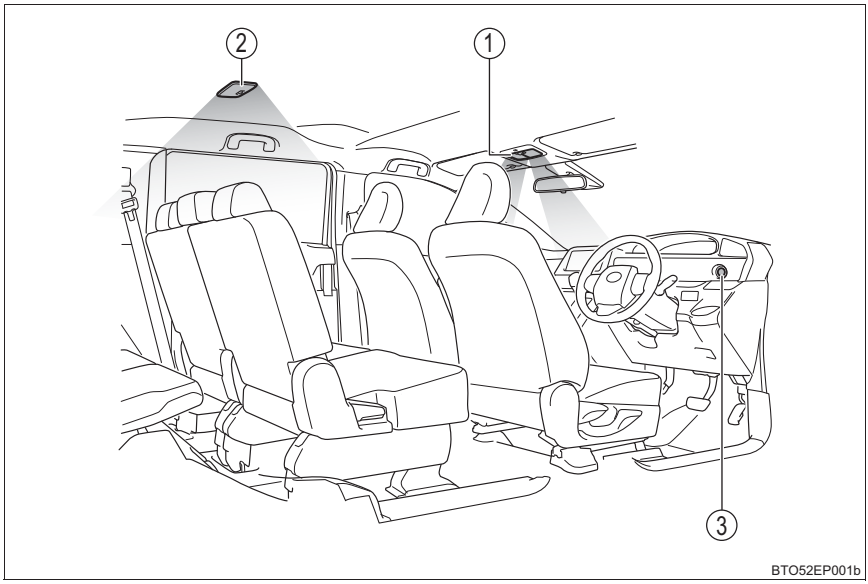
⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧



① パーソナルランプ
／フロントルームランプ （→ P. 260）

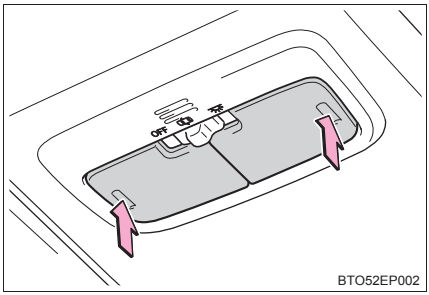
② リヤルームランプ （→ P. 260）

③ エンジンスイッチ照明
（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

パーソナルランプ／フロントルームランプ

■ パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する



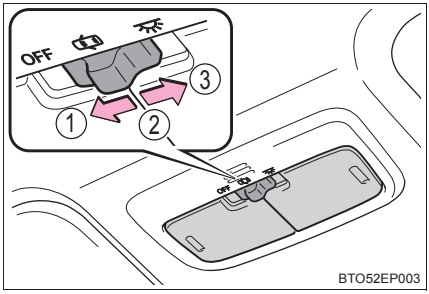
■ フロントルームランプ※

① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）

③ ランプを点灯する

※ リヤルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のとき、フロントルームランプスイッチを操作するとリヤルームランプも連動して点灯／消灯します。



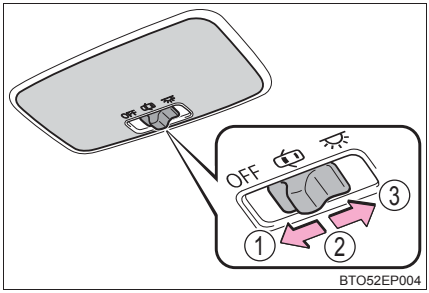
リヤルームランプ

① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）

フロントルームランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のときに使用できます。

③ ランプを点灯する



知識

- ランプスイッチがドアポジション（ドア連動）のとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）／位置（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。※（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが“LOCK”★または OFF★で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。※
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 404）

※ フロントルームランプスイッチが OFF のときは、リヤルームランプスイッチをドアポジション（ドア連動）にしてもリヤルームランプのイルミネーテッドエントリーシステムは作動しません。

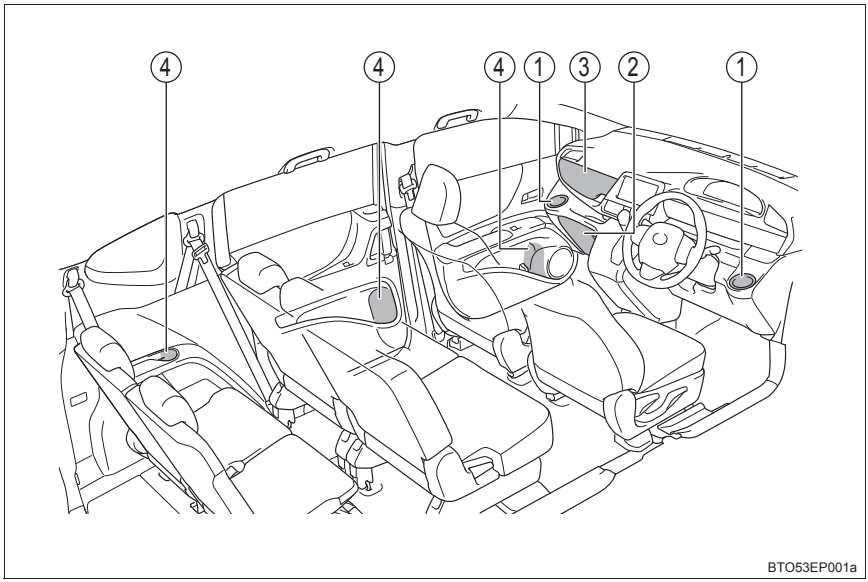
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



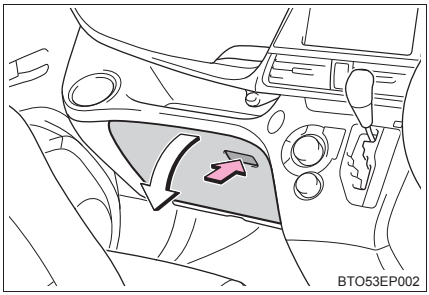
① カップホルダー （→ P. 264）
② グローブボックス （→ P. 263）
③ 助手席アッパーボックス （→ P. 263）
④ ボトルホルダー （→ P. 264）

⚠ 警告

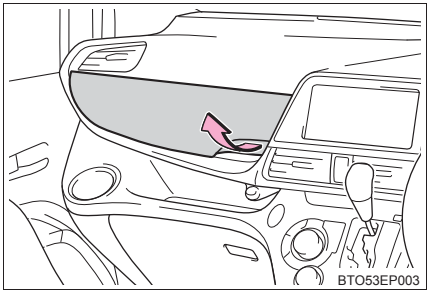
- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける

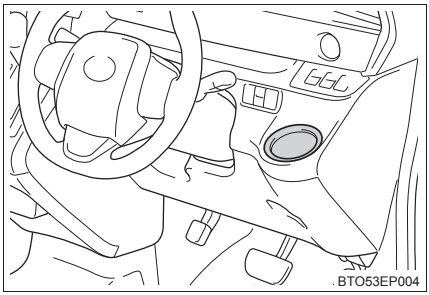


助手席アッパーボックス



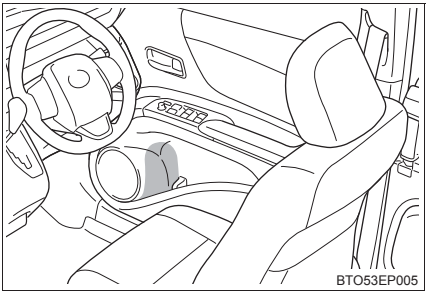
カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

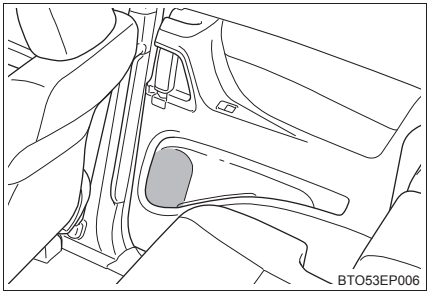


■ ボトルホルダー

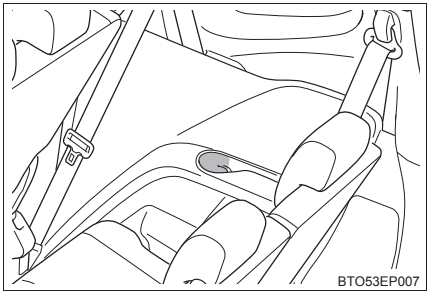
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート



知識

■ボトルホルダーとして使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

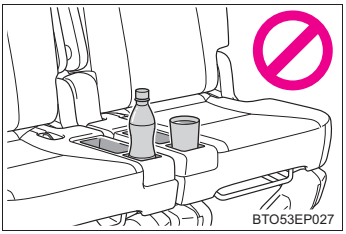
注意

■ボトルホルダーについて

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

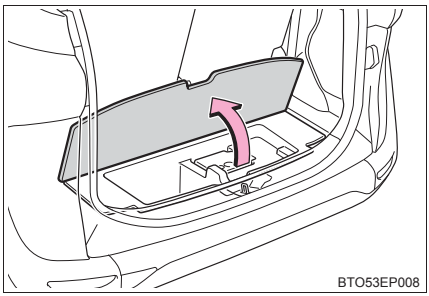
■セカンドシート中央のトレイについて（6 人乗り車）

セカンドシート中央のトレイには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップ・ペットボトルなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。



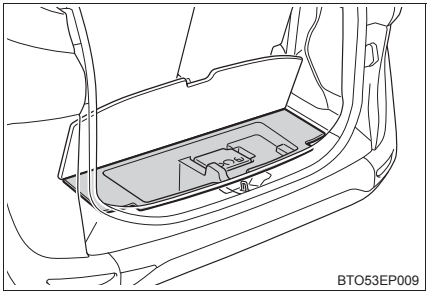
ラゲージルーム内装備

デッキボード

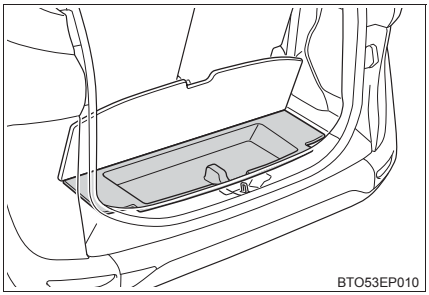


デッキアンダートレイ

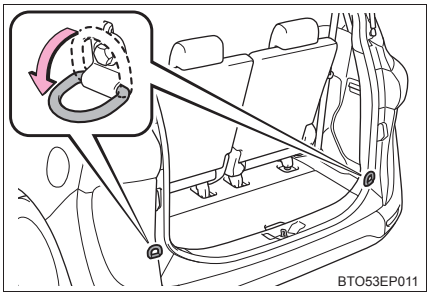
▶FF 車（前輪駆動）のタイヤパンク応急修理キット装着車



▶4WD 車（4 輪駆動）／応急用タイヤ装着車



デッキフック

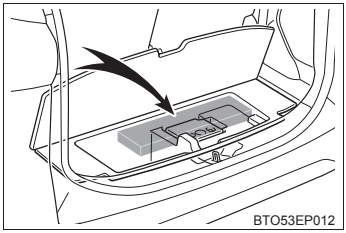


知識

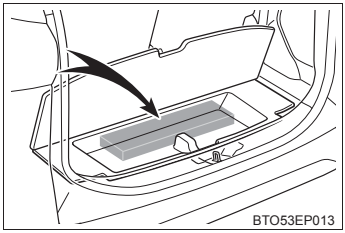
■停止表示板収納について

デッキアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶FF 車（前輪駆動）のタイヤパンク応急修理キット装着車



▶ 4WD 車（4 輪駆動）／応急用タイヤ装着車



警告

■デッキフックを使用しないときは

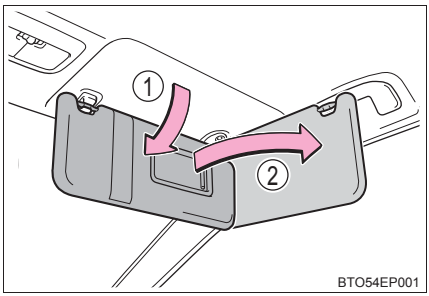
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

その他の室内装備

サンバイザー

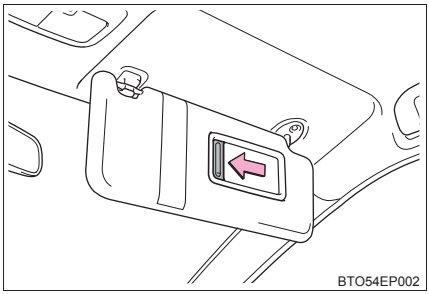
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

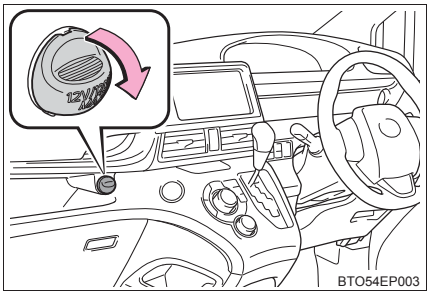
カバーをスライドして開ける



アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■Stop & Start システムによるエンジン再始動時について★

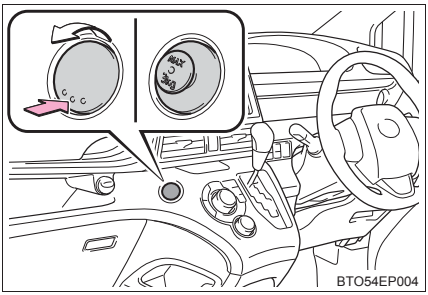
エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

買い物フック



⚠ 警告

■買い物フックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの状態にもどしておいてください。

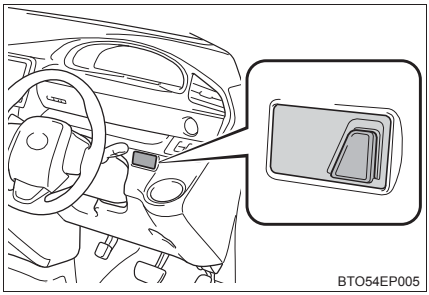
⚠ 注意

■買い物フックの破損を防ぐために

3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

カードホルダー（パワースライドドア非装着車）

領収書、チケット、カード類などを挟むことができます。



⚠ 警告

■カードホルダーについて

- 運転中、視界をさえぎるようなものは挟まないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 地図や写真など挟んであるものを見ながら運転しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

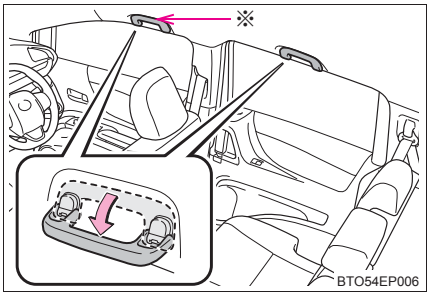
■損傷を防ぐために

分厚い紙などは挟まないでください。無理な力がかかると変形や、損傷などのおそれがあります。

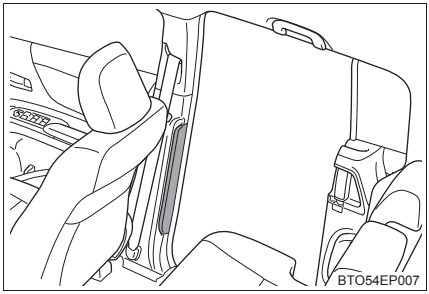
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

※ 運転席のアシストグリップ（回転式）は、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車のみに装着されます。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

時計

スイッチを押して時刻を調整することができます。

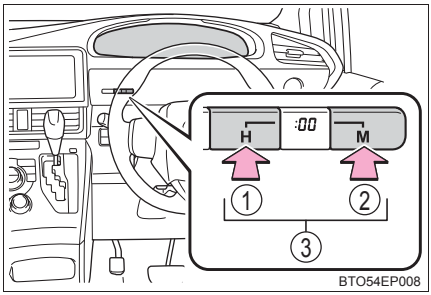
①“時”を調整する（H）

②“分”を調整する（M）

③“分”を 00 にする※

時刻調整スイッチを同時に 1 秒以上押します。

※（例）1：00～1：29→1：00
1：30～1：59→2：00



知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

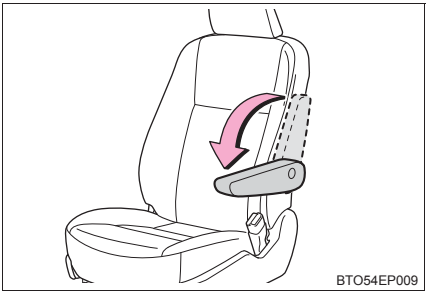
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アームレスト

手前に倒して使用します。

▶ 運転席★



▶ セカンドシート（6 人乗り車）

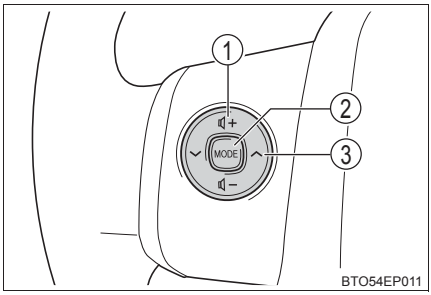
⚠ 注意

破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ★

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の各説明書をご覧ください。

① 音量を調整する
② 電源を入れる・モードの切りかえ
③ CD・ラジオなどの操作



■ 電源を入れる

MODE を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

■ モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、MODE を押す

押すごとにモード（CD・ラジオなど）が切りかわります。

■ 音量を調整する

音量を大きくするには🔊+を、小さくするには🔊−を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

⚠ 警告

事故を防ぐために、運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....278
内装の手入れ.....282
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 285
ガレージジャッキ.....287
ウォッシャー液の補充.....288
タイヤについて.....289
タイヤ空気圧について 293
エアコンフィルターの交換 ...295
フロントワイパーゴムの
交換 298
キーの電池交換.....300
ヒューズの点検・交換.....303
電球（バルブ）の交換.....306

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

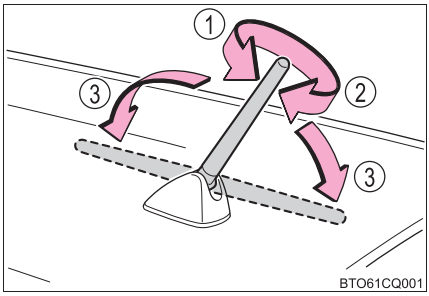
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

① 取りはずす
② 取り付ける
③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワースライドドア★を OFF にする（→ P. 111）
・アンテナを取りはずす
車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する（→ P. 127）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは､アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

⚠ 注意

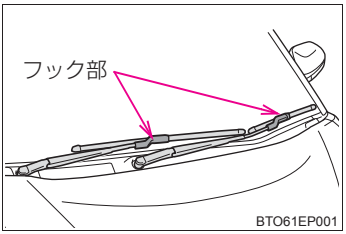
■高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

■ワイパーアームを立てるときは

ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。
ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

●フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 32)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

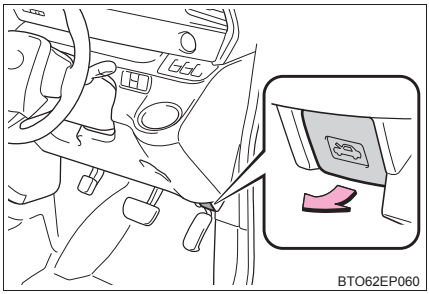
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

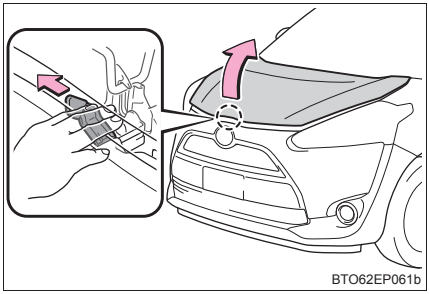
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

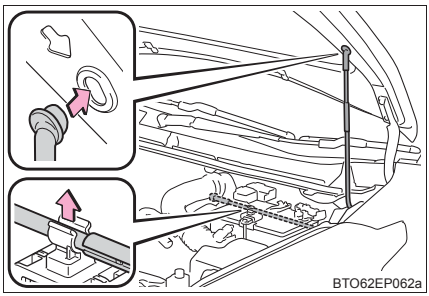
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

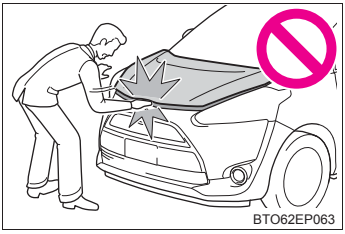
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

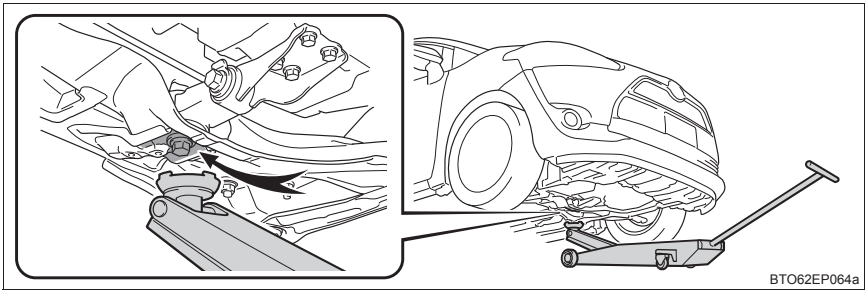
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

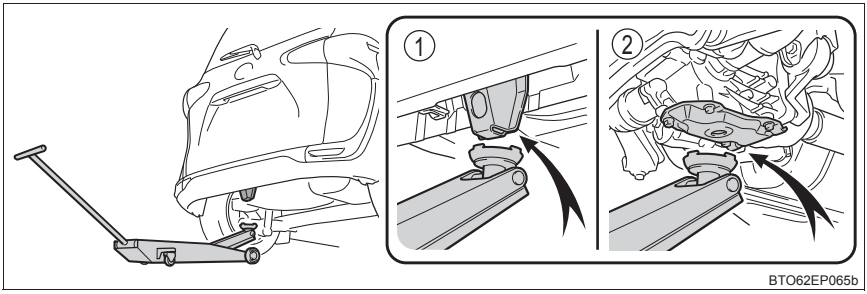
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側※



① FF 車（前輪駆動）

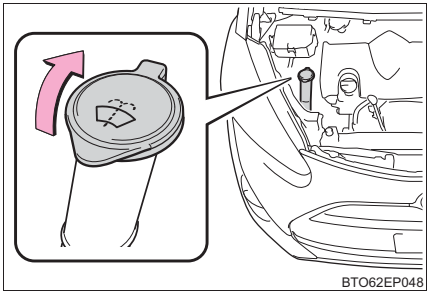
② 4WD 車（4 輪駆動）

※ スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

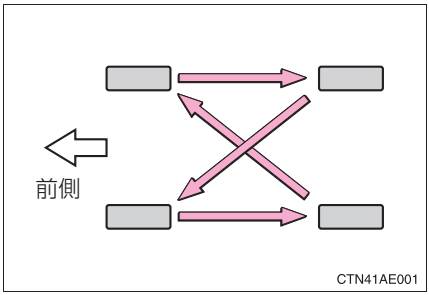
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。



知識

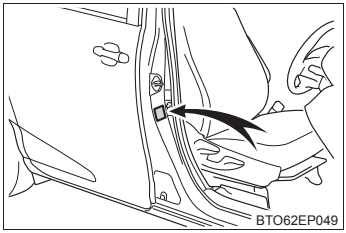
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※　kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
185/60R15 84H	240（2.4）	
195/50R16 84V		

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

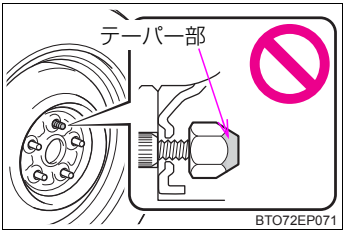
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 400)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

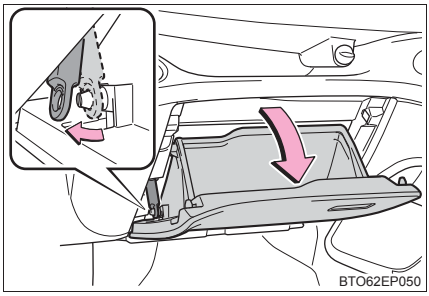
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

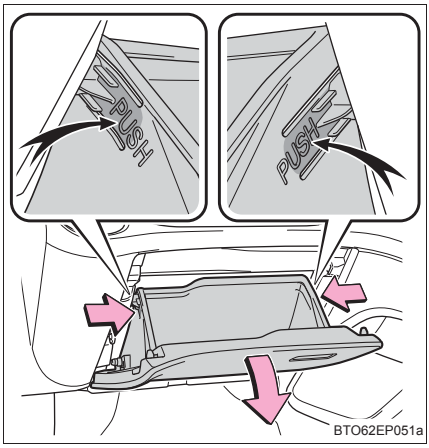
1 エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

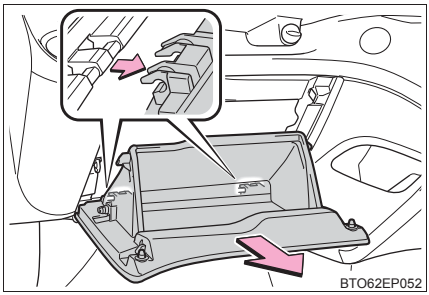


3 グローブボックス上部のツメをはずす

グローブボックス側面の「PUSH」を押しながら上部のツメを片側ずつはずします。



4 グローブボックスを手前に引き、下部のツメをはずして取りはずす

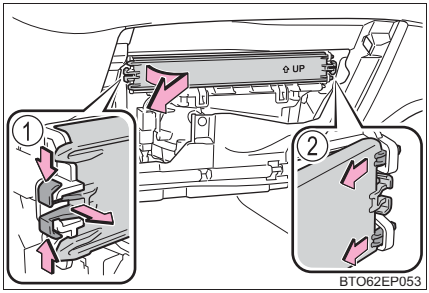


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 フィルターカバーを取りはずす

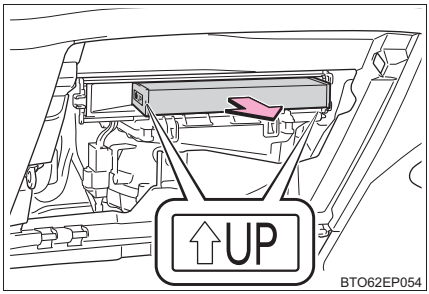
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

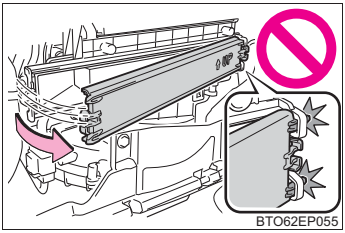
⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。


BTO62EP055

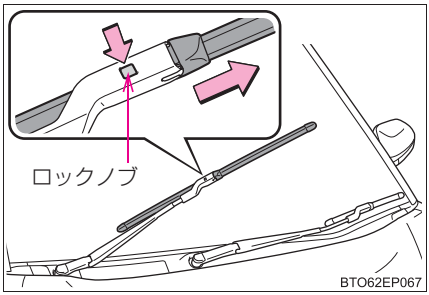
フロントワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

フロントワイパーブレードの取りはずし方

ワイパーブレードの接続部を手でしっかり支えながらロックノブを押してロックを解除し、ワイパーブレードを引き抜く

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

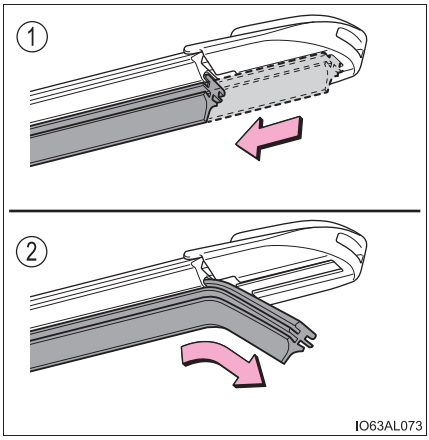


フロントワイパーゴムの取りはずし方

フロントワイパーブレードに取り付けられているキャップを脱着することはできません。ワイパーゴムの交換が必要なときは、次の要領でワイパーゴムを取りはずしてください。

① ワイパーブレード裏側のスリット部を通せる位置までワイパーゴムを引っ張る

② ワイパーゴムの先端をスリット部から引き出し、そのまま引き抜く



新しいワイパーゴムを取り付けるときは、逆の要領で作業を行います。取り付け後は、ワイパーゴムの先端がキャップの端まで確実に届いていることを確認してください。

知識

■フロントワイパーブレード・フロントワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
  - ・CR2032（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

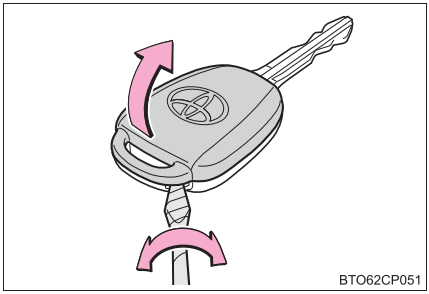
電池交換のしかた

■ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

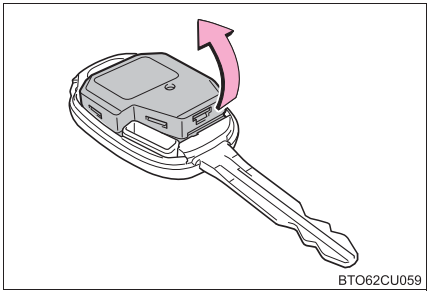
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

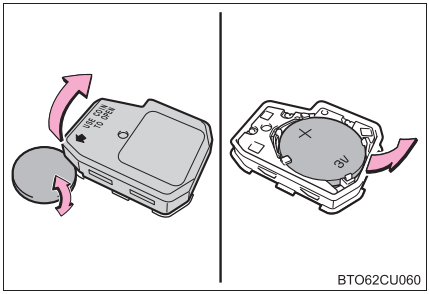

BTO62CP051

2 モジュールを取りはずす


BTO62CU059

3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

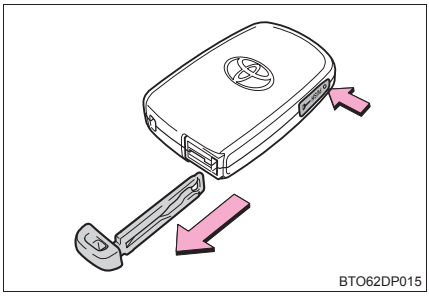
新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


BTO62CU060

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

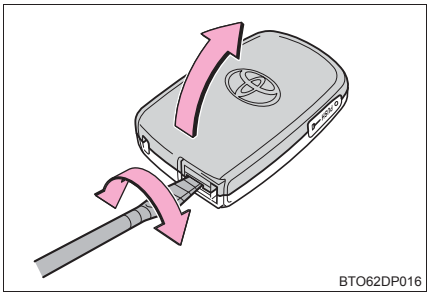
■ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 メカニカルキーを抜く


BTO62DP015

2 カバーをはずす

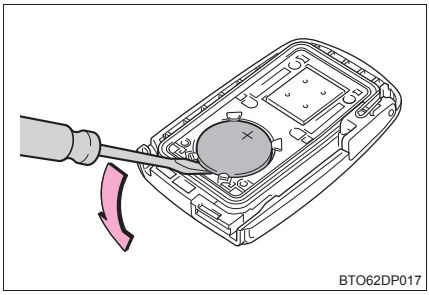
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO62DP016

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


BTO62DP017

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

●スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016

●スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR2032

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

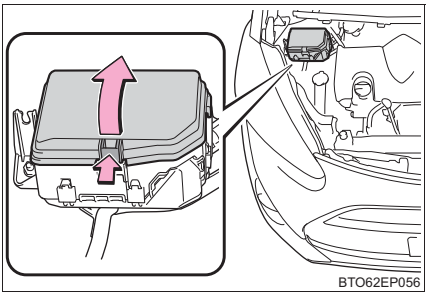
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にする

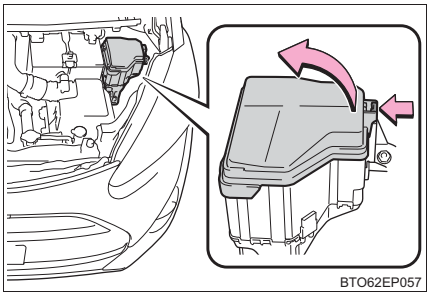
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム（2）

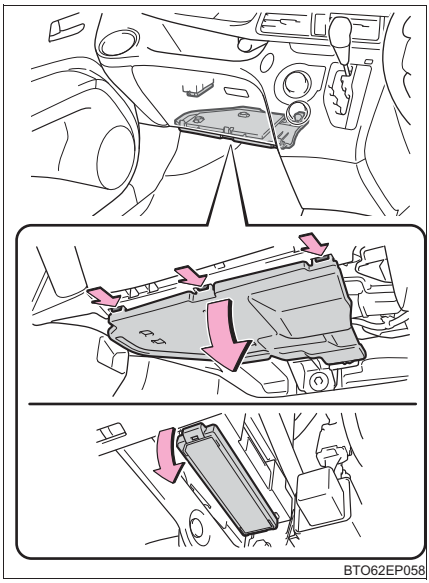


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

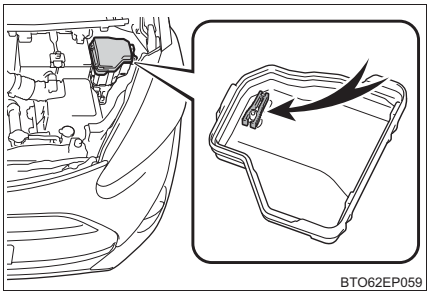
▶ 助手席足元

インストルメントパネルアンダーカバー★を取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす


BTO62EP058

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

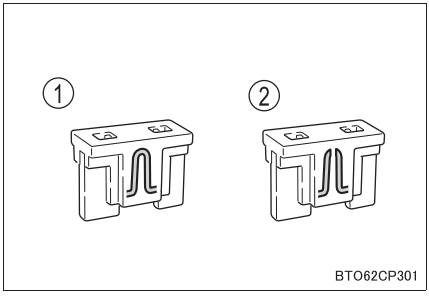

BTO62EP059

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



BTO62CP301

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 306）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

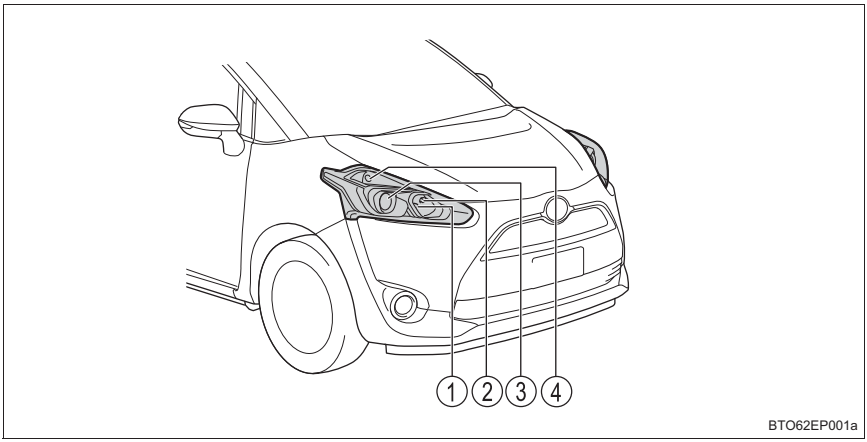
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 401）

バルブ位置

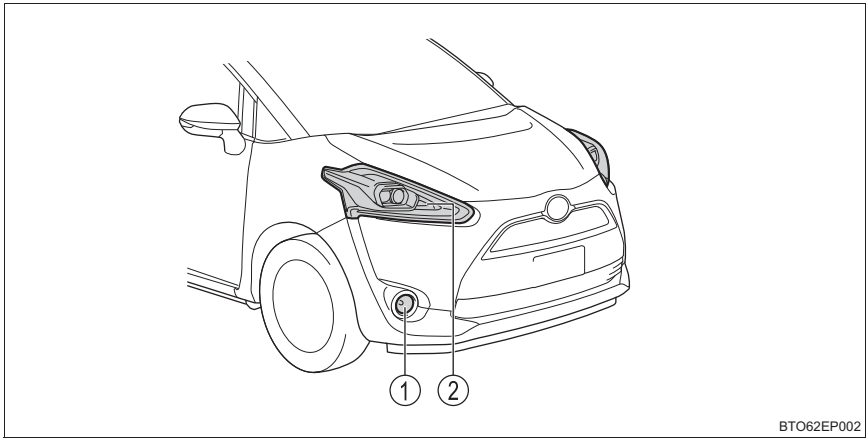
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



① ヘッドランプハイビーム
② 車幅灯
③ ヘッドランプロービーム
④ フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車

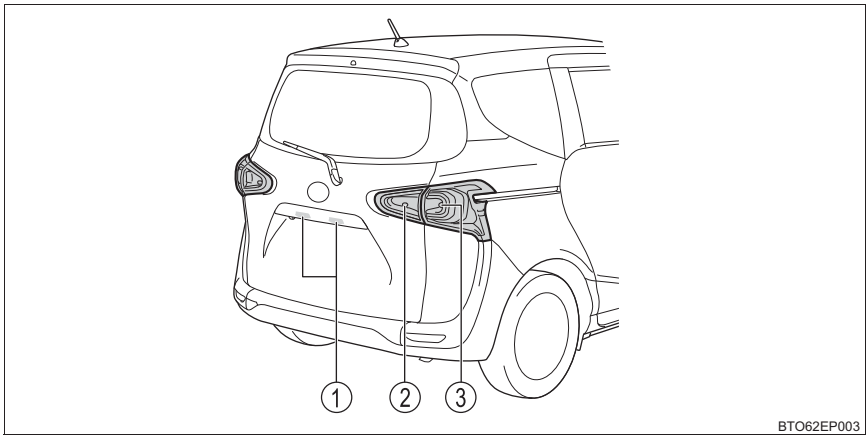


① フロントフォグランプ

② フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ **リヤ**

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

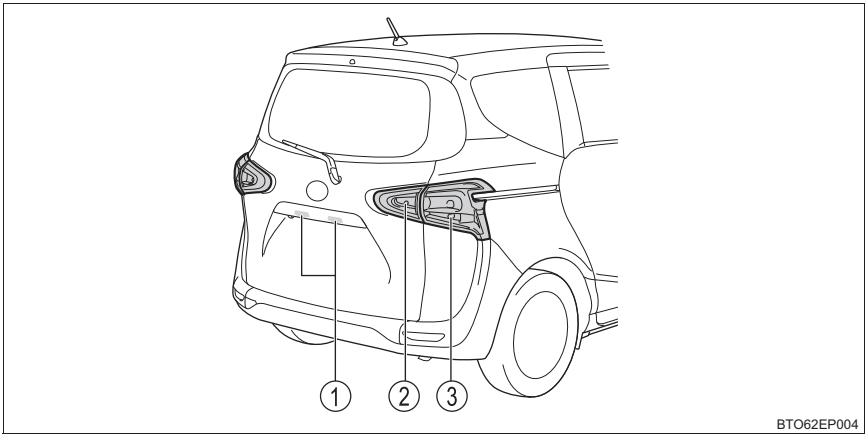


① 番号灯

② 後退灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車



① 番号灯

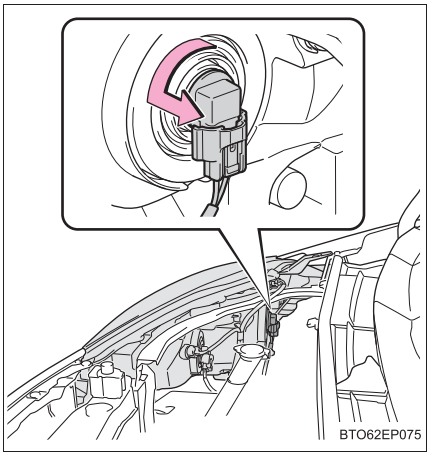
② 後退灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

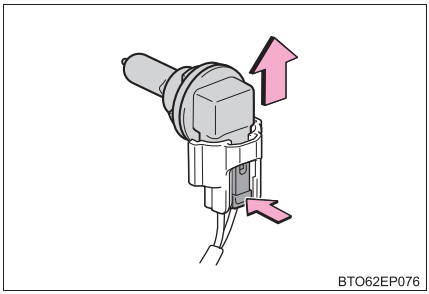
電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

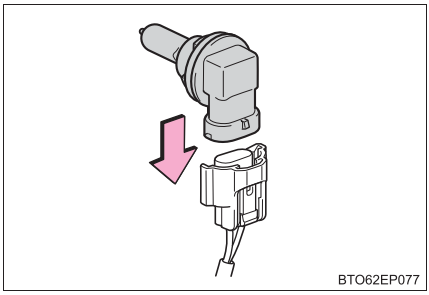
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす



3 電球を交換し、コネクタに取り付ける

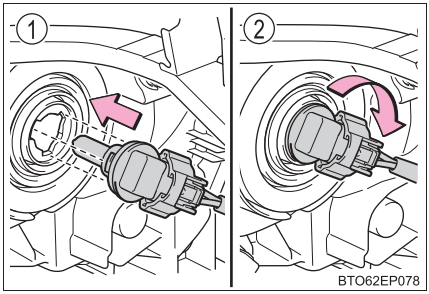


4 ソケットをまわして固定する

① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

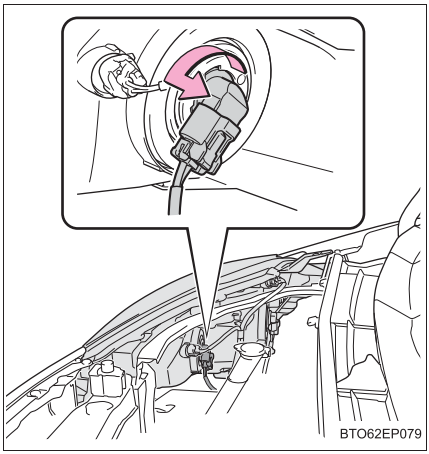
② 電球を右にまわして固定します。

取り付けたあとは、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

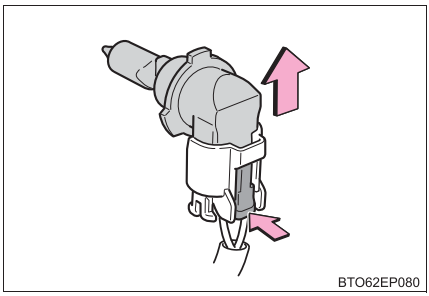


■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

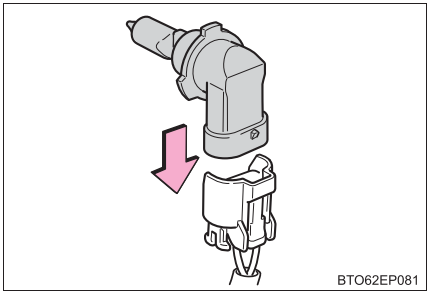
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 コネクタのツメを押し、電球を取りはずす



3 電球を交換し、コネクタに取り付ける

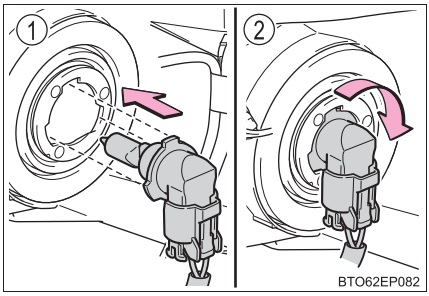


4 ソケットをまわして固定する

① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

② 電球を右にまわして固定します。

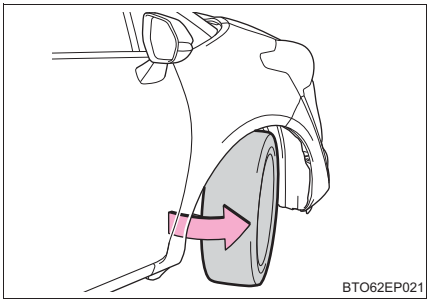
取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



■ フロントフォグランプ★

1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

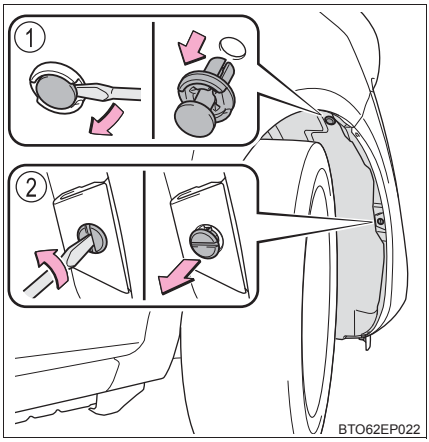
手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。



2 クリップを取りはずす

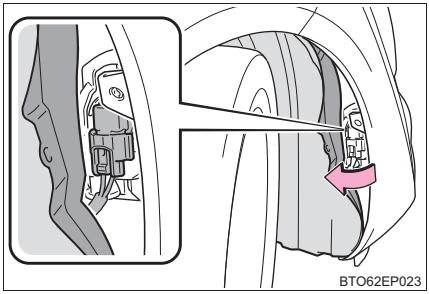
① マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます

② マイナスドライバーで90度まわし、クリップを浮かし引き抜きます

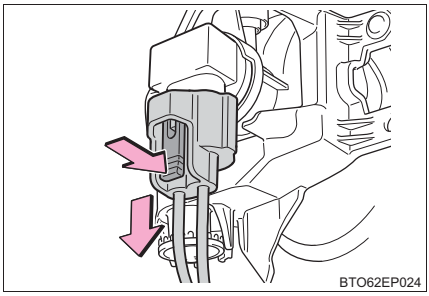


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

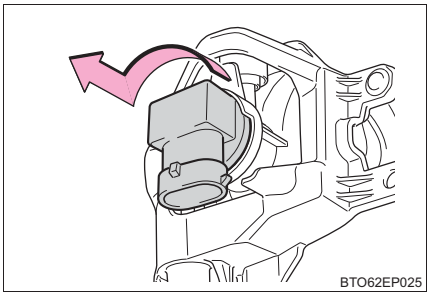
3 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる



4 ツメを押し、コネクターを取りはずす



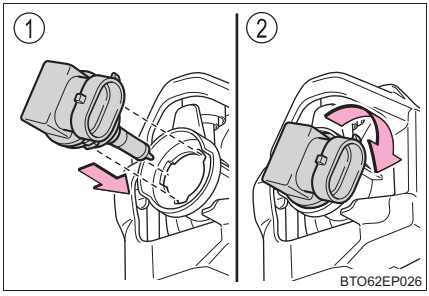
5 電球をまわして取りはずす



6 新しい電球を取り付ける

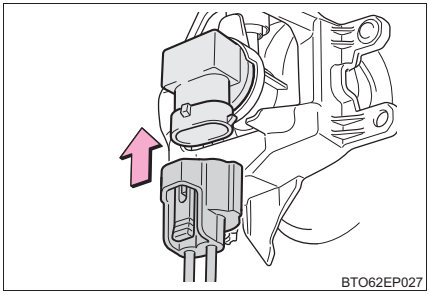
① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

② 電球を右にまわして固定します。



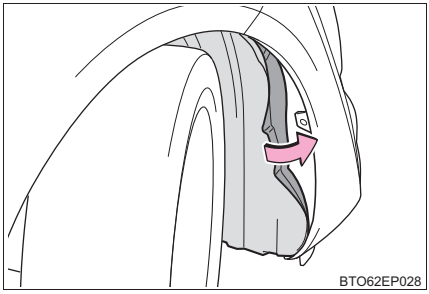
7 コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



8 フェンダーライナーを取り付ける

フェンダーライナーをバンパーの内側に取り付けます。

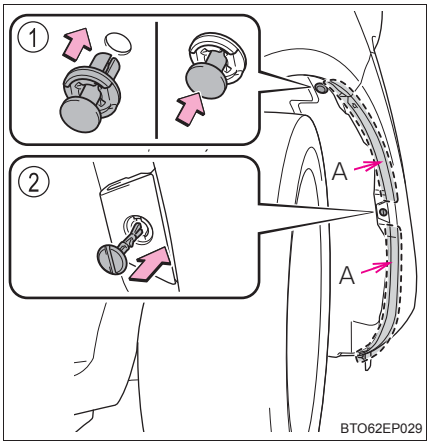


9 クリップを取り付ける

フェンダーライナー（A 部）がバンパーの内側になっていることを確認してから取り付けてください。

① 挿し込んでから中央部を押します

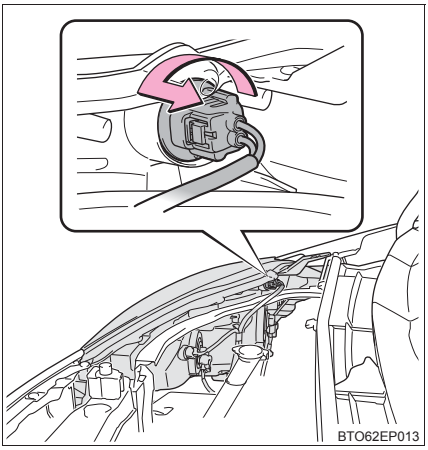
② クリップの溝を縦にして挿し込みます



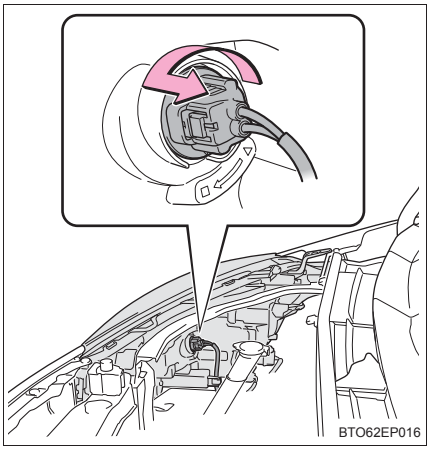
■ **フロント方向指示灯／非常点滅灯**

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

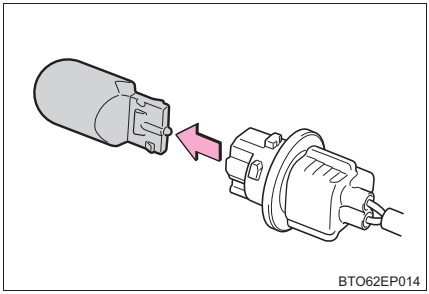
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車

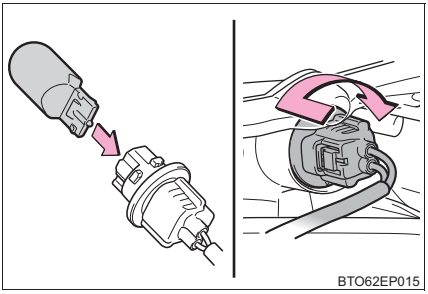


2 電球を取りはずす

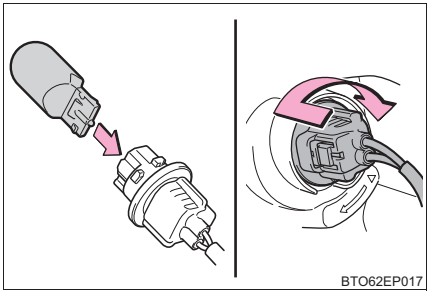


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

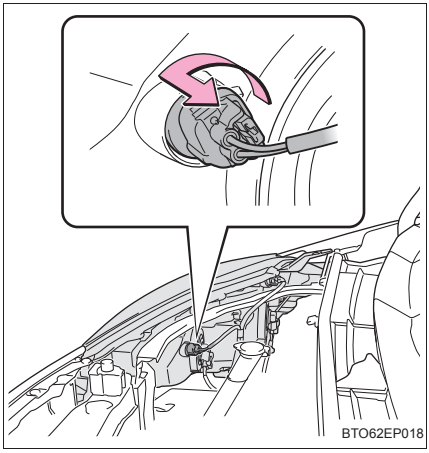


▶ LED ヘッドランプ装着車

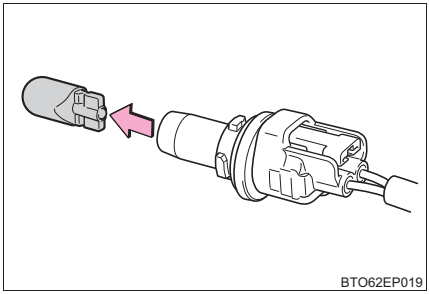


■ **車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

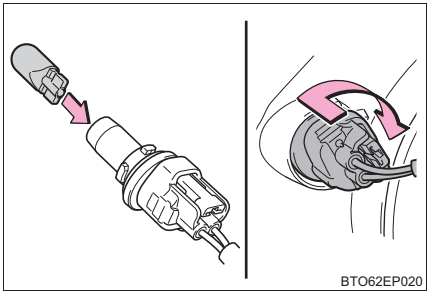
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

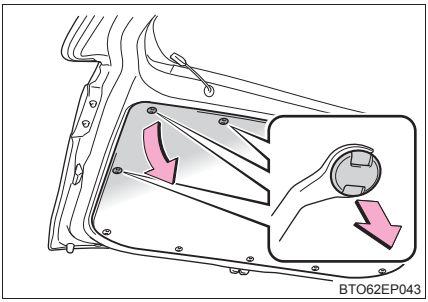


■ 後退灯

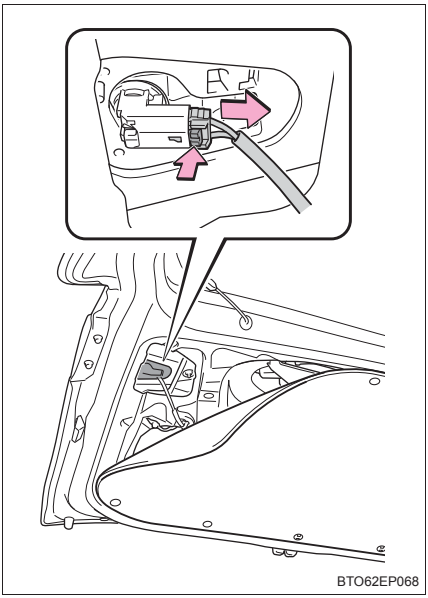
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

1 バックドアを開けて、クリップをはずして、コネクターが見える位置までカバーをめくる

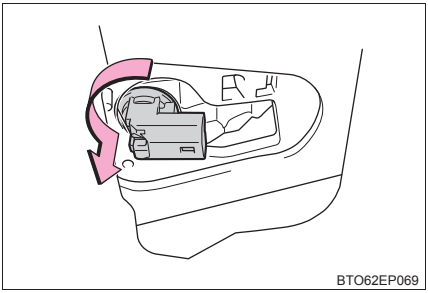
クリップの破損を防ぐため、市販のクリップリムーバーのご使用をおすすめします。



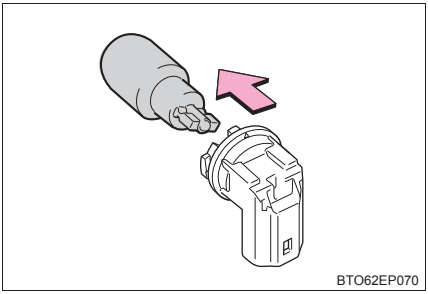
2 コネクターを取りはずす



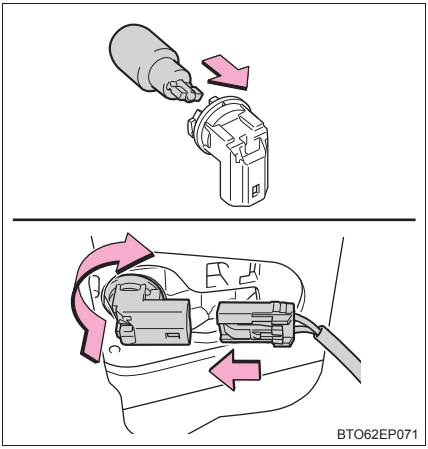
3 ソケットをまわして取りはずす



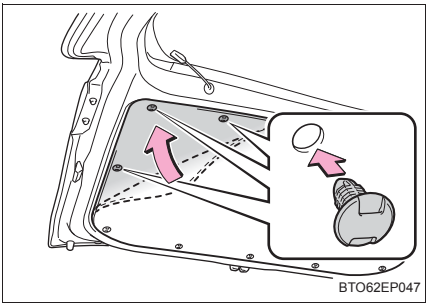
4 電球を取りはずす



5 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付け、コネクタを取り付ける



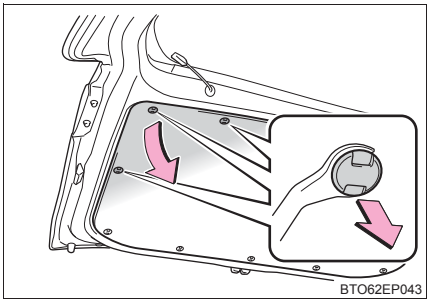
6 カバーをもどし、クリップを取り付ける



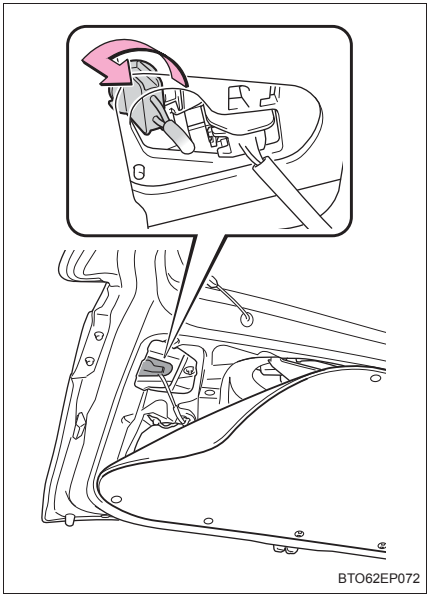
▶ LED ヘッドランプ装着車

1 バックドアを開けて、クリップをはずして、コネクターが見える位置までカバーをめくる

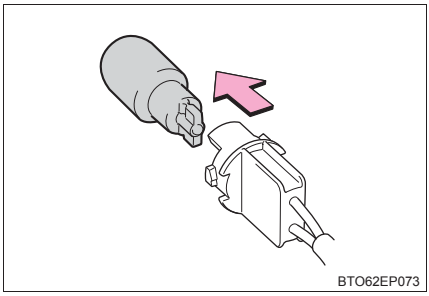
クリップの破損を防ぐため、市販のクリップリムーバーのご使用をおすすめします。


BTO62EP043

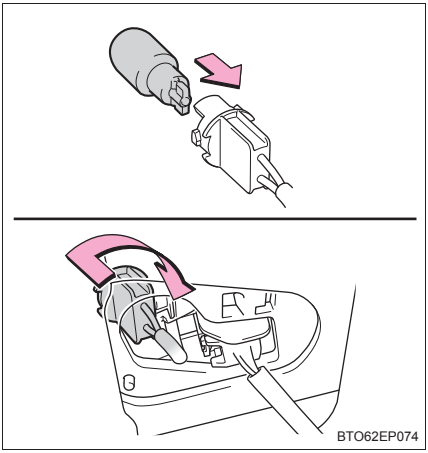
2 ソケットをまわして取りはずす


BTO62EP072

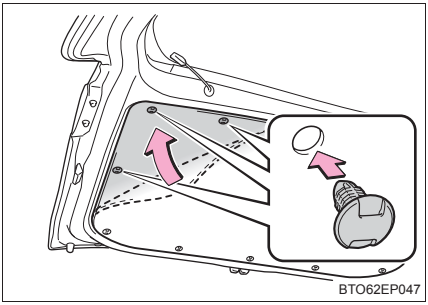
3 電球を取りはずす


BTO62EP073

4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける



5 カバーをもどし、クリップを取り付ける

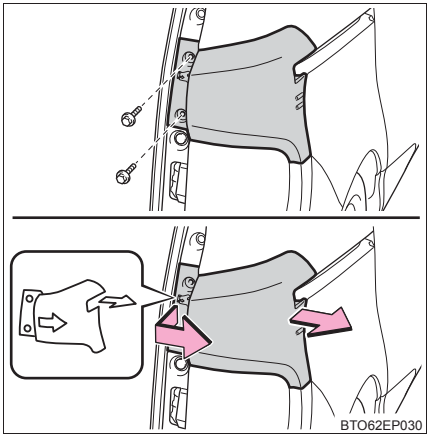


■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

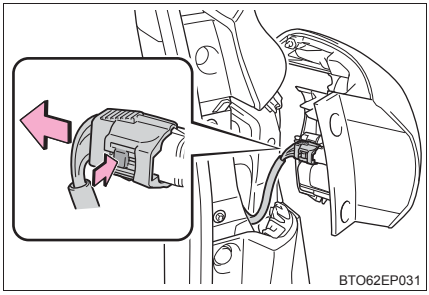
1 バックドアを開け、スクリュー（2 本）を取りはずし、ランプ本体を車両横方向に引く

・スクリュー取り付け部のかん合をはずすために、ランプ本体を車両うしろ方向に少し浮かせます。

・ランプ本体を車両横方向に引いて、車両から取りはずします。



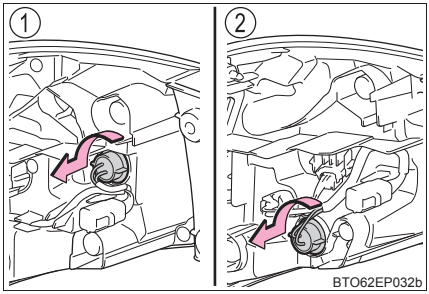
2 コネクターをはずす



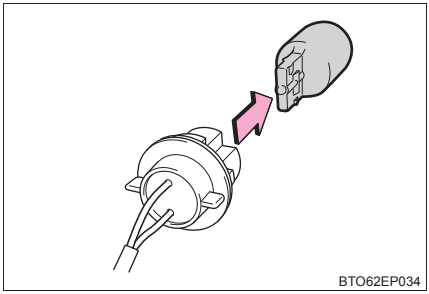
3 ソケットをまわして取りはずす

① ハロゲンヘッドランプ装着車

② LED ヘッドランプ装着車



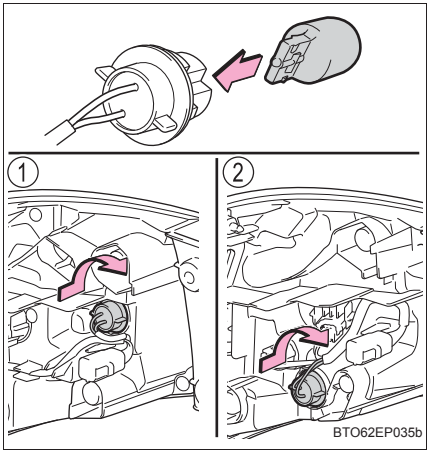
4 電球を取りはずす



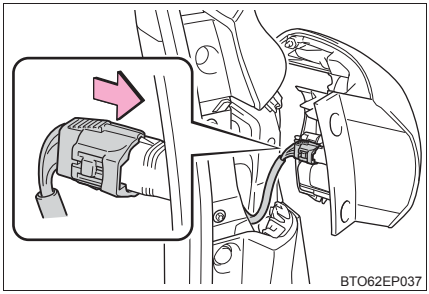
5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

① ハロゲンヘッドランプ装着車

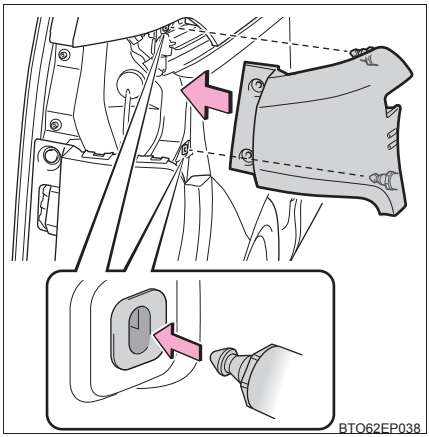
② LED ヘッドランプ装着車



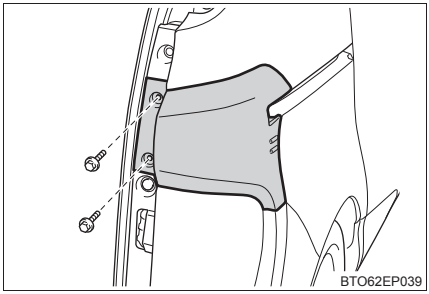
6 コネクターを取り付ける



7 ランプ本体側のピンと車両側の穴の位置を合わせ、ランプ本体を車両内側へ押す



8 スクリュー（2 本）で固定する



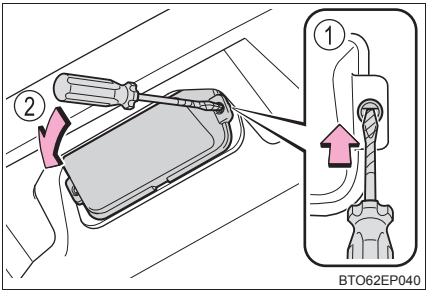
■ **番号灯**

1 レンズを取りはずす

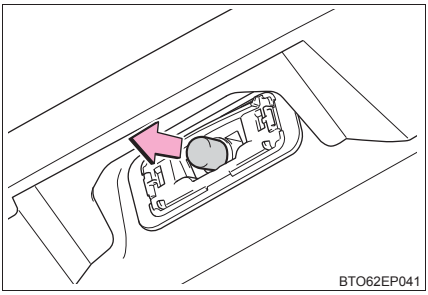
① 小さいドライバーなどをレンズ横の穴に挿し込みます

② 図のように取りはずします

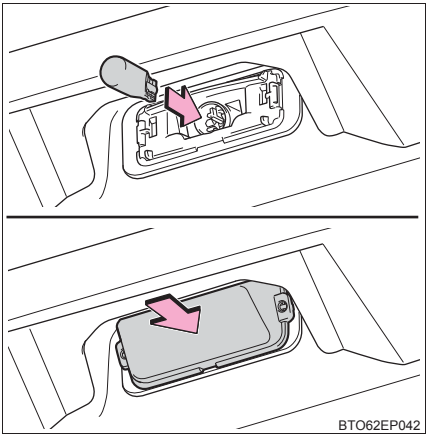
傷が付くのを防ぐために、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、レンズを取り付ける



■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- 車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・車幅灯★・サイド方向指示灯／非常点滅灯・制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→P. 305

⚠警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....328

非常点滅灯（ハザードランプ）.....329

発炎筒.....330

車両を緊急停止するには.....332

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....334

警告灯がついたときは.....340

警告メッセージが表示されたときは.....348

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....352

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....362

エンジンがかからないときは.....378

シフトレバーがシフトできないときは.....380

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）.....381

バッテリーがあがったときは.....383

オーバーヒートしたときは...388

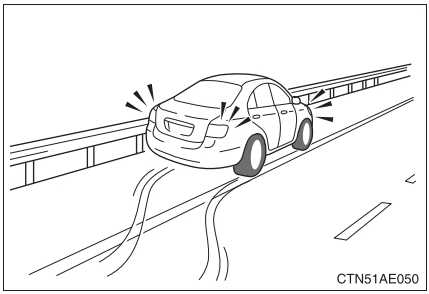
スタックしたときは.....391

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

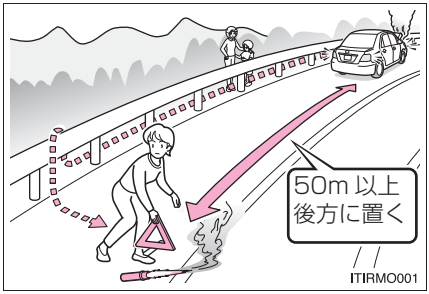
非常点滅灯（→ P. 329）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

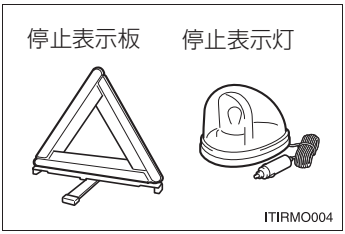
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 330）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

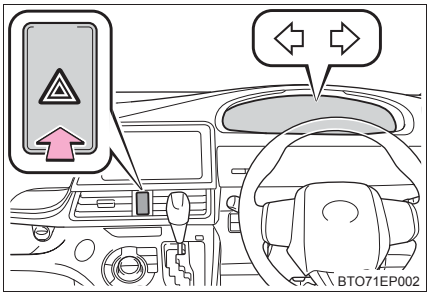


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

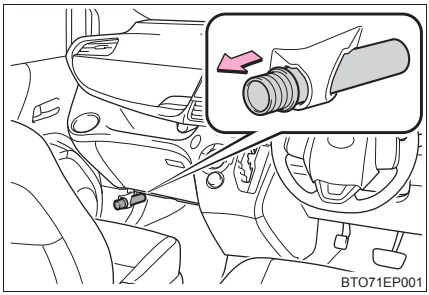
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

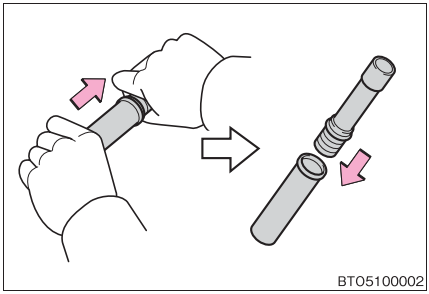
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

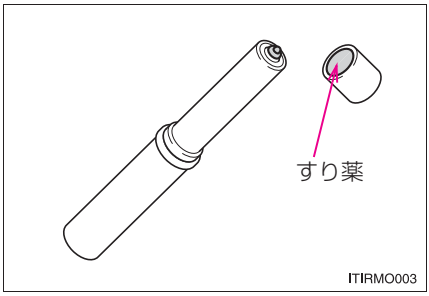


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

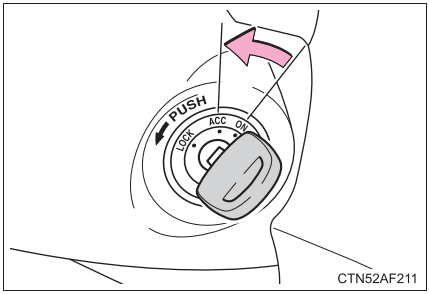
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

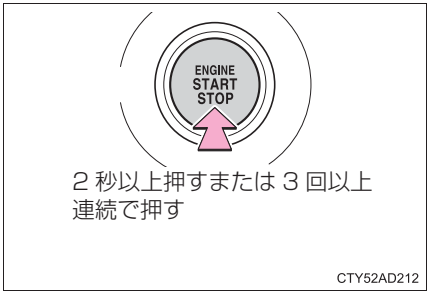
▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

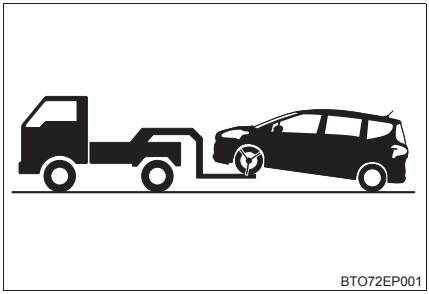
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

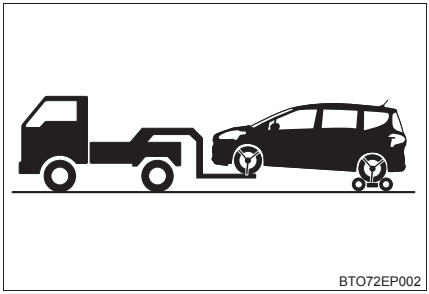
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



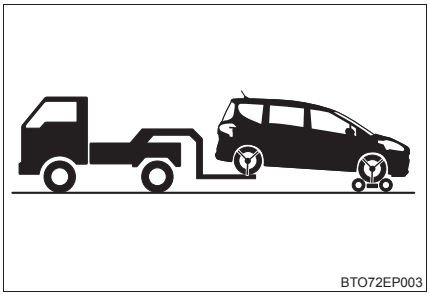
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

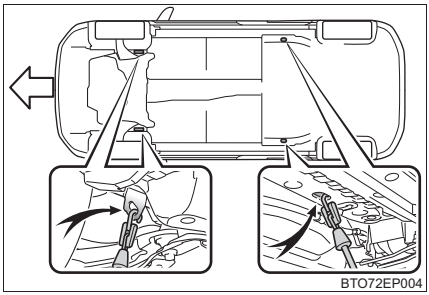
▶ うしろ向きにけん引するときは



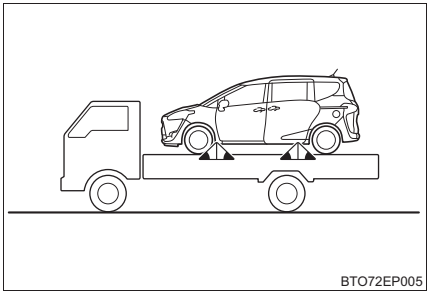
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


BTO72EP004

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°になるように固縛する

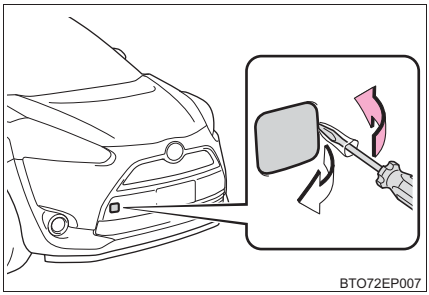

BTO72EP005

他車にけん引してもらうとき

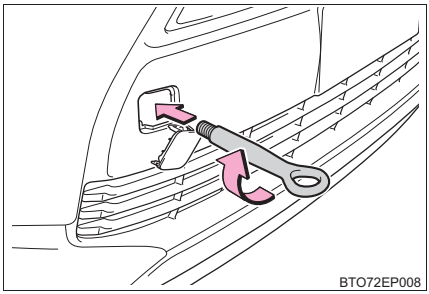
1 けん引フックを取り出す（→ P. 352, 363）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

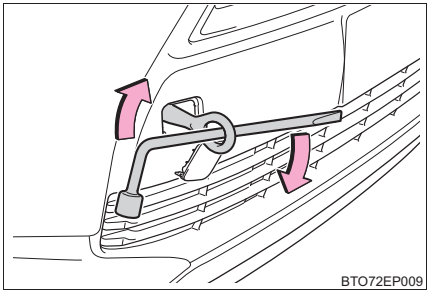
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72EP007

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める


BTO72EP008

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

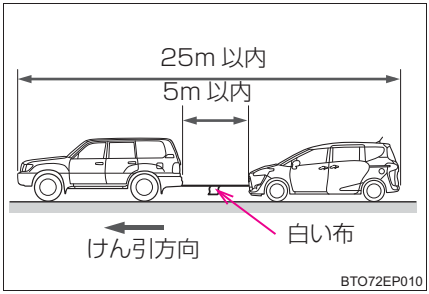

BTO72EP009

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上



7 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

・ Stop & Start システム装着車：けん引される前に、いったんエンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にしたあと、エンジンをかけてください

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 380

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

工具袋内に搭載されています。（→ P. 352, 363）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

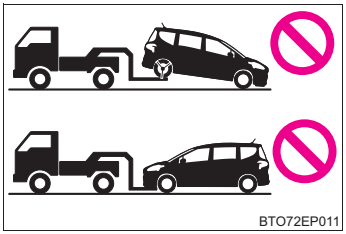
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引されるとき

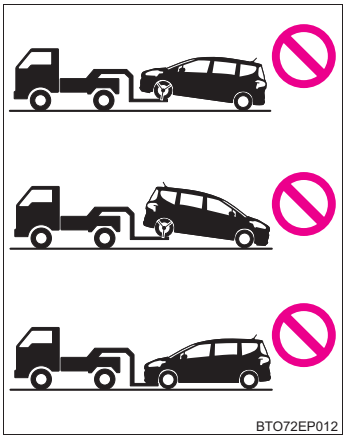
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。


BTO72EP011

▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。


BTO72EP012

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

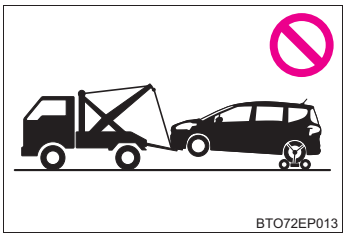
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを“LOCK”★または OFF ★にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にしてください。

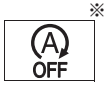
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

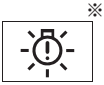
警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
※2 	**充電警告灯** 充電系統の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
※2 	**油圧警告灯（警告ブザー※3）** エンジンオイルの圧力異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 ▶ドライブモニターディスプレイ装着車（点灯時） ・ブレーキオーバーライドシステムの作動時 ・ドライブスタートコントロールの作動時 **→アクセルペダルから足を離してください** ▶ドライブモニターディスプレイ装着車（点滅時） ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください** ▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車（警告メッセージ表示時） ・ブレーキオーバーライドシステムの作動時 ・ドライブスタートコントロールの作動時 ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→表示された画面の指示に従ってください。**
※2 	**高水温警告灯（警告ブザー）** エンジン冷却水温の高温異常 **→ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→ P. 388）**
※2 	**ヘッドランプオートレベリング警告灯★** 自動光軸調整システムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
※2  （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯★** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 221） **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
※2	**半ドア警告灯（警告ブザー※4）** いずれかのドアが確実に閉まっていない **→全ドアを閉める**
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 （→P. 236） **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※5） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→シートベルトを着用する**
	燃料残量警告灯 ▶FF 車（前輪駆動） 燃料の残量が 6.3L 以下になった ▶4WD 車（4 輪駆動） 燃料の残量が 8.5L 以下になった **→燃料を補給する**
	4WD 警告灯★ ▶ドライブモニターディスプレイ装着車（点灯時） 4WD システムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ▶ドライブモニターディスプレイ装着車（点滅時） 駆動系の発熱 **→スピードを落として低速走行する、またはエンジンをかけたまま停車する。** ▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車（警告メッセージ表示時） ・4WD システムの異常 ・駆動系の発熱 **→表示された画面の指示に従ってください。**
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※6） パーキングブレーキがかかっているとき **→パーキングブレーキを解除する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★** 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・前方センサー周辺のフロントウインドウガラスに汚れ（くもり、結露、凍結などを含む）や付着物がある **→汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 197）** ・前方センサー温度が作動範囲外 **→センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。** 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 **→VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 200, 237）**
	スマートエントリー& スタートシステム表示灯★（警告ブザー） ▶ドライブモニターディスプレイ装着車（15 秒間黄色点滅） ・スマートエントリー & スタートシステムの異常 ・ステアリングロックシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車（警告メッセージ表示時） ・スマートエントリー & スタートシステムの異常 ・ステアリングロックシステムの異常 **→表示された画面の指示に従ってください。**
※2 	**LED ヘッドランプ警告灯★** LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
※7 （黄色）	**車高調整インジケーター★** エアサスペンションシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	マスターウォーニング★ システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 **→ P. 348**

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイ内に同内容のメッセージが表示されます。

※3 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※4 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※5 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※6 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示されます。

※7 別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

その他に表示される警告灯

次の警告灯が表示されたときは、対処方法に従って処置することで消灯させることができます。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
※	**メンテナンス・点検警告灯（警告ブザー）** ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイ内に同内容のメッセージが表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ただちに処置してください（ドライブモニターディスプレイ装着車のスマートエントリー & スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
連続音	連続音	（黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトレバーを P にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
1 回	3 回	（黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** シフトレバーが P の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに、運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した **→ エンジンスイッチを OFF にしたあと、電子キーを車内から持ち出す**
			スマートエントリー& スタートシステム表示灯 エンジンスイッチをOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した **→ 電子キーを車内にもどす**
1 回	連続音（5 秒間）	（黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー& スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**
1 回	—	（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした **→ 電子キーを携帯してエンジンを始動する**
9 回	—	（黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた **→ 車室内に電子キーがあるか確認する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
1 回	—	 （15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** 電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する（→ P. 300）**
1 回	—	 （15 秒間緑色に速点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** ステアリングロックが解除できなかった **→ ステアリングロックを解除する（→ P. 175）**
1 回	—	 （60 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー& スタートシステム表示灯** ・ メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・ エンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが 2 回連続で続いた **→ ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、エンジンスイッチにふれる（→ P. 381）**

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠警告

■ABS &ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。
ABS &ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

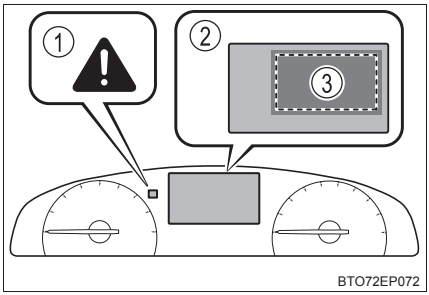
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- 「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」★が表示されている：
  PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯が点滅します。（→ P. 204）
- 「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」★が表示されている：
  PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。（→ P. 204）
- 「ガソリン残量が少なくなりました」が表示されている：
  燃料残量警告灯が点灯します。（→ P. 342）

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
警告メッセージが表示されたときはシフトレバーを P にしてください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
  - 「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」（→ P. 388）
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - 「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」★
  - 「充電システム故障 取扱書を確認してください」
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  - 「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■LDA の車線逸脱警報について★

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 211）

■「前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき★

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

●PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●オートマチックハイビーム

●先行車発進告知機能

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■警告ブザーについて

→ P. 346

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 289 を参照してください）

⚠ 警告

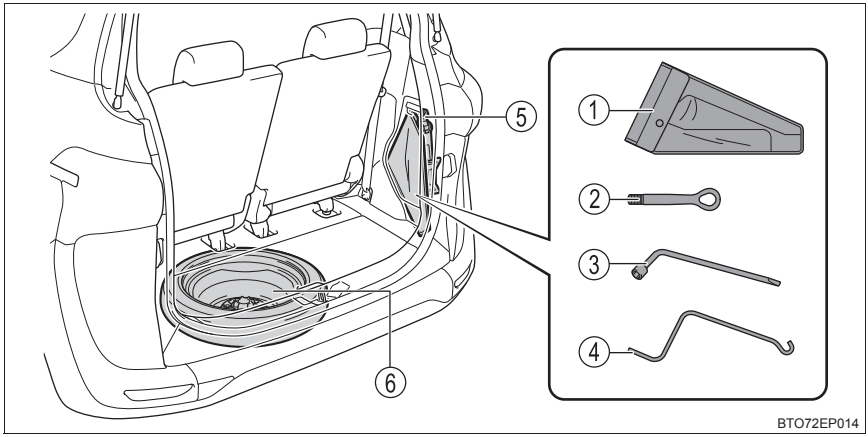
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① 工具袋
② けん引フック
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ ジャッキ
⑥ 応急用タイヤ

⚠ 警告

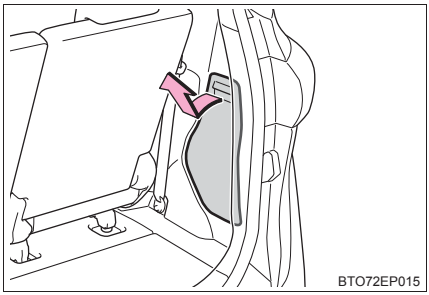
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

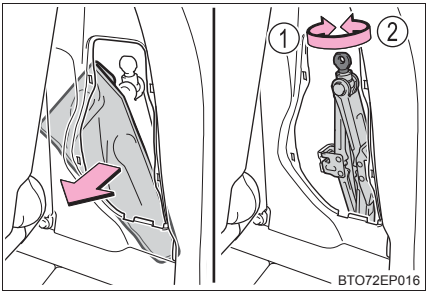
1 ラゲージルーム右側のカバーを取りはずす



2 工具袋を取り出し、ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

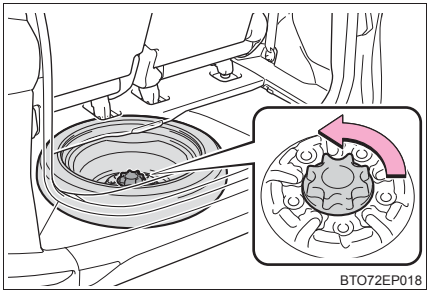
② ゆるむ



応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボード、デッキアンダートレイを取りはずす（→ P. 266）

2 留め具をはずし、応急用タイヤを取りはずす



⚠ 警告

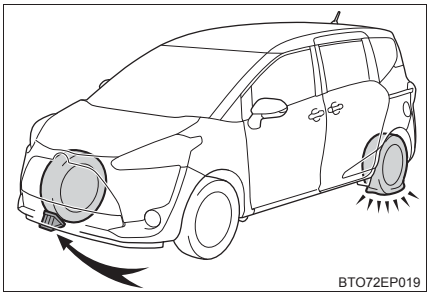
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

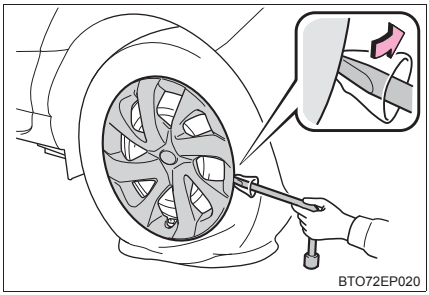

BTO72EP019

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

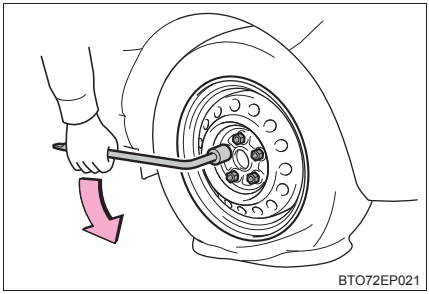
2 ホイールキャップをはずす*

*：スチールホイールのみ

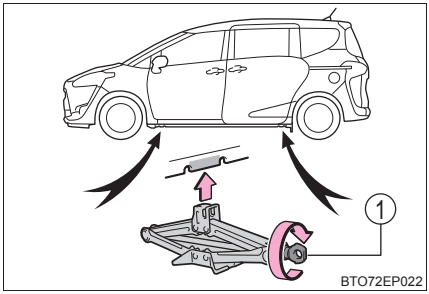
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72EP020

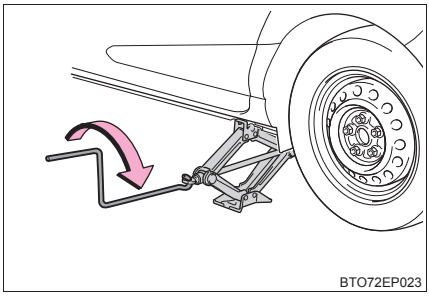
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる


BTO72EP021

4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

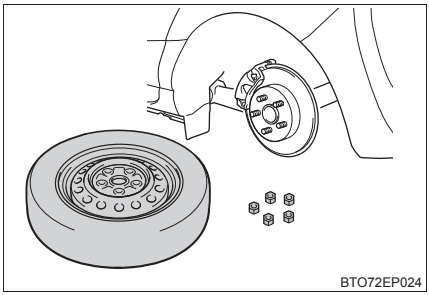


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

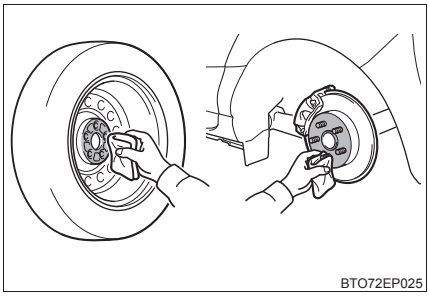
■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ★(→P. 111)を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ねじ部にオイルやグリースを塗らない
    ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
  - ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
  - タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
  - ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
  - ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 292）

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

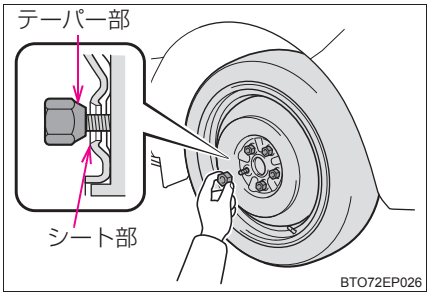
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


BTO72EP025

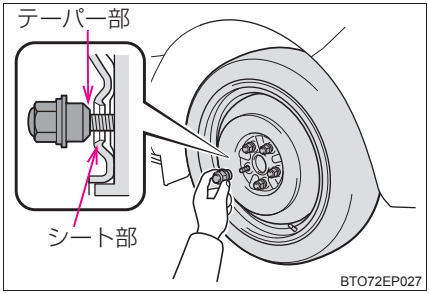
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

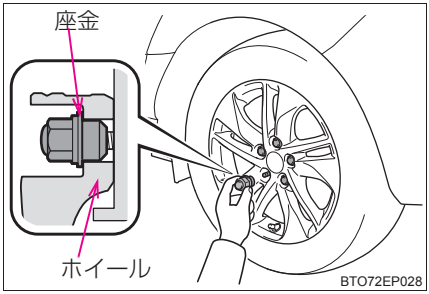
スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



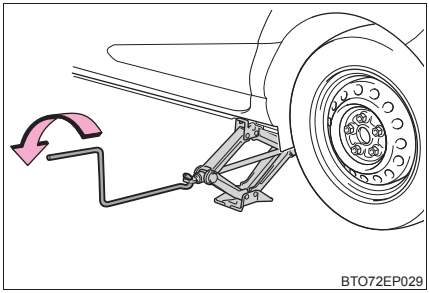
アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

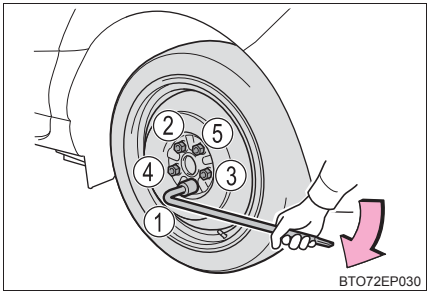


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

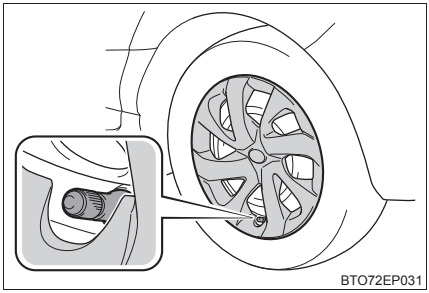
締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 ホイールキャップを取り付ける*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

*：スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません。）



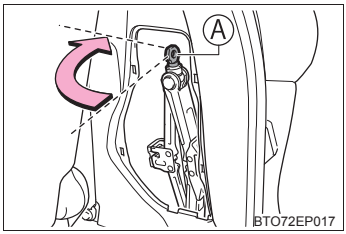
6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ジャッキを使用したあとは

もとどおりに車両に搭載してください。ジャッキが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

ジャッキを収納部にのせて A 部をまわして位置を固定したあと、約 2.0N・m（0.2kgf・cm）以上の力でしっかりと締め付ける（ジャッキを軽く固定したあとに、約 90°～ 180°まわします）



■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 400）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

⚠警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- EPS
- AHB（オートマチックハイビーム）★
- TRC
- S-VSC
- LDA（レーンディパーチャーアラート）★
- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- アクティブトルクコントロール 4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

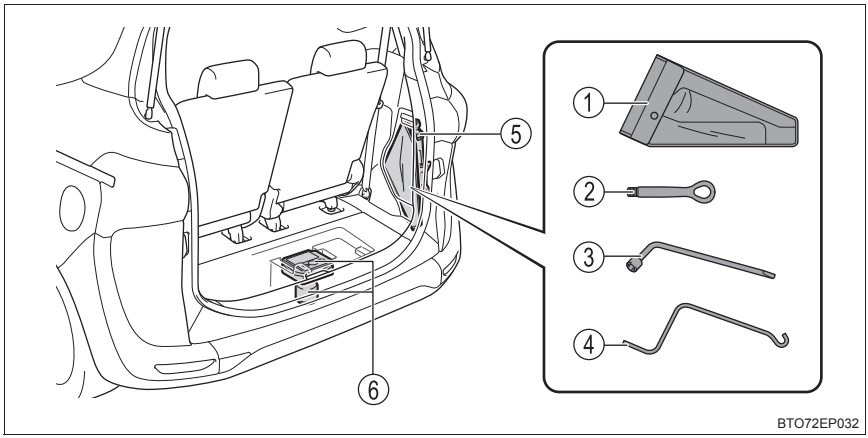
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

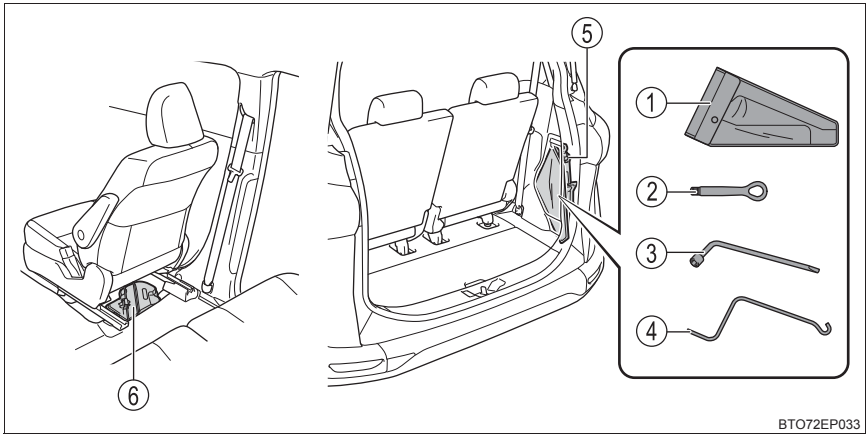
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置※1

▶ FF 車（前輪駆動）



▶ 4WD 車（4 輪駆動）・スロープ車

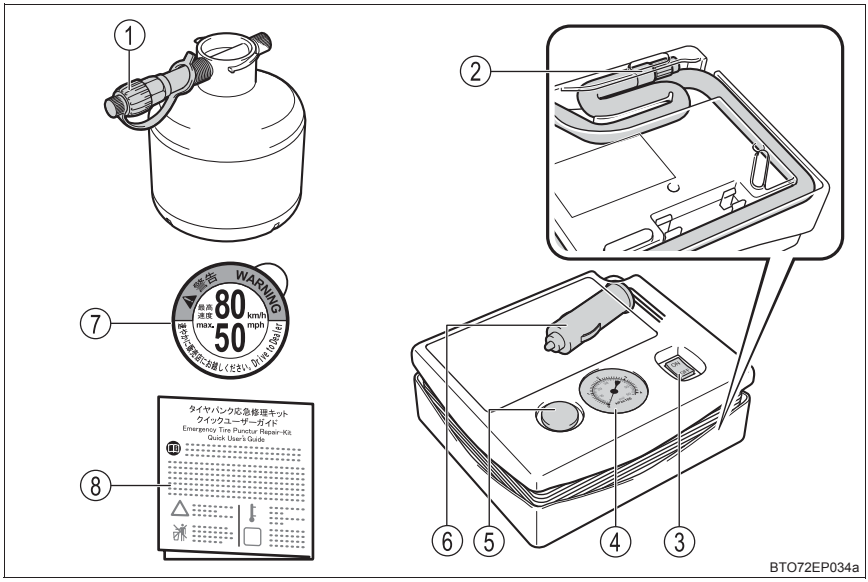


① 工具袋
② けん引フック
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ ジャッキ※2
⑥ タイヤパンク応急修理キット

※1 スロープ車にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱書」を参照してください。

※2 ジャッキの使い方（→ P. 356）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



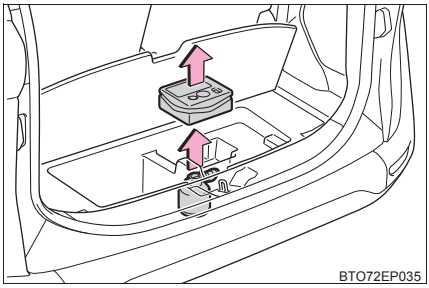
① ノズル
② ホース
③ スイッチ
④ 空気圧計
⑤ 空気圧逃がしボタン
⑥ 電源プラグ
⑦ 速度制限ラベル
⑧ タイヤパンク応急修理キット
クイックユーザーガイド

応急修理キットの取り出し方

▶ FF 車（前輪駆動）

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 266）

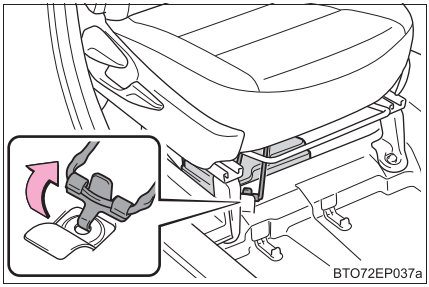
2 応急修理キットを取り出す



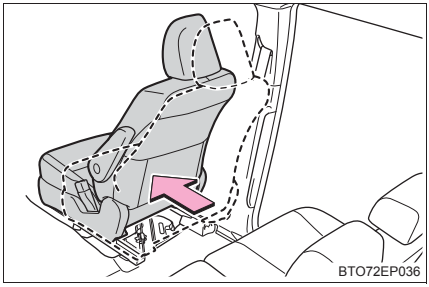
▶ 4WD 車（4 輪駆動）・スロープ車

1 運転席シートをいちばんうしろに移動する（→ P. 132）

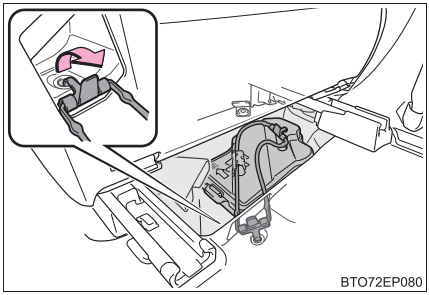
2 応急修理キット固定バンドの前側のフックを固定穴からはずす



3 運転席シートをいちばん前に移動する

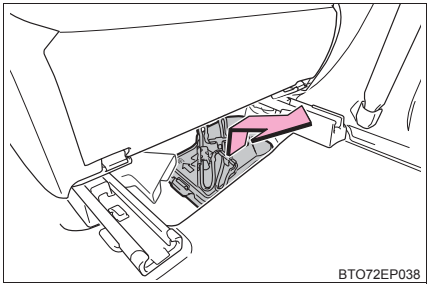


4 応急修理キット固定バンドのうしろ側のフックを固定穴からはずす

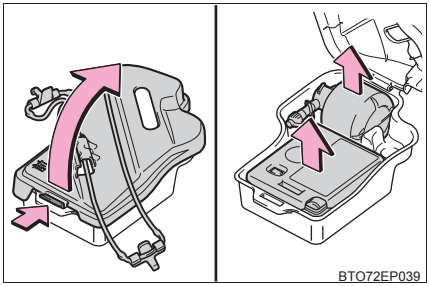


5 応急修理キット格納ボックスを取り出す

応急修理キット格納ボックスが取り出しにくいときは、シート全体の上下調整をいちばん高い位置に調整してください。（→ P. 132）

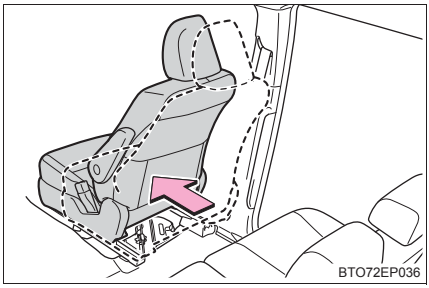


6 応急修理キット格納ボックスのフタを開けて応急修理キットを取り出す



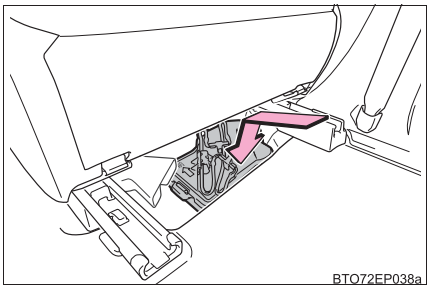
■ **応急修理キットをもとにもどすときは（4WD 車・スロープ車）**

1 運転席シートをいちばん前に移動する



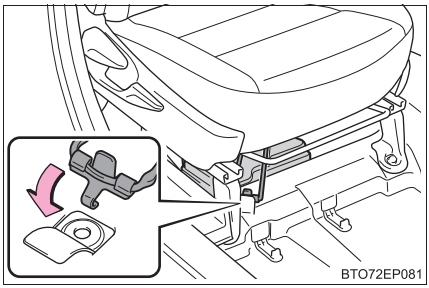
2 応急修理キット格納ボックスを収納する

固定用バンドは応急修理キット格納ボックスに取りついている状態で収納してください。



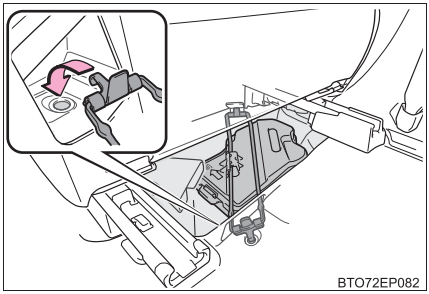
3 運転席シートをいちばんうしろに移動する（→ P. 132）

4 応急修理キット固定バンドの前側のフックを固定穴に引っかける



5 運転席シートをいちばん前に移動する

6 応急修理キット固定バンドのうしろ側のフックを固定穴に引っかける



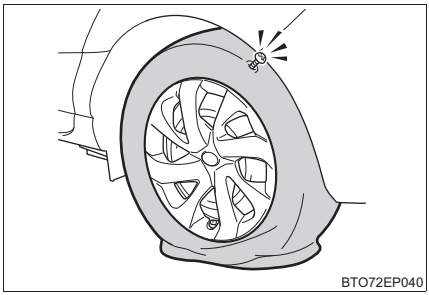
ジャッキの取り出し方

→ P. 354

応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



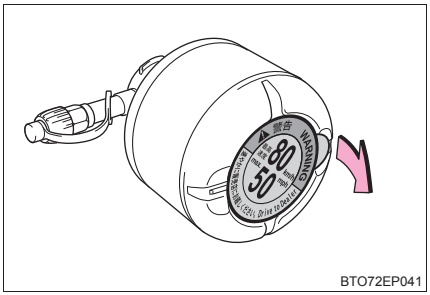
・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所がなるべく上になるように車両を移動してください。

応急修理するとき

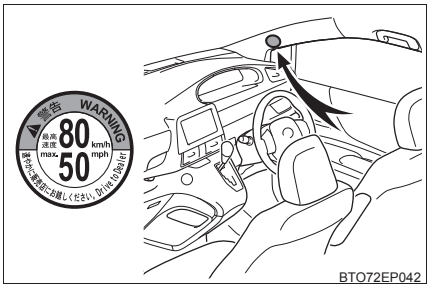
1 応急修理キットを取り出す

2 ボトルから速度制限ラベルをはがす



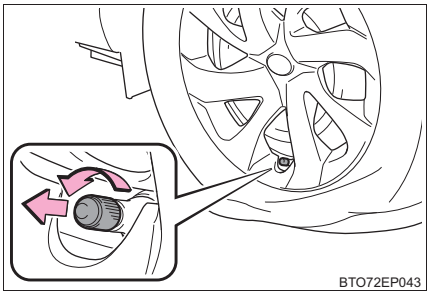
BTO72EP041

3 速度制限ラベルを図のように貼り付ける

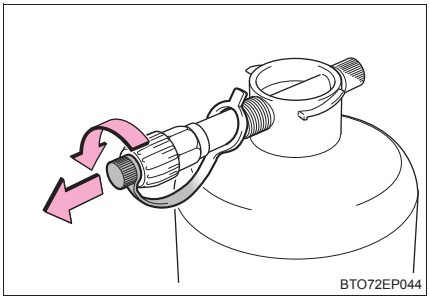


BTO72EP042

4 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす


BTO72EP043

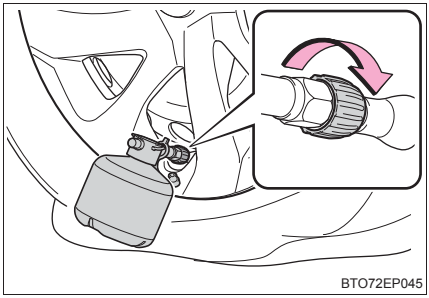
5 ノズルからキャップを取りはずす


BTO72EP044

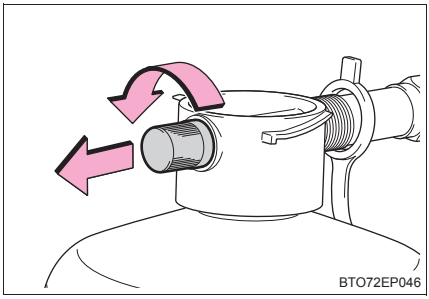
6 ボトルのノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ノズル先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

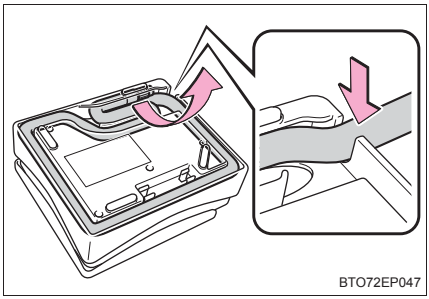
ボトルが右図のように立った状態になるように取り付けてください。
ボトルが地面と干渉する場合は、タイヤのバルブの位置が適切になるように車両を動かしてください。


BTO72EP045

7 ボトルからキャップを取りはずす

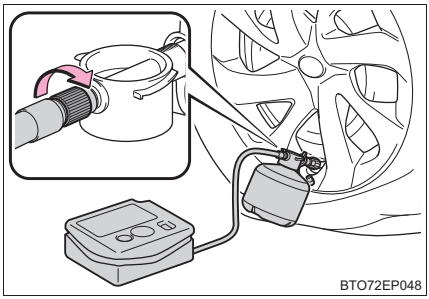

BTO72EP046

8 コンプレッサーからホースを引き出す

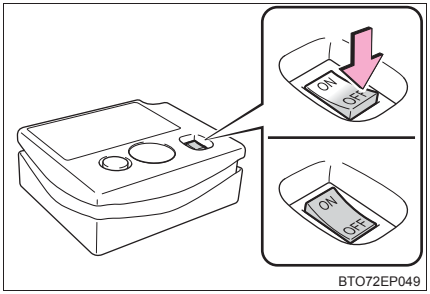

BTO72EP047

9 ボトルとコンプレッサーを繋げる

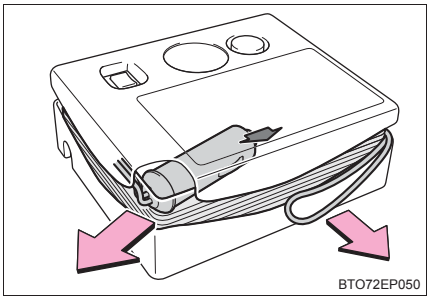
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。


BTO72EP048

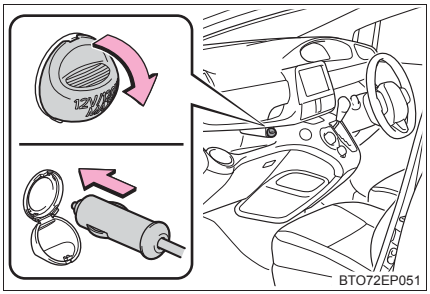
10 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する



11 コンプレッサーから電源プラグを取りはずす

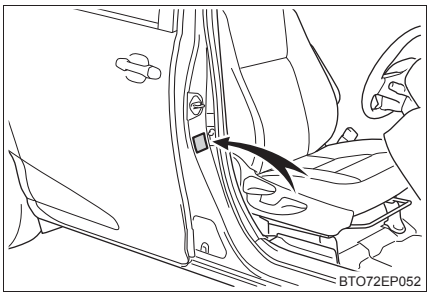


12 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 269）



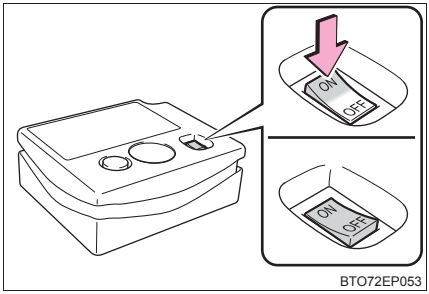
13 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P. 290）



14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する



BTO72EP053

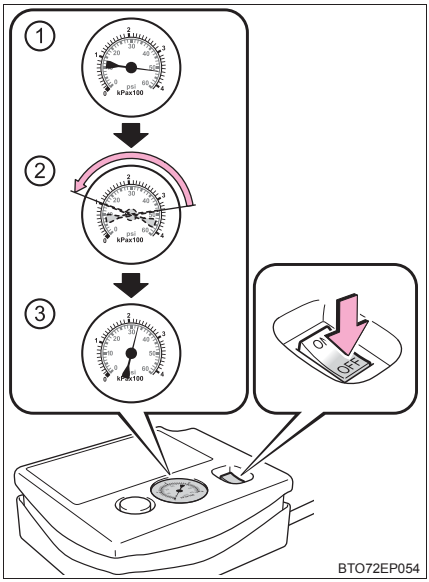
16 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

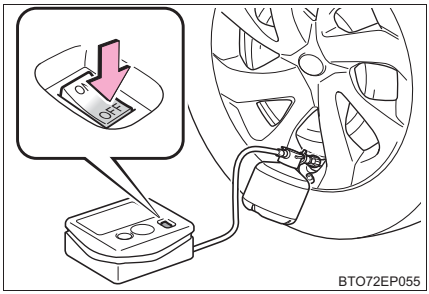
指定空気圧まで充填できない、もしくは充填時間が 5 分以上、または作業時間が 35 分以上かかっても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



BTO72EP054

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 375）

17 コンプレッサーのスイッチを“OFF”にする

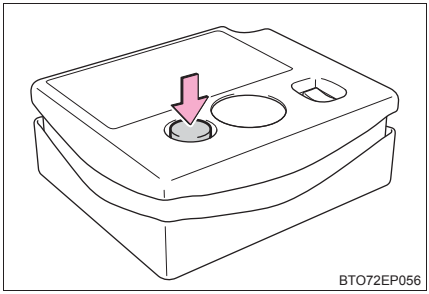


BTO72EP055

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからボトルのノズルを取りはずす

ノズルを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

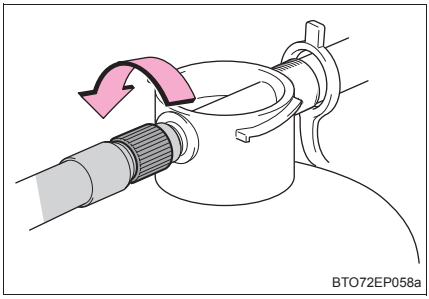
19 空気圧逃がしボタンを押す



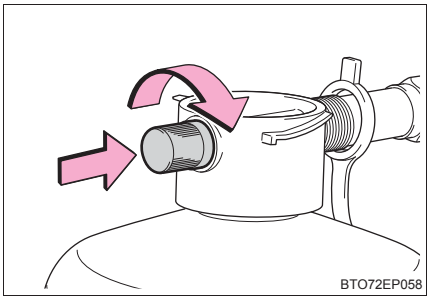
20 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

21 ボトルからコンプレッサーのホースを取りはずす

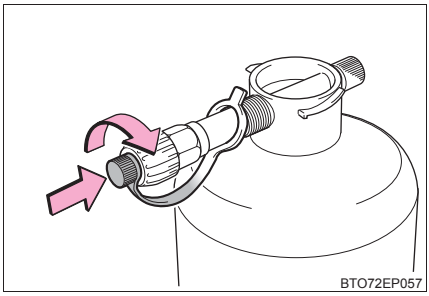
ホース先端を反時計まわりにまわして取りはずします。



22 ボトルにキャップを取り付ける



23 ノズルにキャップを取り付ける



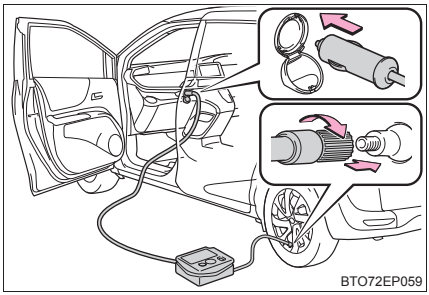
24 いったん、ボトルとコンプレッサーを収納する

FF 車（前輪駆動）：
デッキアンダートレイに収納する

4WD 車（4 輪駆動）・スロープ車：
応急修理キット格納ボックスに収納し、運転席シートのうしろに収納する（→ P. 365）

25 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

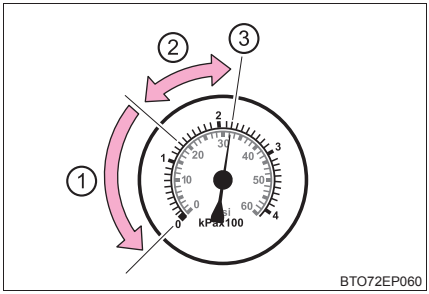
26 走行後、平坦な場所に停車し、コンプレッサーを接続する


BTO72EP059

27 コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：28 へ



BTO72EP060

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 400）の場合：29 へ

28 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 26 から実施する

29 コンプレッサーを収納する

FF 車（前輪駆動）：
デッキアンダートレイに収納する

4WD 車（4 輪駆動）・スロープ車：
応急修理キット格納ボックスに収納し、運転席シートのうしろに収納する（→ P. 365）

30 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

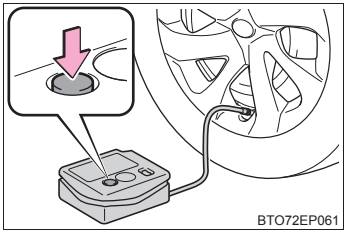
応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットについて

- ●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- ●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はボトルに表示されています。
  有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- ●外気温度が－ 45 ℃～ 80 ℃で保管してください。
- ●パンク補修液ボトル 1 本でタイヤ 1 本を 1 回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- ●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- ●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- ●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- ●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



2 空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

⚠警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- ●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- ●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- ●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- ●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- ●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- ●作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- ●破裂の危険があるので、コンプレッサーの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。
- ●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- ●コンプレッサーの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- ●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- ●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットを上下逆さまにして使用しないでください。故障の原因になります。

■応急修理キットについて

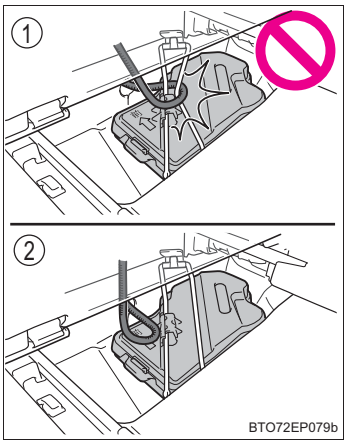
- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

■応急修理キットを収納するときは（4WD 車・スロープ車）

固定用のゴムがコードに引っ掛かった状態で応急修理キットを収納しないでください。
シートを調整した際などにコードが引っ張られ故障の原因になります。

①固定用のゴムがコードに引っ掛かった状態

②正しい組み付け状態



エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 168,171）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 168,171）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。（→P. 67）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 383）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 379）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 383）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジン スイッチをアクセサリーモードにする

4 エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

1 パーキングブレーキをかける

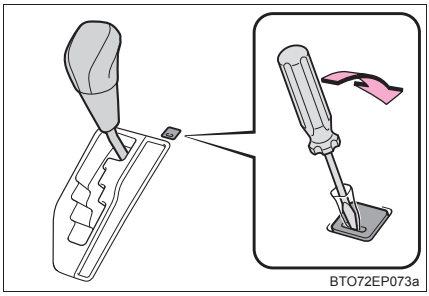
2 エンジンスイッチを“ACC”★またはアクセサリーモード★にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

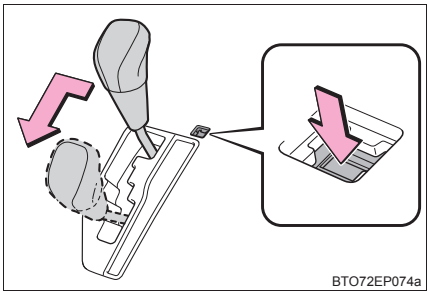
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。


BTO72EP073a

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO72EP074a

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

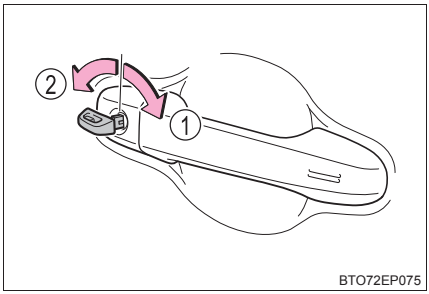
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 129）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 98）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

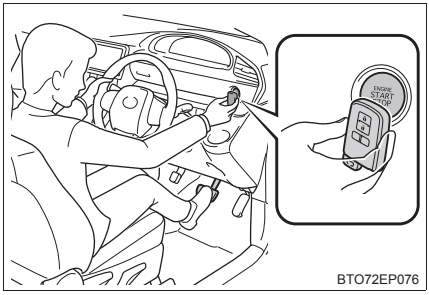


エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルをしっかり踏む

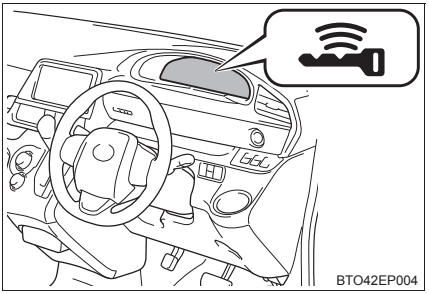
2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



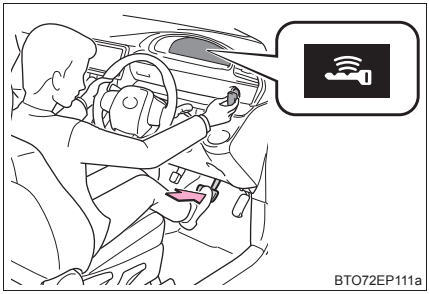
3 ブレーキペダルをしっかり踏む

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する
表示されないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 300)

■モードの切りかえ

エンジン始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 173)

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 402)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 127)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける

→ P. 285

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

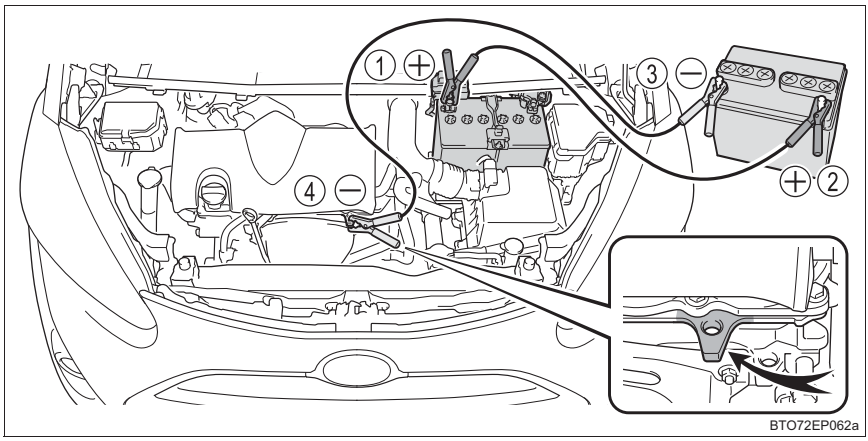
① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

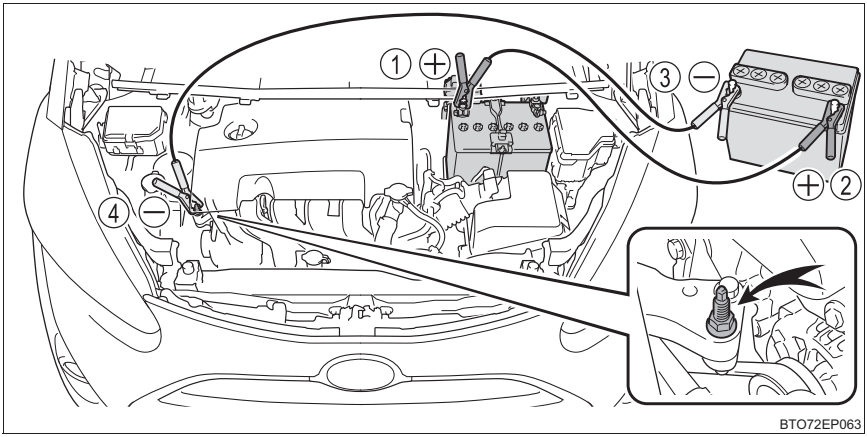
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”★、またはイグニッション ON モード★にしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。（Stop & Start システム★によるエンジン停止中を除く）
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は始動できないことがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーがあがったときの留意事項（Stop & Start システム装着車）

バッテリーがあがったり、または端子をはずしたあと、30 分から 60 分は Stop & Start システムは作動しないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーの交換について（Stop & Start システム装着車）

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 341）が点滅または点灯した（ドライブモニターディスプレイ装着車）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
- エンジン出力が低下した（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気がでる

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

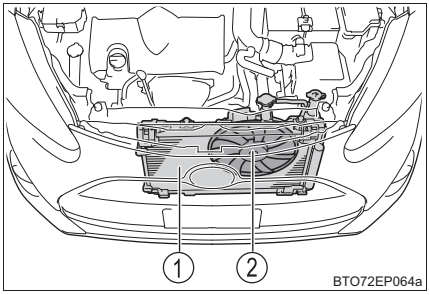
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

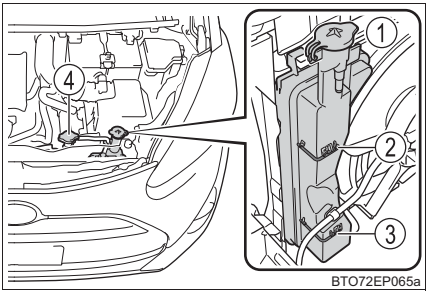
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

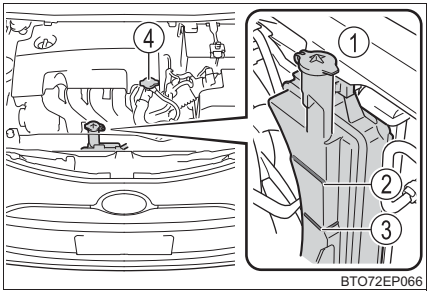
① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）
④ ラジエーターキャップ

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



BTO72EP065a

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

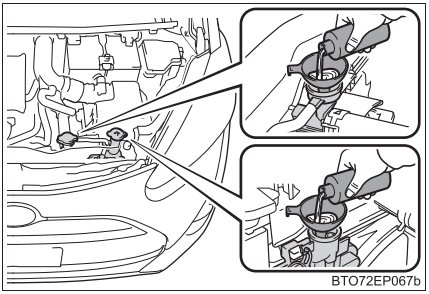


BTO72EP066

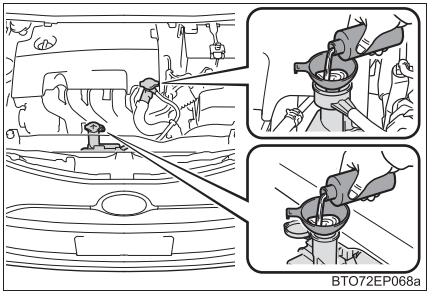
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 398）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車


BTO72EP067b

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車


BTO72EP068a

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

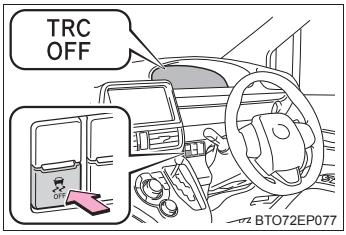
1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止する
2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
3 タイヤの下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

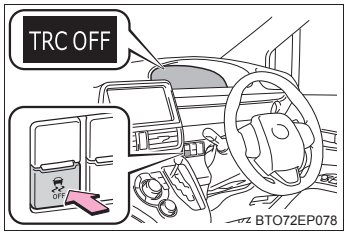
■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください

▶ドライブモニターディスプレイ装着車



▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....394
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....402
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....405

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	駆動方式	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	FF （前輪駆動）	42
	4WD （4 輪駆動）	45

※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正 キヤッスル モーターオイル 0W-16※2 —SAE 0W-16 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.4	3.6

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

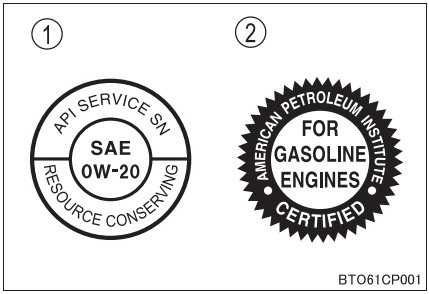
※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

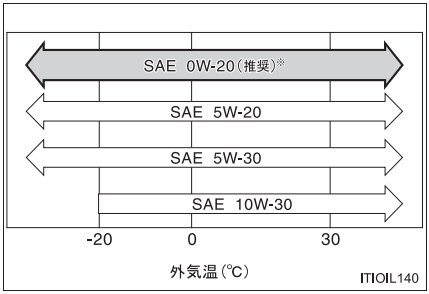
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

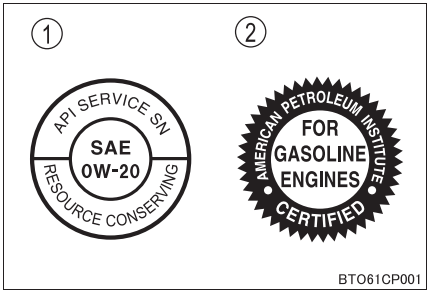
・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

トヨタキヤッスルモーターオイルまたは、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

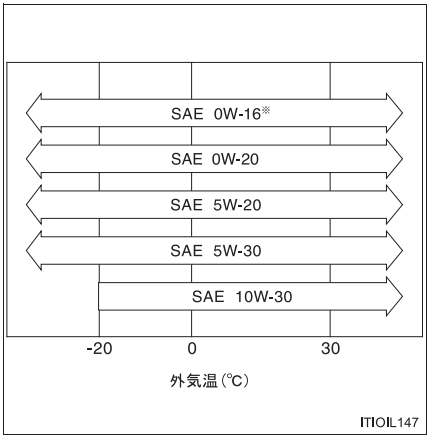
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	2NR-FKE	4.9
	1NZ-FE	4.7

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	2NR-FKE	7.47
	1NZ-FE	7.88

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX （API GL-5 SAE85W-90）	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE75W-85）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	77 以上

※ エンジン回転時に 294N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

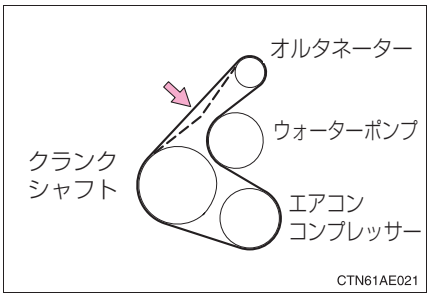
項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	6 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.3

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  押力 98N（10kgf）（冷間時）	2NR-FKE	自動調整
	1NZ-FE	12.5 ～ 13.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	185/60R15 84H	15 × 5 1/2J	240（2.4）	
	195/50R16 84V	16 × 6J		
応急用タイヤ★	T105/70D16 87M	16 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	 55 60
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	パーソナルランプ / フロントルームランプ	8
	リヤルームランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
シエンタ	NSP170G	2NR-FKE（1.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	NSP172G		
	NCP175G	1NZ-FE（1.5L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→ P. 126）

機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
ワイヤレス機能	あり	なし
作動の合図（ブザー）	あり	なし
作動の合図（ブザー音量調整）	5	レベル 0 ～ 7
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー	あり	なし
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限
キーの ボタンまたは、 ボタン★操作でパワースライドドアを開ける	スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：長押し	なし
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：単押し
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：2 回押し
		スライドドア施錠時・解錠時共に 2 回押し
		スライドドア施錠時・解錠時共に長押し

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→P. 101）
（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス機能	あり	なし
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
キーの ボタン操作でパワースライドドアを開ける★	スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：長押し	なし
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：単押し
		スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：2 回押し
		スライドドア施錠時・解錠時共に 2 回押し
		スライドドア施錠時・解錠時共に長押し

■ パワースライドドア★（→P. 111）

機能の内容	初期設定	変更後
インストルメントパネル内のパワースライドドアスイッチでスライドドアを開閉する	長押し	短押し
閉作動中のブザー	あり	なし
スライドドアハンドルスイッチの反応時間	0.3 秒	OFF
		0.5 秒
		0.8 秒

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 182）

機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度	0	レベル -2 ～ +2
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め

■ イルミネーション（→ P. 259）

機能の内容	初期設定	変更後
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
		30 秒
解錠後の作動	あり	なし
エンジンスイッチ“LOCK”後の作動（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）	あり	なし
エンジンスイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	あり	なし
検知エリア接近時の作動（スマートエントリー&スタートシステム装着車）	あり	なし

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P. 113

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....408
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....412
アルファベット順さくいん.....414
五十音順さくいん.....416

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 98）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 100）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 300）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときはエンジンスイッチを OFF にしてください(→ P. 172)
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 105, 129）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
  いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 111）

スライドドアが全開にならない

● 中間ストッパーがかかっていませんか？
給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 112）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

● シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 168）
● ステアリングロックされていませんか？（→ P. 169）
● バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 383）

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

● ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 171）
● シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 174）
● キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 126）
● ステアリングロックされていませんか？（→ P. 175）
● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 381）
● バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 383）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
  エンジンスイッチの位置が“ON”になっていますか？

  エンジンスイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 380）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  エンジンスイッチはイグニッションONモードになっていますか？

  エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 380）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車
  盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます（→P. 168）
- スマートエントリー&スタートシステム装着車
  盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P. 175）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P. 154）

エンジンスイッチが自動的にOFFになった（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→P. 174）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 412）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージ★が表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージ★が表示されたときは、P. 340, 348 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 352）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 362）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 391）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 127
	エンジンスイッチにキー★が挿してある	P. 169
	シフトポジションが P 以外になっている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 128, 345
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 184
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 128, 346
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 128
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 127, 128

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 103
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 344
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 344
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 163
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 199
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 207
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 217

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD
（4 ホイールドライブ）. 236
A/C
（エアコン）. 246, 251
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 235
ACC
（アクセサリー）. 168
AHB
（オートマチックハイビーム）. 213
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 235
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 401
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 396, 397

ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 42, 57
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）. 207
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 199
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 32
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. 235
TRC
（トラクションコントロール）. 235
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 235

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....383
アームレスト.....274
アイドリングストップ.....219
アイドリングストップ時間....227
Stop & Start System.....219
Stop & Start キャンセルスイッチ.....221
Stop & Start キャンセル表示灯.....72
Stop & Start 表示灯.....72
アウターミラー（ドアミラー）...152
操作.....152
アクセサリーソケット.....269
アクセサリーモード.....173
アシストグリップ.....272
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....235
アンテナ
スマートエントリー&スタートシステム.....126
ルーフアンテナ.....278

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）.....168, 171
位置交換（タイヤローテーション）.....289
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム.....67
イルミネーテッドエントリーシステム.....261
インジケーター（表示灯）.....72
インテリアランプ（室内灯）.....259
操作.....260
ワット数.....401
インナーミラー.....151

う

ウインカー（方向指示灯）.....180
電球（バルブ）の交換.....315, 321, 324
方向指示レバー.....180
ワット数.....401
ウインドウ.....154
ウォッシャー.....187, 189
パワーウインドウ.....154
リヤウインドウデフォッガー.....247, 253
ウインドウロックスイッチ.....154
ウインドシールドデアイサー.....247, 253
ウォーニングランプ（警告灯）.....70, 340
ウォッシャー.....187, 189
液の補充.....288
スイッチ.....187, 189
タンク容量.....399
冬の前の準備・点検.....241
動けなくなったときは（スタック）.....391
運転.....158
運転を補助する装置.....235
寒冷時の運転.....241
正しい運転姿勢.....24
手順.....158

え

エアコン 246, 251
　オートエアコン 251
　フィルターの交換 295
　マニュアルエアコン 246
エアバッグ 32
　SRS エアバッグ警告灯 340
　作動条件 37
　配置 32
エコドライブインジケーターランプ 72
LDA（レーンディパーチャーアラート） 207
エレクトリックパワーステアリング（EPS） 235
　機能 235
　パワーステアリング警告灯 341
　パワーステアリング警告ブザー 341
エンジン
　エンジンイモビライザーシステム 67
　エンジンがかからない（エンジンが始動できない） 378
　エンジン警告灯 340
　エンジンスイッチ 168, 171
　エンジンの始動方法 168, 171
　オーバーヒート 388
　ボンネット 285
エンジンオイル 394
　冬の前の準備・点検 241
　メンテナンスデータ 394
　油圧警告灯 340
　油圧警告ブザー 340
エンジンスイッチ 168, 171
　イグニッション 168, 171
　エンジンスイッチ 168, 171
エンジンフード（ボンネット） 285
　開け方 285
エンジンルーム
　エンジンルームから蒸気が出ている 388

お

オイル（エンジンオイル） 394
応急用タイヤ 352
　空気圧 400
　交換方法 352
オートエアコン 251
オートマチックトランスミッション 178
　操作 178
オートマチックハイビーム 213
オートレベリングシステム（ヘッドランプ） 184
　ヘッドランプオートレベリング警告灯 341
オーバーヒート 388
オープナー
　給油口 193
　ボンネット 285
お子さまを乗せるとき 41
　ウインドウロックスイッチ 154
　お子さまの安全のために 41
　子供専用シート 42
　シートベルトの着用 29
　チャイルドシートの取り付け 50, 57
　チャイルドプロテクター 111

オドメーター 74, 75
機能 74, 75
表示切りかえボタン 76, 78

か

カーテンシールドエアバッグ 32
カードホルダー 271
カーペット 22
洗浄 282
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 75, 80
外装の電球（バルブ） 306
交換要領 306
ワット数 401
買い物フック 270
カスタマイズ機能 88, 402
型式 401
カップホルダー 264
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウデフォッガー）
..... 247, 253
ガレージジャッキ 287
冠水路走行 166
寒冷時の運転 241

き

キー 96
エンジンが始動できない 378
キーナンバープレート 96
キーの構成 96
キーレスエントリー 101, 126
キーをなくした 98, 100
正常に働かない 381
解錠・施錠ができない 381
電子キー 96
電池が切れた 300, 381
メカニカルキー 98
ワイヤレスリモコン 101
キーレスエントリー 101, 126
スマートエントリー&
スタートシステム 126
ワイヤレスドアロック 101
給油 191
給油のしかた 191
緊急時シートベルト固定機構 29
緊急時の対処
エンジンが始動できない 378
オーバーヒートした 388
キーの電池が切れた 300, 381
警告灯がついた 340
けん引 334
故障したときは 328
シフトレバーが
シフトできない 380
車両を緊急停止する 332
スタックした 391
電子キーが正常に働かない 381
発炎筒 330
バッテリーがあがった 383
パンクした 352, 362

く

空気圧（タイヤ）..... 400
メンテナンスデータ 400
区間距離計
（トリップメーター）..... 74, 75
機能 74, 75
表示切りかえボタン 76, 78
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス..... 247, 253
リヤウインドウ
デフォッガー 247, 253
クラクション（ホーン）..... 149
クリアランスランプ（車幅灯）... 182
スイッチ..... 182
電球（バルブ）の交換
..... 316, 324
ワット数..... 401
クリップ
フロアマット..... 22
グローブボックス..... 263

け

警音器（ホーン）..... 149
計器類（メーター）..... 74, 75
警告灯..... 71, 340
照度調整..... 76, 80
ドライブモニターディスプレイ
..... 78
表示灯..... 72
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
メーター..... 74, 75
警告灯..... 71
ABS &ブレーキアシスト 341
SRS エアバッグ／
プリテンショナー 340
LED ヘッドランプ 343
エンジン 340
エンジンオイル圧力..... 340
オートレベリング..... 341
高水温 341
シートベルト非着用..... 342
車高調整インジケーター 343
充電..... 340
Stop & Start
キャンセル表示灯 341
スマートエントリー &
スタートシステム表示灯 345
スリップ表示灯..... 342
燃料残量 342
パーキングブレーキ未解除 342
パワーステアリング..... 341
半ドア 342
PCS..... 343
ブレーキ 340
ブレーキオーバーライド
システム／ドライブスタート
コントロール..... 341
マスターウォーニング..... 344
メンテナンス・点検..... 344
4WD..... 342

警告ブザー
高水温 341
シートベルト非着用 342
スマートエントリー&
スタートシステム 127, 345
パーキングブレーキ
未解除走行時 342
パワーステアリング 341
半ドア 103
半ドア走行時 105
ブレーキ 340
油圧 340
ランプ消し忘れ 184
リバース 179
化粧ミラー（バニティミラー） 268
けん引 334
けん引のしかた 334
フック 336

こ

交換
エアコンフィルター 295
キーの電池 300
タイヤ 352
電球（バルブ） 306
ヒューズ 303
フロントワイパー 298
工具（ツール） 352, 363
航続可能距離 79, 85
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 317
ワット数 401
子供専用シート 42
選択方法 42
取り付け方 50, 57
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 182

さ

サイドエアバッグ 32
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 324
方向指示レバー 180
サイドミラー（ドアミラー） 152
操作 152
坂道発進補助機能 221
サードシート 139
サンバイザー 268

し

シート 132, 133, 139
子供専用シート 42
サードシート 139
シートアレンジ 143
セカンドシート 133
正しい運転姿勢 24
調整 132, 133, 139
手入れ 282
フロントシート 132
ヘッドレスト 140
シートヒーター 257
シートベルト 32
お子さまの着用 29
緊急時シートベルト固定機構 29
シートベルト非着用
警告灯 342
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 26
手入れ 282
妊娠中の方の着用 30
シートベルトプリテンショナー 29
機能 29
プリテンショナー
警告灯 340

室内灯 259
操作 260
ワット数 401
始動のしかた 168, 171
シフトポジション 178
シフトレバー 178
シフトレンジの切りかえ 178
シフトロックシステム（解除ボタン） 380
操作 178
リバース警告ブザー 179
シフトレバーがシフトできないときは 380
締め付けトルク（ホイール） 359
ジャッキ
ガレージジャッキ 287
車載ジャッキ 352, 363
ジャッキハンドル 352, 363
車幅灯
スイッチ 182
電球（バルブ）の交換 316
ワット数 401
車両型式 401
車両仕様（スペック） 394
車両データの記録 7, 195
車両を緊急停止するには 332
ジュニアシート 42
瞬間燃費 80, 86
助手席アッパーボックス 263
仕様（車両仕様） 394

す

スイッチ
イグニッション 168, 171
ウインドウロック 154
ウインドシールドデアイサー 247, 253
ウォッシャー 187, 189
LDA 208
エンジンスイッチ 168, 171
オートマチックハイビーム 213
シートヒーター 257
Stop & Start キャンセルスイッチ 221
ステアリングスイッチ 275
ドアミラー 152
ドアロック 103
パワーウインドウ 154
PCS OFF 200
非常点滅灯（ハザードランプ） 329
VSC OFF 236
フォグランプ 186
ランプ 182
リヤウインドウデフォッガー 247, 253
ワイパー 187, 189
スタック 391
ステアリングホイール（ハンドル） 149
位置調整 149
スイッチ 275
ステアリングロック 169, 175
解除できないとき 169, 175
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 324
スノータイヤ（冬用タイヤ） 241
スピードメーター 74, 75

スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 400
交換方法 352
スペック（車両仕様） 394
スマートエントリー&
スタートシステム 126
アンテナの位置 126
エンジンの始動 171
カスタマイズ設定 402
警告ブザー 127
作動範囲 126
正常に働かないとき 381
節電機能 127
電波がおよぼす影響
について 131
ドアの解錠・施錠 101
Stop & Start System 219
アイドリングストップ時間 227
Stop & Start System 219
Stop & Start キャンセル
スイッチ 221
Stop & Start キャンセル
表示灯 72
Stop & Start システム 219
Stop & Start 表示灯 72
スモールランプ（車幅灯） 182
スイッチ 182
電球（バルブ）の交換
316, 324
ワット数 401
スライドドア 107
イージークローザー 112
スマートエントリー&
スタートシステム 109
ドアガラス 154
半ドア警告灯 342
パワースライドドア 111
ロックレバー 109
ワイヤレスリモコン 108

せ

清掃 278, 282
アルミホイール 279
外装 278
シートベルト 282
内装 282
制動灯
電球（バルブ）の交換 324
セカンドシート 133
積算距離計（オドメーター） 74, 75
機能 74, 75
表示切りかえボタン 76, 78
セキュリティインジケーター 67
センサー
前方センサー 195
ライトセンサー 183
洗車 278
前照灯（ヘッドランプ） 182
スイッチ 182
電球（バルブ）
の交換 309, 324
ライトセンサー 183
ランプ消し忘れ警告ブザー 184
ランプ消し忘れ防止機能 184
ワット数 401
先行車発進告知機能 217

そ

速度計（スピードメーター）
.....74, 75

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 180
電球（バルブ）
の交換.....315, 321, 324
方向指示レバー 180
ワット数..... 401
タイヤ..... 289
応急用タイヤ..... 352
空気圧..... 400
交換 352
締め付けトルク 359
点検 289
パンクしたときは 352, 362
ホイールサイズ 400
ローテーション
（位置交換）..... 289
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 391
タイヤチェーン..... 241
タコメーター 74, 75

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 241
チャイルドシート..... 42
ISOFIX バーでの取り付け..... 57
シートベルトでの固定..... 50
選択方法..... 42
チャイルドプロテクター 111
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....181
操作.....181
パーキングブレーキ未解除
警告灯 342
未解除走行時警告ブザー 342
メンテナンスデータ 399

つ

ツール（工具）.....352, 363

て

ディファレンシャル 398
手入れ.....278, 282
アルミホイール.....279
外装.....278
シートベルト 282
内装.....282
テールランプ（尾灯）.....182
スイッチ 182
電球（バルブ）の交換.....324
デッキアンダートレイ.....266
デッキフック.....267
デッキボード.....266
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....247, 253
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....306
ワット数 401
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....394

電子キー 96
作動範囲 126
正常に働かないとき 381
節電機能 127
電池が切れた 300, 381
電池交換 300
電池交換（キー） 300

と

ドア 101, 107, 121
スマートエントリー&
スタートシステム 126
チャイルドプロテクター 111
ドアガラス 154
ドアロックスイッチ 103
半ドア警告灯 342
半ドア警告表示 105
半ドア走行時警告ブザー 105
ロックレバー 104
ワイヤレスリモコン 101
ドアミラー 152
操作 152
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 67
時計 273
トップテザーアンカー 64
Toyota Safety Sense C 194
ドライブモニターディスプレイ 78
トラクションコントロール
（TRC） 235
トランスミッション 178
操作 178
メンテナンスデータ 398
トリップインフォメーション
..... 74, 75
トリップメーター 74, 75
機能 74, 75
表示切りかえボタン 76, 78

な

内装
収納装備 262
手入れ 282

に

荷物
積むときの注意 167

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした） 391

ね

燃費
瞬間燃費 80
平均燃費 80
燃料 394
給油 191
種類 394
燃料残量警告灯 342
容量 394
燃料計 74, 75

は

パーキングブレーキ 181
操作 181
パーキングブレーキ未解除
警告灯 342
未解除走行時警告ブザー 342
メンテナンスデータ 399

パーソナルランプ.....260
操作.....260
ワット数.....401
排気ガス.....66
ハイビーム（ヘッドランプ）.....182
オートマチックハイビーム....213
スイッチ.....182
電球（バルブ）の交換.....311
ワット数.....401
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....324
ハザードランプ（非常点滅灯）...329
スイッチ.....329
電球（バルブ）
の交換.....315, 321, 324
ワット数.....401
挟み込み防止機能
パワースライドドア.....113
パワーウインドウ.....155
発炎筒.....330
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....317
ワット数.....401
バックドア.....121
バッテリーがあがった.....383
バニティ（化粧用）ミラー.....268
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ）.....306
ワット数.....401
パワーウインドウ.....154
ウインドウロックスイッチ....154
閉めることができない
ときは.....155
操作.....154
挟み込み防止機能.....155
巻き込み防止機能.....155
パワーステアリング.....235
機能.....235
警告灯.....341
パンクした
応急用タイヤ装着車.....352
タイヤパンク応急修理キット
装着車.....362
番号灯
（ライセンスプレートランプ）...182
スイッチ.....182
電球（バルブ）の交換.....324
ワット数.....401
ハンドル
（ステアリングホイール）.....149
位置調整.....149
スイッチ.....275

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）.....235
ヒーター
オートエアコン.....251
シートヒーター.....257
マニュアルエアコン.....246
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....329
スイッチ.....329
電球（バルブ）
の交換.....315, 321, 324
ワット数.....401
尾灯（テールランプ）.....182
スイッチ.....182
電球（バルブ）の交換.....324
ヒューズ.....303
表示灯.....72
日よけ（サンバイザー）.....268
ヒルスタートアシスト
コントロール.....235

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方 383
フォグランプ 186
スイッチ 186
電球（バルブ）の交換 312
ワット数 401
ブザー
高水温 341
シートベルト非着用 342
スマートエントリー&
スタートシステム 127, 345
パーキングブレーキ
未解除走行時 342
パワーステアリング 341
半ドア 103
半ドア走行時 105
ブレーキ 340
油圧 340
ランプ消し忘れ 184
リバース 179
フック
買い物フック 270
けん引フック 336
デッキフック 267
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計）
..... 74, 75
フューエルリッド（給油口） 191
冬の前の準備（寒冷時の運転） ... 241
冬用タイヤ 241
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS） 199
機能 199
PCS OFF スイッチ 200
PCS 警告灯 343
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 236
警告ブザー 340
パーキングブレーキ 181
ブレーキ警告灯 340
メンテナンスデータ 399
ブレーキアシスト 235
ABS &ブレーキアシスト
警告灯 341
機能 235
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 163
ブレーキフルード 399
フロアマット 22
フロントシート 132
正しい運転姿勢 24
調整 132
手入れ 282
ヘッドレスト 140
フロントフォグランプ 186
スイッチ 186
電球（バルブ）の交換 312
ワット数 401
フロント方向指示灯 180
電球（バルブ）の交換 315
方向指示レバー 180
ワット数 401

へ

平均燃費 80, 84
ヘッドランプ 182
　スイッチ 182
　電球（バルブ）
　　の交換 309, 324
　ライトセンサー 183
　ランプ消し忘れ警告ブザー 184
　ランプ消し忘れ防止機能 184
　ワット数 401
ヘッドランプオートレベリング
　システム 184
　警告灯 341
ヘッドレスト 140
ベビーシート 42

ほ

ホイール
　交換（タイヤ） 352
　メンテナンスデータ 400
方向指示灯 180
　電球（バルブ）
　　の交換 315, 321, 324
　方向指示レバー 180
　ワット数 401
ホーン（警音器） 149
保証 9
ボトルホルダー 264
ボンネット 285
　開け方 285

ま

マスターウォーニング 344
マニュアルエアコン 246
マルチインフォメーション
　ディスプレイ 83

み

ミラー
　インナーミラー 151
　ドアミラー 152
　バニティミラー 268

め

メーター（計器類） 74, 75
　計器類 74, 75
　警告灯 71
　照度調整 76, 80
　ドライブモニター
　　ディスプレイ 78
　表示灯 72
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ 83
メカニカルキー 98
メンテナンスデータ 394

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 402
雪道ですべって動けない
　（スタックした） 391
油脂類 394

よ

4WD 236

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）..... 182
スイッチ..... 182
電球（バルブ）の交換..... 324
ワット数..... 401
ラゲージルーム
デッキアンダートレイ..... 266
デッキフック..... 267
デッキボード..... 266
ラジエーター
オーバーヒート..... 388
メンテナンスデータ..... 398
ランプ
室内灯..... 259
電球（バルブ）の交換..... 306
パーソナルランプ..... 260
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 329
フロントフォグランプ..... 186
ヘッドランプ（前照灯）..... 182
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 180
ライトセンサー..... 183
ランプ消し忘れ警告ブザー..... 184
ランプ消し忘れ防止機能..... 184
ルームランプ..... 260
ワット数..... 401
ランプ消し忘れ警告ブザー..... 184
ランプ消し忘れ防止機能..... 184

り

リヤアームレスト..... 274
リヤウインドウデフォッガースイッチ..... 247, 253
リヤシート..... 133, 139
リヤ方向指示灯..... 180
電球（バルブ）の交換..... 321
方向指示レバー..... 180
ワット数..... 401
リヤワイパー..... 189

る

ルームミラー（インナーミラー）..... 151
ルームランプ（室内灯）..... 259
操作..... 260
ワット数..... 401

れ

レーンディパーチャーアラート（LDA）..... 207
冷却水..... 398
水温警告灯..... 341
水温表示灯..... 72
冬の前の準備..... 241
メンテナンスデータ..... 398
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート..... 388
メンテナンスデータ..... 398
レバー
給油口..... 193
シフト..... 178
ハンドル位置調整レバー..... 149
方向指示..... 180
ボンネット解除..... 285
ロック（レバー）..... 104

ろ

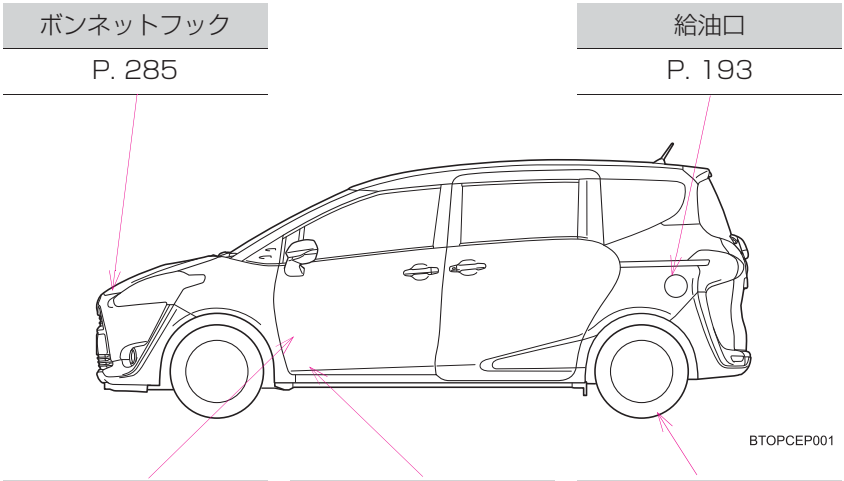
ロック
ウインドウロック 154
シフトロック 380
スマートエントリー&
スタートシステム..... 126
チャイルドプロテクター..... 111
ドア 101
ワイヤレスリモコン 101

わ

ワイパー&
ウォッシャー..... 187, 189
ワイパーゴムの交換..... 298
ワイパーブレード（寒冷地用）... 242
ワイヤレスリモコン..... 97
作動の合図..... 102
操作 101
電池の交換..... 300
半ドア警告ブザー 103
ワックス..... 278
ワット数..... 401

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	P. 394
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン　P. 394 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 400
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 1NZ-FE エンジン車：3.4L 2NR-FKE エンジン車：3.4L オイルとフィルター交換時 1NZ-FE エンジン車：3.7L 2NR-FKE エンジン車：3.6L
エンジンオイルの種類	P. 394, 395

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450 - 8711　　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

TOYOTA

M 52E49
01999－52E49
NAB-2015年 8 月12日
2015年 7 月 9 日 初版
2015年 8 月19日 2 版
シエンタ(ガソリン車)